

令和4年度

鹿児島学習定着度調査結果について
(令和5年1月調査)

学びの変革への挑戦
～未来へ生きる子供たちのために～

令和5年3月



鹿児島県教育委員会

昨年度調査との主な変更点

子供たちに力がより身に付くように!

教師の授業改善により生かされるように!

I よりよい調査問題へ!

学習指導要領が求める資質・能力を踏まえ、例えば全国学力・学習状況調査との関連をより図りながら、内容や「思考・判断・表現」に関する問題の出題数のバランスを変えるなどの見直しを行い、調査問題を作成しました!

□ 複数の資料から必要なデータを見だし、結論を導き出すことが求められる問題です。

□ 授業の対話場面を用いるなど、実際の授業を想起しやすいような内容の問題も出題しています。

※ 中学校第1学年数学の調査問題

1 図1の□に当てはまる数を書け。

2 図2の柱状グラフについて、正しいものを、次のア〜ウの中から1つ選び、記号で答えよ。
 ア 5冊以上20冊未満の本を借りた生徒の人数は6人である。
 イ 7月に本を26冊借りた生徒が必ず1人いる。
 ウ 中央値が含まれている階級は、20冊以上25冊未満の階級である。

3 7月の本の貸し出し冊数について、以下の二人の会話を読み、□に当てはまる数を書け。

しんじさん: 図2の柱状グラフから、20冊以上25冊未満の階級に多くの人数が集まっているように見えるから、平均値もこの階級に含まれているよね。

るり子さん: 本当にそうかといえるかな、実際に7月の本の貸し出し冊数の平均値を求めてみよう。
 平均値を求めるには、図1のグラフと図2のグラフから必要なデータを読み取って計算すれば求められそうだね。
 実際に求めてみると、平均値は□冊になるね。
 だから、20冊以上25冊未満の階級に平均値が含まれているとはいえないよ。

学校、教育委員会等が分析をより簡単にできるように!

子供たちが学びをより振り返られるように!

II より早い分析へ!より使いやすい個人票へ!

- 各学校等において、即座に結果分析が行えるよう、「集計表」を作成しました!
- 子供たちが全教科の結果を1枚のシートで振り返ることができるようになりました!
- 各学校において授業改善の参考となるよう、オンデマンド用解説動画を配信しました!

□ すべての教科、すべての学年(計14教科分)において「オンデマンド用解説動画」を県総合教育センター「学びの地図」のサイトにアップロードしました!

図形の面積の求め方
それぞれの図形の面積はいくらだろうか。

例えば、公式を用いる上で不要な辺や線分の長さを示した図を提示し、求めるために必要な情報を選び出す活動が考えられる。その際、上の図のように、方眼上の図形に示された長さを全て用いるのではなく、図形と求積公式とを関連付け、必要な情報を選び出し、面積を求めることができるようにすることが大切である。

令和4年度 鹿児島県学習定着度調査
個人票

教科	人数	正答数	誤答数	通過率
国語	19	5	0	78.2%
社会	20	7	0	74.1%
数学	16	3	0	84.2%
理科	19	5	0	78.2%
英語	20	3	0	87.0%

各教科の性別別用紙、解答用紙と、この個人票を使って、これまでの自分の学習の仕方を振り返ってみよう。
 ○ 今後、どんな問題をできるようにになりたいですか。
 ○ 今の学習の進め方を振り返るとどうはありましたか。等

□ 子供たちは1枚の「個人票」で「今後、どんな問題をできるようにになりたいか」、「学習を見直すところはないか」といった振り返りができるようになりました!

目次

I	調査の概要	1
II	結果の概要	3
III	児童生徒質問紙と学校質問紙の結果から	6
IV	結果の詳細について(授業改善のポイント)	
1	小学校第5学年	
	・ 国語	13
	・ 社会	16
	・ 算数	19
	・ 理科	22
2	中学校国語	25
3	中学校社会	31
4	中学校数学	37
5	中学校理科	43
6	中学校英語	49

I 調査の概要

1 趣旨・目的

学習指導要領において身に付けることが求められている基礎的・基本的な知識及び技能や思考力, 判断力, 表現力等に関する学力の状況を把握するとともに, 児童生徒の学習に関する意識や学び方などの学習状況を把握する。

また, 各学校に全県的な傾向との比較・分析などを通じて, 自校の課題を明確にさせ, 問題解決的な学習活動を取り入れるなど教員の指導法改善を図るとともに, 児童生徒の学力向上を図る。

2 調査の対象学年, 学級等

- (1) 県内全ての公立小学校第5学年, 中学校第1, 2学年の全学級の児童生徒を調査対象とする。ただし, 複式学級を有する学校においては, 履修していない内容を調査から除外して実施する。なお, 小・中学校における特別支援学級の児童生徒については, 該当学年の学習内容を履修していない教科・内容を調査から除外して実施する。
- (2) 特別支援学校においては, 該当学年の学習内容を履修している児童生徒を調査対象とする。

学校種	学年	実施校	調査児童生徒数
小学校(小学部)	第5学年	470校	13,198人
中学校(中学部)	第1学年	206校	12,295人
	第2学年	209校	12,228人

※ 本調査に関わる調査問題, 報告書等において, 義務教育学校の第7学年を中学校第1学年, 義務教育学校の第8学年を中学校第2学年, 義務教育学校の前期課程を小学校, 後期課程を中学校と読み替えることとする。

※ 調査対象学年に在籍者がいない学校は除く。

※ 調査児童生徒数は1教科でも学力調査を実施した児童生徒の総数を示す。

3 調査の内容

(1) 学力調査

主として「知識・技能」に関する内容と, 主として「思考・表現・表現」に関する内容で出題し, 調査対象教科の学力の定着状況(当該学年の12月終了程度までを範囲とする)について調査する。調査対象教科は以下のとおりである。

【小学校(小学部)】 第5学年 …… 国語, 社会, 算数, 理科

【中学校(中学部)】 第1, 2学年 …… 国語, 社会, 数学, 理科, 英語

(2) 学習状況調査(児童生徒質問紙)

質問紙により, 調査対象者の学習に関する意識や学び方などの学習状況について調査する。

(3) 学校質問紙調査

学力向上の取組, 校内研修の状況について調査する。

4 調査の実施時間

(1) 学力調査

小学校(小学部) 45分(調査票の配布・説明等5分, 調査時間40分)

中学校(中学部) 50分(調査票の配布・説明等5分, 調査時間45分)

(2) 学習状況調査(児童生徒質問紙)

小・中学校(小・中学部) 15分程度(調査票の配布・説明等5分程度, 調査時間10分程度)

5 調査の実施日

(1) 学力調査

令和5年1月17日(火)・1月18日(水)

(2) 学習状況調査(児童生徒質問紙)

令和4年11月21日(月)~12月16日(金)

6 調査の採点及び結果の集計・分析

(1) 各学校

自校の児童生徒の調査について採点・集計を行い, 集計結果をかごしま学力向上支援Webシステムに登録する。自校の調査結果については, 保護者に対して説明責任を果たすとともに, 集計表ファイルや, かごしま学力向上支援Webシステムの速報結果も参考にしながら, その後の指導方法等の改善に生かす。

(2) 各市町村教育委員会

自市町村の調査結果について, 集計表ファイルや, かごしま学力向上支援Webシステムの速報結果も参考にしながら, 自市町村の学力向上や指導法改善への取組に生かす。

(3) 県教育委員会

調査結果を集計・分析し, 県全体の学力の定着状況や学習状況について公表するとともに, 指導方法の工夫改善の参考となる資料等を作成し, 各学校に配布することにより, 各学校の学力向上への取組を支援する。

II 結果の概要

I 実施の状況

【学力調査】

本調査の全体の通過率を7割に設定し、調査問題を作成。

【学習状況調査】

児童生徒の学習に関する意識や学び方などに関する調査(質問紙)

【学校質問紙調査】

学力向上の取組, 校内研修の状況, 家庭・地域との連携等に関する調査



【実施校数】

小学校460校, 中学校196校, 義務教育学校9校, 特別支援学校6校, 県立1校

計672校

2 学力調査の結果(確定)

平均通過率[%]

[令和4年度] ※  は, 70%以上。  は, 65%以上70%未満。

		国 語	社 会	算数・数学	理 科	英 語
小5	全 体	70.9	77.5	67.4	71.7	
中1	全 体	70.4	68.4	70.9	63.2	75.7
中2	全 体	71.0	55.2	72.5	62.5	67.8

(参考)

[令和3年度]

		国 語	社 会	算数・数学	理 科	英 語
小5	全 体	72.3	79.9	70.6	73.1	
中1	全 体	73.6	70.3	66.0	69.4	71.5
中2	全 体	77.3	66.8	70.2	68.6	60.4

[令和2年度]

		国 語	社 会	算数・数学	理 科	英 語
小5	全 体	75.1	75.5	69.4	74.9	
中1	全 体	78.7	64.4	74.8	70.3	68.0
中2	全 体	76.7	67.6	67.0	70.8	57.8

[令和元年度]

		国 語	社 会	算数・数学	理 科	英 語
小5	全 体	73.6	72.2	76.7	81.2	
中1	全 体	79.6	64.9	71.3	64.8	67.9
中2	全 体	74.5	61.2	60.7	58.0	61.0

3 分析・考察

(1) 全体平均通過率から

本調査は全体の通過率を7割に設定しており、全体の通過率が7割を越えた教科は、昨年度は14教科中9教科、本年度は14教科中8教科でした。1教科少ない結果となったことは、昨年度と対象となる児童生徒が異なることや、前述のとおり、本年度から調査問題の内容や出題数の見直しを行ったこと等から一義的な評価は難しいものの、昨年度と同程度の結果となったことは、学習指導要領が求める資質・能力を意識した授業改善等が行われつつあると捉えることもできます。

いずれにしても、各学校及び教員においては、目の前の児童生徒一人一人が、どの問題がなぜできなかったのか、また、どの部分でつまづいたのかをしっかりと把握し、どのような授業を行えばよかったのか、そして今後どのような授業を行うべきなのかを振り返ることが重要です。併せて、児童生徒一人一人に対しても、正解できなかった問題の分析等を自ら行わせ、なぜ正解できなかったのか、どうすれば正解できたのか、どのような学習をすればよかったのか、今後学ぶ際にはどのような点に気をつければよいのか等、自らの学びを自らで振り返らせることが重要です。

このことが、次ページ以降に記載する「学習者主体の学び」への第一歩であり、その土台である「学びに向かう力、人間性等」の重要な要素を占める「メタ認知」を育むことにもつながります。さらに言う、これを行うことが、本調査の趣旨・目的であると言っても過言ではありません。必ず、こうした分析を、教員及び児童生徒自身が行い、次につなげるよう取組をお願いします。

(2) 各観点別の通過率から

次の表は、各教科、各学年において、主として「知識・技能」に関する内容と、主として「思考・判断・表現」に関する内容における平均通過率をまとめたものです。

これまでの鹿児島県の学力の現状として、主として「知識・技能」に関する内容と比べ、主として「思考・判断・表現」に関する内容における定着が十分でないことなど、学力がバランスよく身に付いていないといった課題が挙げられています（「令和4年度全国学力・学習状況調査鹿児島県結果分析」から）。今回の鹿児島学習定着度調査においても、主として「思考・判断・表現」に関する内容の通過率が5割台である教科・学年は14教科中6教科となっています。

こうした課題を解決していくためには、授業において、例えば、表・式・グラフ等の複数の資料から必要な情報を見だし、自分の考えとしてまとめる活動や、互いの考えを伝え合う対話的活動を通して自分の考えを振り返り、評価・改善する活動を行っていくなど、各教科における見方・考え方を働かせながら問題を解決していく授業づくりが求められます。

詳細については授業改善案も含めて各教科の分析のページ(P13～)において述べてあり、2次元コードを読み取ることで動画も視聴できるため、それらの資料を参考にして、授業において学力の三要素をバランスよく育ててほしいと思います。

【小学校第5学年】

	国語	社会	算数	理科
知識・技能	76.1	82.4	74.5	72.4
自校				
思考・判断・表現	65.1	67.7	55.6	70.7
自校				

【中学校第1学年】

	国語	社会	数学	理科	英語
知識・技能	77.5	70.6	80.5	68.2	74.9
自校					
思考・判断・表現	64.4	64.1	54.3	55.0	76.8
自校					

【中学校第2学年】

	国語	社会	数学	理科	英語
知識・技能	63.7	55.3	80.3	67.9	73.7
自校					
思考・判断・表現	75.9	54.2	61.0	52.3	58.4
自校					

それぞれの観点において、県通過率と自校の結果とを比較してみましょう。



Ⅲ 児童生徒質問紙と学校質問紙の結果から

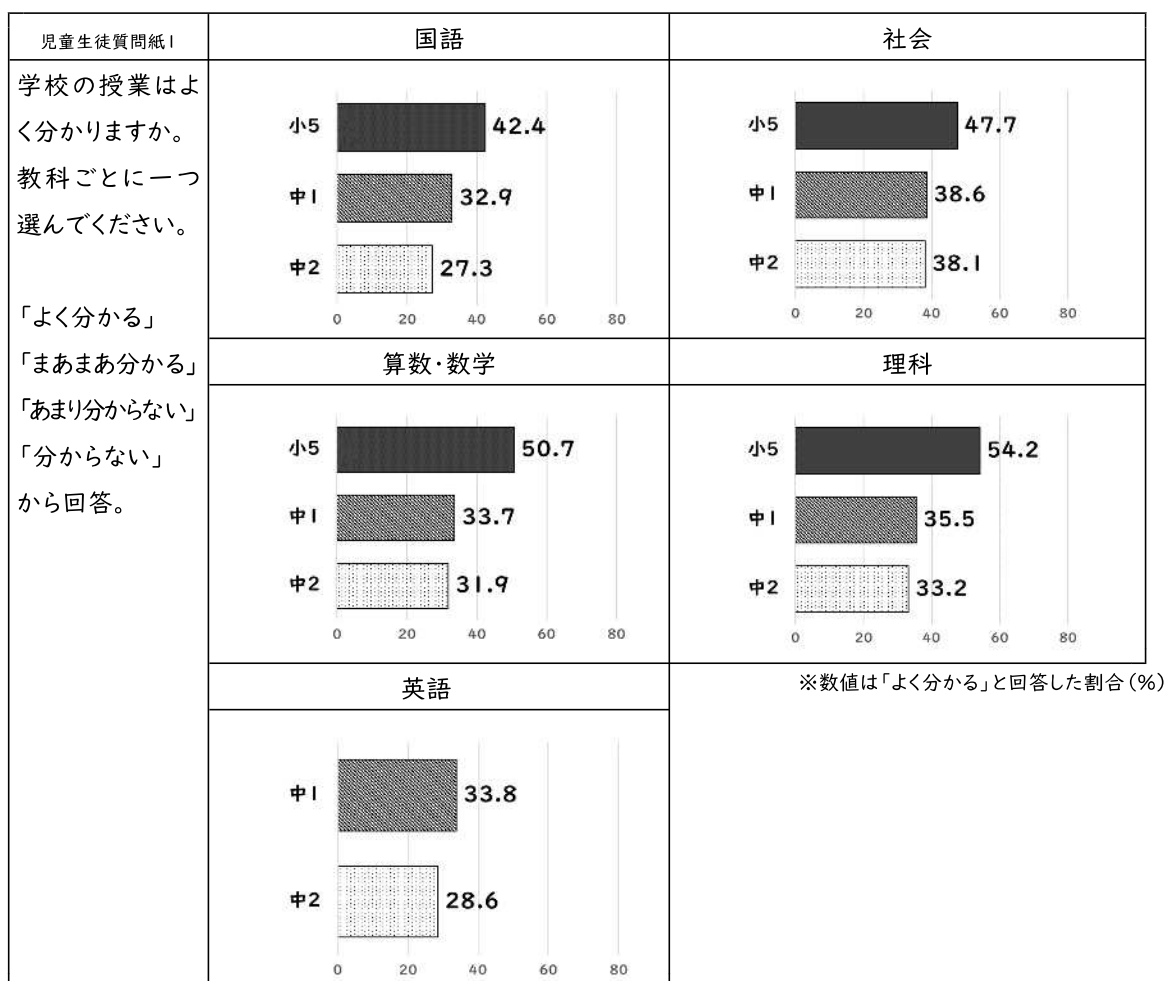
Ⅰ 子供たちは授業から取り残されていないか？

(1) 授業はよく分かる？

子供たちが学校で過ごす時間の大半は授業の時間です。この授業自体が「分からない」と、子供たちに必要な資質・能力が身に付かないのみならず、子供たちが学ぶこと自体が嫌いになったり、ともすれば登校する意欲を失ったりする可能性もあります。

そこで、今回の調査では、各教科ごとに、「授業はよく分かりますか。」と子供たちに聞いてみました。その結果、「よく分かる」と回答している子供は、小学校で4割～5割台、中学校になると、2割～3割台にとどまることが分かりました【図1】。この現状について、私たち教師は、どのように受け止めるべきでしょうか。また、全ての教科において、小5よりも中1、中1よりも中2と、学年が上がるごとに、「よく分かる」という回答をした子供は少なくなっています。このことは、年を重ねるごとに、子供たちが学びから「取り残されていく」「置き去りにされていく」ことを意味しているのではないのでしょうか。

私たち教師は、子供たちに「学び」を提供するプロフェッショナルであるはずですが、まずはこの結果を直視し、そして重く受け止め、一人一人が自分事として、これからの授業の在り方を見つめ直す必要があります。



【図1】 授業についての理解状況

(2) なぜ子供たちは「授業がよく分からない」と言うのか？

では、なぜ子供たちは、「授業がよく分からない」のでしょうか。目の前にいる一人一人の子供たち全員が「よく分かる」と実感する授業を行うためにはどうしたらいいのでしょうか。

当然のことですが、子供たちが40人いれば、誰一人として同じ子供はいません。40人いれば40通りの理解状況や定着度の子供がおり、また、得意な理解の方法や学習方法等もそれぞれ異なります。では、私たち教師は、このことをどの程度授業において意識できているのでしょうか。

教師が黒板に向かって「チョーク&トーク」により授業を進める一律・一斉・一方向型の授業では、どうしてもその指導法に合う子供は一部になります。子供の理解状況等によっては、教師の教え方が難しかったり、あるいは、学習内容が簡単だったりする可能性があります。また、他の視点からの説明や別の資料の提供等があれば、理解が進む子供もいるかもしれません。

ではどうすればよいのでしょうか。私たち教師自身が、「メタ認知」^{*1}、つまり、子供たちがどのような認知の状況にあり、また、どのような認知活動が得意なのか等、子供たちの認知の状況をよく把握し、授業の在り方を検討していく必要があります。すなわちこれは、「子供の学びの姿」に着目していこうということであり、教師が「何を教えたか」ではなく、子供たちが「何ができるようになったか」という、学習指導要領が求める資質・能力ベースでの授業改善を追究していくことにほかなりません。

大変難しい試みであるとは思いますが。しかし、「学び」を提供するプロフェッショナルとして、一律・一斉・一方向型の授業からの脱却に挑戦し、理想の「学び」の在り方を一緒に追究していきましょう。

2 これからの授業はどうあるべきか？

(1) 授業が変わりつつある！

【表1】は、本調査における授業に関する学校質問紙の調査結果と、令和4年4月に実施された全国学力・学習状況調査の調査結果との比較です。また、【表2】は同様の質問を、それぞれ児童生徒にも聞いたものです。

その結果、約1年前の調査と比較し、主体的な学びや協働的な学び、個別最適な学びに関する取組などが着実に進んできていることが分かります。また、今回の調査の結果では、子供たち自身も、主体的・対話的で深い学びの授業を実感しているような状況も見られつつあります。

例えば、全国学力・学習状況調査の結果と比べ、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができたか。」という設問において、小5では11.8ポイント、中1では13.7ポイント、中2では12.2ポイント増えていることが分かります。

*1 三宮(2022)による。「メタ認知」については自身の認知の状況を把握するという捉えだけでなく、他者の認知の状況を把握することも含まれる概念であると提唱している。例えば、「なぜよく間違えるのかを子供に気付かせるような指導を教師が行う際、子供が早合点してしまう癖があるといった認知特性についての知識を基に、判断し対応することができる」ことを例に挙げるなど、教師に特に求められる資質であると指摘している。

【表1 授業に関する学校への調査結果(全学調の県平均通過率との比較)】

学校質問項目	R5.1月 鹿学調 小学校(A)	R4.4月 全学調 小学校(B)	差(A-B)	R5.1月 鹿学調 中学校(C)	R4.4月 全学調 中学校(D)	差(C-D)
解決に向けて、自分で考え、自分からできていると思うか。【主体的な学び】	36.4	26.4	10.0	21.6	17.7	3.9
話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思うか。【協働的な学び】	37.3	18.4	18.9	30.0	14.4	15.6
習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫を行ったか。【指導方法改善】	47.6	34.6	13.0	30.0	23.9	6.1

※数値は「よく行った」「どちらかといえば行った」「あまりよく行かなかった」「行かなかった」という選択肢に「よく行った」と回答した割合(%)

【表2 授業に関する児童生徒への調査結果(全学調の県平均通過率との比較)】

児童生徒質問項目	R5.1月 鹿学調 小5(A)	R4.4月 全学調 小6(B)	差(A-B)	R5.1月 鹿学調 中1(C)	差(C-E)	R5.1月 鹿学調 中2(D)	差(D-E)	R4.4月 全学調 中3(E)
課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか。【主体的な学び】	29.1	27.8	1.3	22.7	-4.7	20.5	-6.9	27.4
話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができたか。【協働的な学び】	47.6	35.8	11.8	45.7	13.7	44.2	12.2	32.0
自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたか。【個別最適な学び】	40.4	38.0	2.4	24.6	5.8	19.1	0.3	18.8

※数値は「よく行った」「どちらかといえば行った」「あまりよく行かなかった」「行かなかった」という選択肢に「よく行った」と回答した割合(%)

これは、各学校で授業改善への取組や研究等が行われた結果、子供たち自身も「授業が変わった!」と実感できるほど、授業が変わってきつつあるということではないでしょうか。このことは、日頃の学校関係者及び行政関係者等の努力の成果であると考えます。

ただ、やはり依然として、数値そのものが低かったり、教師と子供たちの実感に差が見られたりする部分もありますので、その点については、しっかりと子供の学びへの実感へと還元されるよう、引き続き、授業改善等に努めていただければ幸いです。

(2) 指導方法の状況から見てくる課題とは?

【図2】は、小学校段階と中学校段階の授業における指導方法の状況についての調査結果です。この結果を見ると、中学校段階においては、小学校段階と比較すると、その取組状況に大きな差が見られ、その結果は、各種学力調査の結果等にも表れています。この状況は、本県において継続して見られるものであり、私たち本県教育関係者は本気で原因を究明し、具体的な行動へとつなげていく必要があります。

本調査の質問紙の結果等を通して、「自分で考え自分からは取り組んでいない」、「授業はよく分からない」という子供たちの姿が見えてきます。教師から見た「自分で考え自分から学んでいる」子供とは、一体どんな姿なのでしょう。下を向いて、一律・一斉・一方向的な教師の指示に従って、ただ黙々と板書を写す姿が、「自分で考え自分から取り組んでいる」姿ではないことは明らかです。

子供たちのため、確かな学力を身に付けさせるためにはどうすればよいか、学校全体でしっかり議論し、また、行政関係者は、学校や子供たちのためにどんな支援が必要かを考えていくことが大事ではないでしょうか。子供たちの一年は、二度とかえってこない貴重な一年であることを、私たち教師は改めて肝に銘じ、取組を確実に進めていく必要があります。

学校質問紙5	鹿学調	全学調
授業において、児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか。		
学校質問紙6		
授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか。		
学校質問紙7		
児童生徒のよい点や改善点等を積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにしましたか。		
学校質問紙9		
児童生徒に対して、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか。		

※質問5～7の数値は「よく行った」「どちらかといえば行った」「あまりよく行かなかった」「行わなかった」という選択肢に「よく行った」と回答した割合(%)
 質問9の数値は「よく活用している」「どちらかといえば活用している」「あまり活用していない」「全く活用していない」という選択肢に「よく行った」と回答した割合(%)

【図2 授業における指導方法】

(3) 「よくわかる授業」とはどのような授業なのか？

ア 授業づくりの出発点は？

「よく分かる授業」とは、一体どのような授業なのでしょう。「よく分かるようにするためには、教師が丁寧にじっくりと説明しなければならない!」。ともすれば、そのような考えをおもちになる方もいらっしゃるかもしれません。確かに、教師目線で考えるとそうかもしれません。しかし、一度学習者の視点で授業を見つめ直せば、「よく分かる授業」とは、子供たちそれぞれによって異なるものであることに気付くはずです。だからこそ、前述のとおり、一律・一斉・一方向型の授業から脱却する必要があります。

イ 個別最適な学びと協働的な学び

それでは、一律・一斉・一方向型の授業の“逆”の授業は何でしょうか。「一律」の対義語としては「多様」や「ばらばら」などが、そして「一斉」の対義語としては「別々」や「個々に」といったものが出てきます。また、「一方向型」の対義語としては「双方向」「相互的」などが出てきます。

これらを総括して考えると、一律・一斉・一方向型の授業の“逆”の授業とは、「個別最適な学び」と「協働的な学び」が一体的に行われる授業なのではないかと考えられます。

「個別最適な学び」については、子供の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法、教材や学習時間等を柔軟に設定するなどの「指導の個別化」と、教師が一人一人の子供に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供する「学習の個性化」を、学習者である子供の視点から整理したものです。

また、「個別最適な学び」が孤立した学びとならないよう、子供同士で、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者とともに「協働的な学び」を行うことも求められます。

こうした「個別最適な学び」と「協働的な学び」の前提となるのは、「学習者主体の授業」にほかなりません。

ウ 「学習者主体の学び」へ！

「個別最適な学び」を行うに当たっては、学習者である子供一人一人が自らの学びについて課題意識をもち、自らの方法で自らの学びを調整し、また、自らの学びを振り返りながら次への課題に取り組む、といった学びが展開されることが重要です。

また、「協働的な学び」を行うに当たっては、子供たちが互いの視点をもちより、課題解決に向けてよりよい解決策を探っていく学びが展開されることが求められます。

これらに共通して求められる子供の姿は、「主体的」であることです。すなわち、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の前提には、「学習者主体の学び」が必要となると言えます。

前述のとおり、本調査結果からは、こうした新しい学びの芽が、この1年間で県内の至るところで出てきていることが分かります。これは、調査対象学年や教科に限らず、全国学力・学習状況調査の結果を基に学校全体で共通実践や相互参観に取り組んだり、校内研修、短期研修講座、学力向上フォーラムや公開研究会などで学んだことを日々の授業に生かしたりと、これからの授業の在り方について真剣に考え悩みながら取り組んできた結果だと思います。

学校教育は大きな転換期に来ています。指導の成果を子供の姿で語れるよう、「子供は本来有能な学び手」であることに立ち返り、「学習者主体の授業」を一層展開していくことが必要です。この時代に子供たちの学びに関わることができると喜びを感じながら、一緒に、「学習者主体の授業」へと歩みを進めていきましょう。

3 学習者主体の学びを支える「学びに向かう力、人間性等」

(1) 非認知能力に関する調査結果から

こうした学習者主体の学びを支える上で特に重要なのは、「学びに向かう力、人間性等」です。「学びに向かう力、人間性等」は、自己肯定感、粘り強さ、挑戦心、メタ認知などが幅広く含まれるものであり、一般的に非認知能力と認識され、学びの土台となるものです。そこで、今回の本調査では、全国学力・学習状況調査で取り扱った質問項目と同じ項目について取り扱い、比較を行うこととしました。

全国学力・学習状況調査の結果（令和4年4月）と比較してみたところ、調査対象学年は異なりますが、本調査の結果（令和5年1月）では、ほとんどの項目で全国学力・学習状況調査の数値を上回りました【表3】。

特に、「粘り強さ」や「挑戦心」については、本調査を受けた小5の子供たちは、約1年前に全国学力・学習状況調査を受けた小6よりそれぞれ7.5ポイント、9.5ポイントと大きく上回っています。また、本調査を受けた中1は、約1年前に全国学力・学習状況調査を受けた中3よりそれぞれ4.3ポイント6.9ポイント、同様に、中2は、中3よりそれぞれ4.8ポイント、5.3ポイントと、上回る結果となりました。すなわち、調査対象学年は異なるものの、約1年前と比較し、「粘り強さ」や「挑戦心」等の非認知能力に関する質問に対し肯定的に回答した子供たちの割合が増えています。

(2) 考察

これは、約1年前の全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、各学校において、非認知能力の重要性を意識した上で、様々な取組を行ってきた成果の表れであると考えます。現に、義務教育課が学校訪問等を行った際にも、自己肯定感の育成を中核に据えた学校経営を行ったり、非認知能力の育成を目指した校内研修を行ったりするなどの取組が見られました。

こうした取組により、一人一人が学ぶことの意義を実感し、また、そのよさや資質・能力を伸ばせるよう、各教師による子供への声かけが変わってきたことも要因の一つとして考えられます。このほか、各学校関係者が、非認知能力を念頭に、鹿児島地域の力をフル活用しながら外部との連携を図ることによって、保護者や地域の方々の行動変容にもつながり、こうした多様な方々が子供たちに関わったことも、要因の一つとして考えられます。

このように、学校・家庭・地域が連携し、今、子供たちにどのような資質・能力が必要かを考え、ビジョンを共有しながら、一人一人の良さを伸ばせるよう取り組んできたことが、学力の土台となる「学びに向かう力、人間性等」を育むことにつながってきているのではないのでしょうか。

【表3 「学びに向かう力、人間性等」に関する児童生徒への調査結果】

令和4年度鹿児島学習定着度調査 質問項目	R5.1月 鹿学調 小5(A)	R4.4月 全学調 小6(B)	差(A-B)	R5.1月 鹿学調 中1(C)	差(C-E)	R5.1月 鹿学調 中2(D)	差(D-E)	R4.4月 全学調 中3(E)
自分によいところがあるか。【自己肯定感】	36.0	32.4	3.6	29.4	0.3	28.2	-0.9	29.1
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思うか。【自己肯定感】	44.6	38.8	5.8	35.3	3.2	34.1	2.0	32.1
自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしているか。【粘り強さ】	46.0	38.5	7.5	41.7	4.3	42.2	4.8	37.4
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦しているか。【挑戦心】	35.2	25.7	9.5	26.1	6.9	24.5	5.3	19.2
自分で計画を立てて勉強しているか。 【学びに向かう力】	30.1	24.1	6.0	19.5	5.1	15.1	0.7	14.4
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげているか。【メタ認知】	36.3	33.3	3.0	28.5	4.3	25.4	1.2	24.2

※数値は「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」という選択肢に「当てはまる」と回答した割合(%)

(3) 今後の展望

学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」は、子供たちが「どのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送るか」に関わる資質・能力であり、生きて働く「知識・技能」、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」という2つの柱を、どのような方向性で働かせていくかを決定付ける重要な要素です。

また、「学びに向かう力、人間性等」は、多様性を尊重する態度や協働する力、感性、やさしさや思いやりなども幅広く含み、「テストの点数等で測ることが可能な認知能力は時間が経つとなくなるものもあるが、非認知能力は一度身に付けると一生持続する。」^{*2}ともいわれています。

このように重要な要素である非認知能力に関し、子供たちが自信をもって肯定的に自己評価をしている姿を想像すると、大変頼もしく感じます。各学校等において行われつつある非認知能力の育成を図るための各種取組を更に充実させることで、子供たちがこれからの時代の変化を前向きに受け止め、社会や自分の人生をより豊かなものにしていくことができるよう、「学びに向かう力、人間性等」を育てていきましょう。

4 教師としての矜持を胸に

私たち教師は、今も昔も子供のことを中心に考え、教育という壮大な営みに携わり続けてきています。すべての子供たちが困難を乗り越え、幸せに生きていく力を身に付けてほしいという教師の願いは変わりません。そのような中、習熟の差を埋められない、子供の多様なニーズに応えられないなど、従来の指導を繰り返すだけではうまくいかないことが多くなっていると感じているのではないのでしょうか。

子供たちの未来は、今、まさに創られているところです。だからこそ、今、「学びの変革」へ挑戦する必要があります。変えるのは授業や子供に対する「考え方」です。変えていくことには不安や戸惑いも伴います。しかし変えていかなければなりません。

一緒に変えていきましょう。それが私たち教師の責任です。

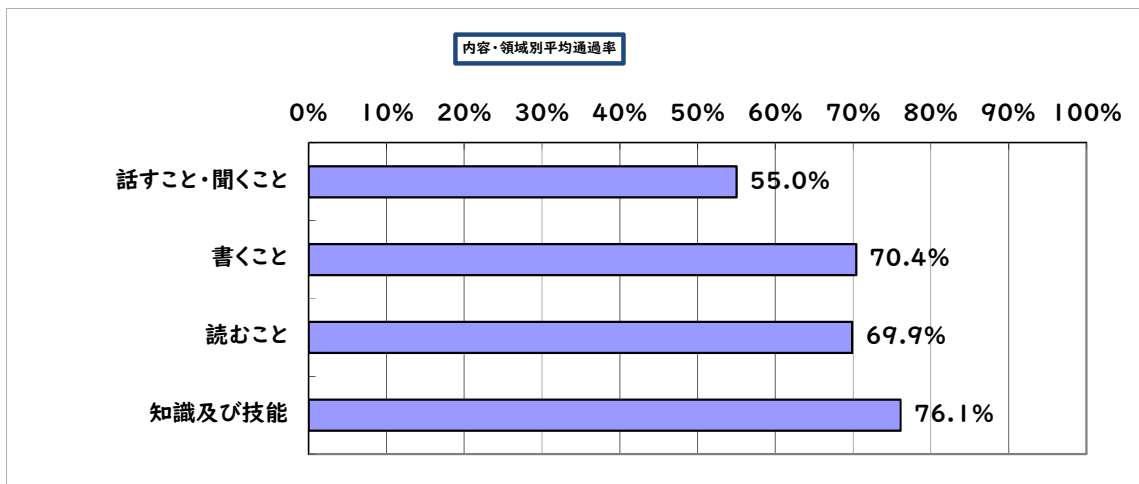
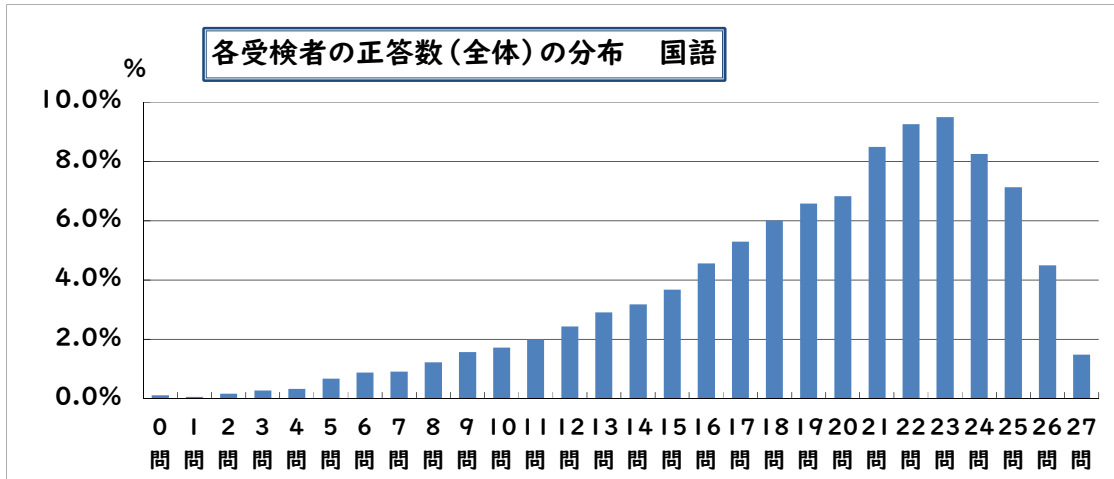
*2 中室(2015)による。著書『学力』の経済学」ディスカバー・トゥエンティワン。

IV 結果の詳細について(授業改善のポイント)

小学校第5学年【国語】

(1) 国語の平均通過率と受検者の正答数分布

学年別平均通過率		小5	中1	中2
	知識・技能	76.1%	77.5%	63.7%
	思考・判断・表現	65.1%	64.4%	75.9%
	全体	70.9%	70.4%	71.0%



- 「知識・技能」の通過率は76.1%で、8割に届きませんでした。が、「思考・判断・表現」は65.1%と6割を超え、授業改善が進みつつあることが分かります。
- 領域別に見ると「話すこと・聞くこと」に課題があることが分かります。その中でも大問4の「事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えることができるか。」を問う設問が通過率46.9%と低く、大問4の三「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現することができるか。」を問う設問の通過率が48.3%と低い状況です。
- 「読むこと」においては、大問2の三の「中心となる語や文を見付ける」問題の通過率が53.5%と低い状況です。

(2) 各設問の分類と平均通過率

国語(小学校第5学年)

	設問			出題学年	内容領域別				評価の観点		県平均		校内平均		出題の意図			
	大問	中問	小問		話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと	知識及び技能	知識・技能	思考・判断・表現	通過率	無解答率	通過率	無解答率				
1	1	一	1	小4 小2				○	○		89.2%	0.3%	0.0%	0.0%	学年別漢字配当表に示されている漢字を文や文章の中で正しく読んだり、書いたりすることができるか。 日常使われている簡単な単語についてローマ字で表記されたものを読んだり、書いたりできるか。 慣用句の意味を理解しているか。 文の中での主語と述語の関係について理解しているか。 文の中での修飾と被修飾の関係について理解しているか。 目的や場に応じて、適切な敬語を使うことができるか。			
2			2	小5				○	○		95.4%	0.1%	0.0%	0.0%				
3		二	1	小4				○	○		87.2%	1.2%	0.0%	0.0%				
4			2	小4 小1				○	○		72.9%	3.1%	0.0%	0.0%				
5		三		中学年				○	○		79.2%	1.0%	0.0%	0.0%				
6		四		中学年				○	○		87.4%	0.2%	0.0%	0.0%				
7		五		中学年				○	○		59.0%	0.1%	0.0%	0.0%				
8		六		中学年				○	○		50.2%	0.1%	0.0%	0.0%				
9		七		高学年				○	○		95.9%	0.1%	0.0%	0.0%				
10	2	一		中学年			○		○		71.8%	0.4%	0.0%	0.0%	事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができるか。			
11		二		低学年			○		○		84.5%	0.1%	0.0%	0.0%	内容の大体を捉えることができるか。			
12		三		中学年				○		○		53.5%	0.4%	0.0%	0.0%	中心となる語や文を見付けることができるか。		
13	3	一		高学年		○			○		93.4%	0.1%	0.0%	0.0%	図表やグラフ等を用いたりして、自分の考えが伝わるように、書き表し方を工夫することができるか。			
14		二		高学年		○			○		71.3%	0.1%	0.0%	0.0%	筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができるか。			
15		三		高学年		○			○		46.4%	0.2%	0.0%	0.0%	目的に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるか。			
16		四		高学年				○	○		44.4%	5.8%	0.0%	0.0%	敬体と常体との違いに注意して書くことができるか。			
17	4	一		高学年	○				○		46.8%	3.3%	0.0%	0.0%	事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えることができるか。			
18		二		高学年	○				○		69.9%	4.1%	0.0%	0.0%	目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討することができるか。			
19		三		高学年	○				○		48.3%	4.9%	0.0%	0.0%	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現することができるか。			
計				問題数	3	3	3	10	10	9	70.9%		1.3%		0.0%		0.0%	
				出題割合	15.8%	15.8%	15.8%	52.6%	52.6%	47.4%								

(3) 国語 <小学校第5学年>

ア 特徴ある問題から 大問4三

(小学校学習指導要領解説(国語編)[小学校高学年]A「話すこと・聞くこと」ウ P134 と関連)

学習指導要領解説には「資料を活用するとは・・・例えば、必要な文言や数値などを引用したり、実物や画像、映像などを用いたり、図解したものや重要な語句の定義付けなどを明示したりすることが考えられる。」とあります。そこで本問題では、単に一つの資料から根拠となる文言や数値を抜き出し、自分の考えをまとめる問題ではなく、複数の資料を取り上げ、出題しています。

複数の資料から考える問題は、全国学力・学習状況調査にもよく出題され、通過率も低い傾向があるため、出題した内容です。

鹿児島学習定着度調査 小5国語 大問4の三

資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現することができるか。

林さんは、じゅう医さんへのインタビューを終えて、【発表原稿の下書き】(10ページ)の □ に書き加えることにしました。あなたが林さんなら、どのように書き加えますか。次の条件に合わせて50字以上、80字以内で書きましょう。

<条件>

- ① 書き出しに続けて、その理由を書くこと。
- ② 【インタビューの様子】、【資料①】、【資料②】の中から、根拠となる言葉や文、数字等を取り上げて書くこと。
- ③ 数字を使うときは、漢数字にして書くこと。

問題は、左にあるような内容で、書かれてある【発表原稿の下書き】をよりよくするために、条件に合わせて書き換える問題です。

本問題における平均通過率は 48.3%、無答率が 4.9%となっています。

条件②にある「【インタビューの様子】、【資料①】、【資料②】の中から、根拠となる言葉や文、数字等を取り上げて書くこと」の条件を達成するのに困難さを感じている児童が多いのではないかと考えます。

原因として、授業の中で、この問題のように複数の資料を提示して、その中から考えの根拠となる文言や数値を抜き出して考えをまとめるような授業が十分になされていない可能性が考えられます。そこで、授業改善として、次のような工夫が考えられます。

イ 授業改善のポイント

授業の中に、複数の資料をどのように位置づけて授業を行うかが大事になります。

資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する。

グラフや表を用いて書こう『光村図書』P149

- ① ごみ問題、生活時間問題、人口問題、電話の加入数の推移の四つの問題の内、自分が取り組みたい問題を定める。
- ② 問題毎に小グループを作り、どんな意見が言えそうかを話し合う。
- ③ 小グループ毎に、関連しそうな資料を集める。
- ④ それらの資料から、どのような意見が言えそうかを考える。

複数の資料を基に、複数の視点で意見を構築する。

資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する。

グラフや表を用いて書こう『光村図書』P149

- ⑤ 話し合いを基に意見文を作る。
- ⑥ 意見文の推敲を行う。

(推敲の観点を明確にして指導する)
 複数の資料のどこを根拠として、どのように表現するか。(根拠を明確にして表現することができているか。)

- ③ 複数の資料を集められるように、ICT 機器や図書資料や新聞等、幅広く情報を集める時間を設定します。
- ④ 小グループにより、資料を集め、どの資料でどんな内容が説明できるかを検討する時間が大切です。

- ⑥ 意見文の推敲の際も、どの資料のどの部分を根拠として指し示し、伝えたい内容が書かれているかを観点に推敲させます。

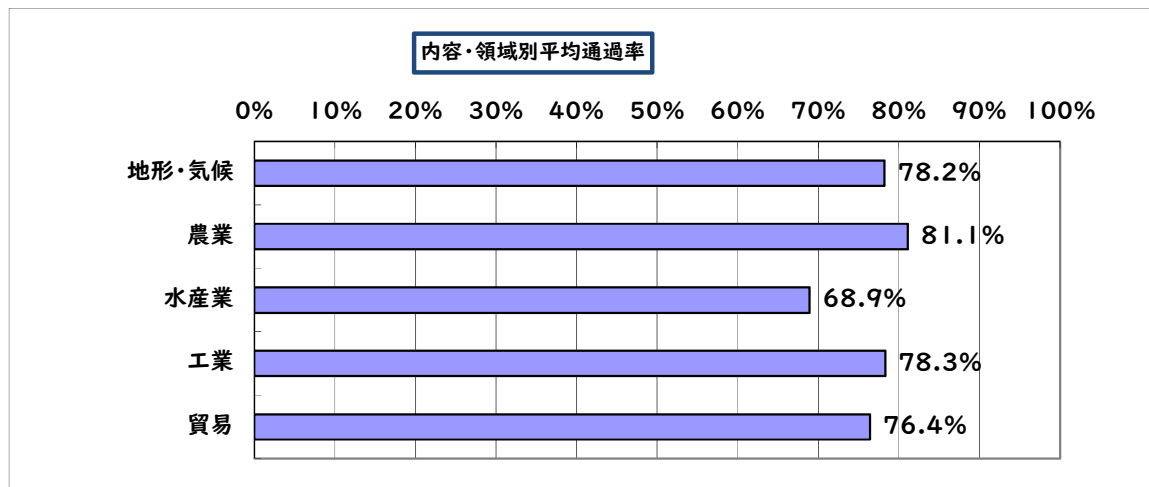
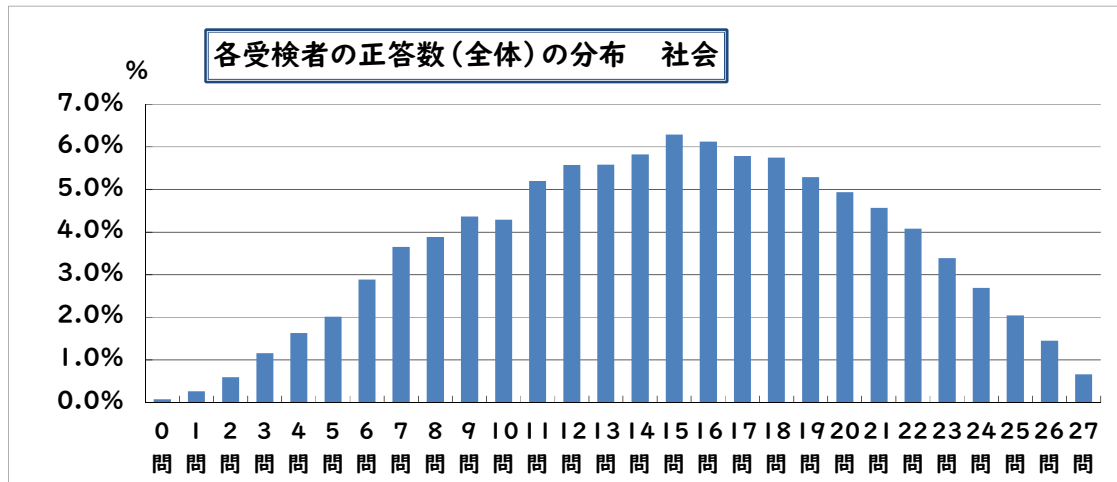
二次元コードを読み取り、「県総合教育センター『学びの地図』に掲載中の鹿児島学習定着度調査解説動画」を見てみよう!



小学校第5学年【社会】

(1) 社会の平均通過率と受検者の正答数分布

学年別平均通過率				
		小5	中1	中2
	知識・技能	82.4%	70.6%	55.3%
	思考・判断・表現	67.7%	64.1%	54.2%
全体	77.5%	68.4%	54.9%	



- 「知識・技能」に関する問題の平均通過率は82.4%と高く、定着が十分図られています。さらに地名と場所等を確実に定着させるために、定期的な復習を行うなど、工夫が必要です。
- 「思考・判断・表現」に関する問題の平均通過率は67.7%であり、雨温図の特徴を説明する問題(61.0%)や水産業において、資料から読み取り、自分の言葉で説明する問題(55.3%)の通過率が低くなっています。例えば、雨温図については、どこに着目すればいいかなど、ポイントとなる部分に児童が自ら気付けるような指導の工夫を行うことが大切です。
- 内容・領域別の通過率については、農業に関する内容の平均通過率が81.1%と高く、水産業に関する内容の平均通過率が68.9%とやや低い状況になっています。

(2) 各設問の分類と平均通過率

社会(小学校第5学年)

	設問				内容領域別					評価の観点		県平均		校内平均		出題の意図	
	大問	中間	小問	出題学年	地形・気候	農業	水産業	工業	貿易	知識・技能	思考・判断・表現	通過率	無解答率	通過率	無解答率		
1	1	(1)		小5	○					○		92.3%	0.6%			世界の大陸を正しく理解しているか。	
2		(2)		小5	○					○		75.6%	0.1%			我が国の領土やその位置について理解しているか。	
3		(3)		小5	○						○	68.5%	4.3%			日本が領土を守るこの意味を説明することができるか。	
4		(4)		小5	○					○		81.3%	1.6%			地球上の位置を表す仕組みを理解しているか。	
5	2	(1)		小5	○					○		96.2%	0.8%			日本の気候に影響を与える風を理解しているか。	
6		(2)		小5	○					○		75.8%	0.2%			日本の気候の特色を理解しているか。	
7		(3)		小5	○						○	61.0%	2.2%			日本海側の気候の特色を説明することができるか。	
8		(4)		小5	○					○		74.8%	2.3%			気候と農業の特色との関連を説明することができるか。	
9	3	(1)	①	小5		○				○		71.6%	1.0%			資料から正しい情報を読み取ることができるか。	
10			②	小5		○				○		86.5%	1.2%				
11		(2)	①	小5		○				○		84.6%	0.6%			米作りの作業時間の変化について、二つの年の差を読み取ることができるか。	
12			②	小5		○				○		81.8%	2.7%			米づくりの作業時間が短くなった理由について、二つの資料から読み取ったことを基に説明することができるか。	
13		(3)	①	小5		○				○		85.5%	1.7%			適切な資料を選択して、正しい情報を読み取ることができるか。	
14			②	小5		○				○		92.2%	1.9%				
15			③	小5		○				○		65.6%	5.6%				食料自給率を高めるための取組について、消費者の立場から説明することができるか。
16	4	(1)	A	小5			○			○		67.4%	2.9%			日本の主な海流の名称を理解しているか。	
17			B	小5			○			○		67.4%	2.8%				
18		(2)		小5			○			○		85.3%	0.6%			資料から正しい情報を読み取ることができるか。	
19		(3)		小5			○			○		55.3%	6.1%			持続可能な漁業を目指した取組について、資料から読み取ったことを基に説明することができるか。	
20	5	(1)		小5				○		○		85.2%	0.5%			工業生産に関わる人々の工夫を理解しているか。	
21		(2)		小5				○		○		70.3%	2.9%			自動車工場と関連工場の協力関係について、資料を基に説明することができるか。	
22		(3)		小5				○		○		59.0%	6.6%			現地生産の海外にとってのメリットについて説明することができるか。	
23	6	(1)		小5				○		○		89.8%	2.8%			工業がさかんな一帯の総称を理解しているか。	
24		(2)		小5				○		○		76.7%	2.5%			資料から正しい情報を読み取ることができるか。	
25		(3)		小5				○		○		89.0%	1.3%			人々の需要や社会の求めに合わせて工業製品が作られていることを理解しているか。	
26		(4)		小5					○	○		80.0%	1.4%			工業製品の輸送の特色を理解しているか。	
27		(5)		小5					○	○		72.7%	1.6%			2つの資料から正しい情報を読み取ることができるか。	
計				問題数	8	7	4	6	2	18	9						
				出題割合	29.6%	25.9%	14.8%	22.2%	7.4%	66.7%	33.3%						
												77.5%	2.2%	0.0%	0.0%		

(3) 社会 <小学校第5学年>

ア 特徴ある問題から 大問2 (3)

学習指導要領解説には、「我が国の地形や気候にはどのような特色があるか、人々は地形条件や気候条件をどのように生かしているかなどの問いを設けて調べたり、国土の位置と地形や気候を関連付けて国土の特色を考えたり、国土の自然環境と国民生活の関連を考えたりして、調べたことや考えたことを表現することである。」とあります。そこで本問題では、単に気候の特色を答えるだけの問題ではなく、3つの雨温図から、上越市を表している雨温図を選択し、上越市の気候の特色を説明する問題を出題しています。

その際、上越市の人々の生活と環境を学習する中で、冬に雪が多く降るという事実を学習していることを踏まえて、また、雨温図からもその特徴を読み取って、該当する雨温図を選択し、その理由を説明することができる思考力・判断力・表現力が図られるよう、出題しています。

13 資料2は、三つの都市の気温と降水量を表したグラフです。資料1を参考に、新潟県上越市の気温と降水量を表したグラフを次のア～ウから選び、記号で書きましょう。また、そのように考えた理由を、の中に書きましょう。

(資料2) 各都市の気温と降水量

都市	平均気温 (°C)	年間総降水量 (mm)
ア	9.2	1241.7
イ	3.6	2755.3
ウ	23.1	2640.8

記号

理由



二次元コードを読み取り、「県総合教育センター『学びの地図』に掲載中の鹿兒島学習定着度調査解説動画」を見てみよう!

本問題における平均通過率は 61.0%となっています。原因としては、各地の気候の特色についての学習がそれぞれ単独で行われ、2つの場所の気候を比べる学習が不足していることが考えられます。そこで、授業改善としては、次のような工夫が考えられます。

イ 授業改善のポイント

7 提案

雨温図の読み取り方 5つのキーワードを意識させましょう。

キーワード	折れ線グラフ	棒グラフ
1 平均	・平均気温は何度?	・平均降水量は何mm?
2 高い(多い)	・最も気温が高いのは何月?	・最も降水量が多い月は何月?
3 低い(少ない)	・最も気温が低いのは何月?	・最も降水量が少ない月は何月?
4 差	・最も気温が高い月と低い月との差は何度くらい?	・最も降水量が多い月と少ない月との差は何mmくらい?
5 特徴	・気温の変化にはどんな特徴があるか?	・降水量にはどんな特徴があるか?

◎ まず、人々の生活と環境を学習する中で、その土地の気候の特色を捉えさせます。

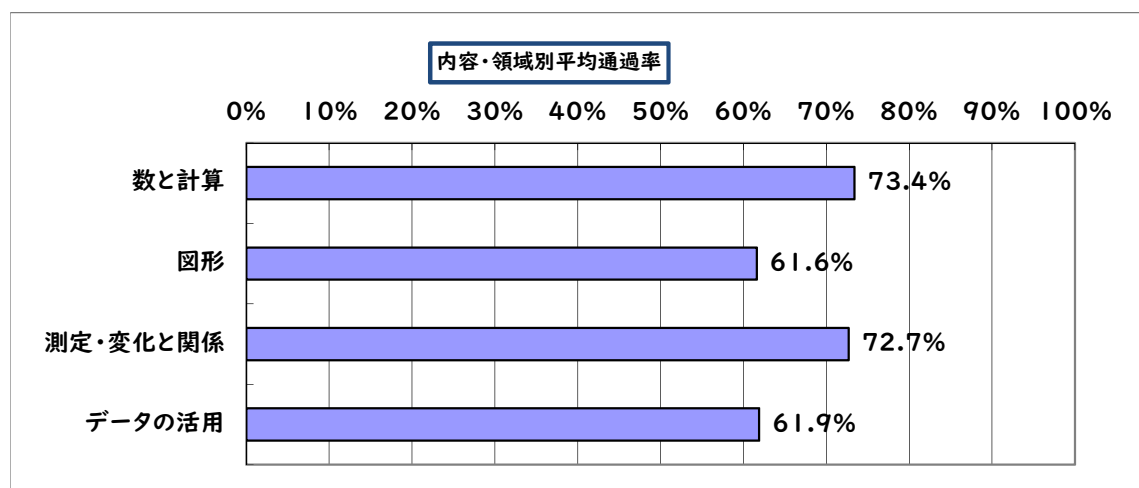
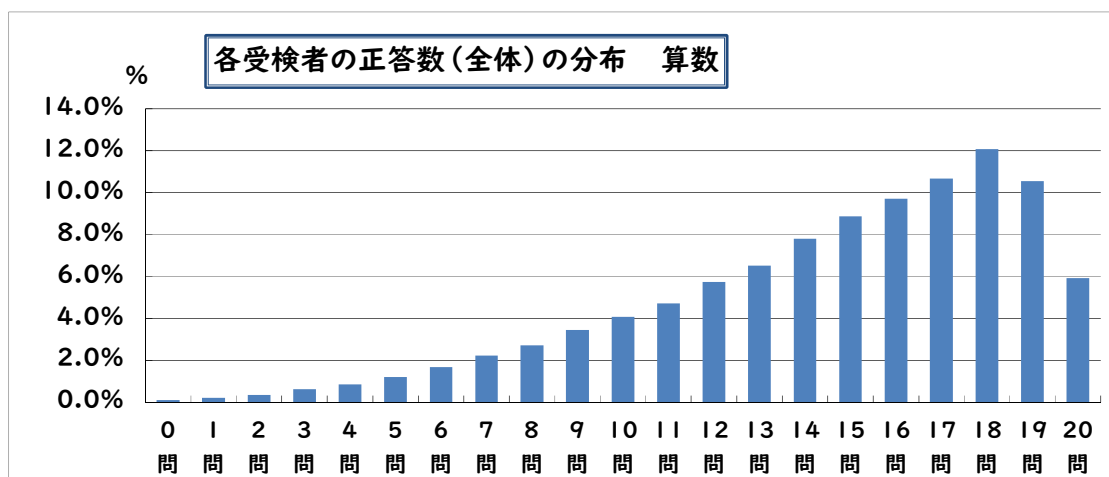
○ 次に、雨温図では、左記の読み取り方のポイントを確認しながら学習すると理解が深まります。(算数において、グラフの学習をします。社会ではグラフの特徴を読み取ります。)

○ さらに、(気温と降水量の関係から)その場所の気候にはどんな特徴があるのかをまとめたり、他の場所の気候と比較したりするなどして定着を図ります。

小学校第5学年【算数】

(1) 算数の平均通過率と受検者の正答数分布

学年別平均通過率				
		小5	中1	中2
	知識・技能	74.5%	80.5%	80.3%
	思考・判断・表現	55.6%	54.3%	61.0%
全体	67.4%	70.9%	72.6%	



- 「知識・技能」に関する問題の通過率は74.5%です。除法の意味を理解しているかを問う問題が51.1%、図形の性質や構成要素に着目し、他の図形を構成する問題が51.0%、棒グラフから項目間の関係を読み取る問題が65.7%であり、課題となっています。
- 「思考・判断・表現」に関する問題の通過率は55.6%です。図形の面積を求める説明を記述できるかを問う問題が47.7%、速さを求める式と答えを基に、どちらが速いか考察する問題が55.7%、1人あたりのごみを出した量の増減を判断し、その理由を記述する問題が50.4%、2つの棒グラフを比べ、変化の様子を正しく判断し、記述する問題が46.3%であり、課題となっています。
- 授業の中で、基本図形の面積の求め方を、図形を構成する要素などに着目して、既習の求積可能な図形の面積の求め方を基に考えたり、説明したりする活動や、縦軸の目盛りが違う2つのグラフを作成したり、特徴を読み取ったりする活動を積極的に取り入れる必要があります。

(2) 各設問の分類と平均通過率

算数(小学校第5学年)

	設問			出題学年	学習指導要領の領域				評価の観点		県平均		校内平均		出題の意図
	大問	中問	小問		数と計算	図形	測定変化と関係	データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	通過率	無解答率	通過率	無解答率	
1	1	(1)		小3	○				○		97.0%	0.2%			整数の除法を計算することができるか。
2		(2)		小5	○				○		80.9%	0.4%			1にあたる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解し、数直線上に表すことができるか。
3		(3)		小5	○				○		51.1%	0.3%			示された除法の式の意味を理解しているか。
4		(4)		小5	○				○		64.7%	5.8%			示された考えを基に数の相対的な大きさを用いて、小数の除法を整数の除法に直して処理する方法を記述できるか。
5	2	(1)		小4		○			○		51.0%	0.5%			図形の性質や構成要素に着目し、他の図形を構成することができるか。
6		(2)		小4		○			○		70.1%	0.2%			四角形の対角線の性質を、正しく理解しているか。
7		(3)		小5		○			○		77.6%	0.2%			複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べることができるか。
8		(4)		小5		○			○		47.7%	3.0%			示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できるか。
9	3	(1)		小3			○		○		81.4%	2.1%			条件に合う時刻を求めることができるか。
10		(2)		小3			○		○		69.0%	4.2%			二つの道のりの差を求めるために、必要な数値からその求め方と答えを記述できるか。
11		(3)		小5			○		○		84.5%	1.5%			速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係を用いてかかる時間を求めることができるか。
12		(4)		小5			○		○		55.7%	0.7%			速さを求める式と答えを基に、どちらが速いか考察することができるか。
13	4	(1)		小4			○	○			85.3%	4.0%			棒グラフから数量を読み取ることができるか。
14		(2)		小4			○	○			65.7%	0.5%			棒グラフから項目間の関係を読み取ることができるか。
15		(3)		小4			○		○		50.4%	2.6%			資料の特徴や傾向を関連付けて、1人あたりのごみを出した量の増減を判断し、その理由を記述することができるか。
16		(4)		小4			○		○		46.3%	5.4%			2つの棒グラフを比べ、それぞれの変化量を読み取り、変化の様子を正しく判断し、記述することができるか。
計				問題数	4	4	4	4	10	6					
				出題割合	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	62.5%	37.5%					
											67.4%	2.0%	0.0%	0.0%	

(3) 算数 <小学校第5学年>

ア 特徴ある問題から 大問2 (4)

(小学校学習指導要領解説(算数編)[第5学年]P257 B「図形」(3)イ(ア)と関連)

学習指導要領解説には「図形を構成する要素などに着目して、既習の求積可能な図形の面積の求め方を基に考えたり、説明したりすることが大切である。」とあります。そこで本問題では、単に与えられた図形の面積を求めるだけの問題ではなく、図形の面積の求め方について、子供たちが説明したり、式の意味を読み取り説明したりする場面を取り上げ、出題しています。その際、見方・考え方を働かせることができるよう、(1)では、あえて方眼紙の上に置いていない直角三角形を提示したり、あえて補助線はひいていない図形を提示したりしています。

2 次の図1のように直角三角形が2つあります。

図1

(1) 図1の2つの直角三角形を、ずらしたり、回したり、うら返したりして、同じ長さの辺どうしを合わせ、いろいろな形をつくります。どのような形をつくることができますか。下のア～エまでの中から1つ選んで、□の中にその記号を書きましょう。

【そうたさんの説明】

ぼくは、右の図のように、図2の三角形アイを2つ使って、同じ長さの辺どうしを合わせてつくることのできた図形をもとに考えました。つまり、底辺が6 cm、高さが8 cmとして、面積を求めました。

$$6 \times 8 = 48$$

$$48 \div 2 = 24$$

だから、面積は24cm²です。

ひろみさんは、【そうたさんの説明】の「 $48 \div 2$ 」が、どのようなことを表しているかを、下のよう説明しました。

そうたさんの説明の「 $48 \div 2$ 」の48は、平行四辺形の面積を表していますね。だから、 $48 \div 2$ は、平行四辺形の面積の半分を求めることを表しているのですね。

なるほどね。わたしは、そうたさんの求め方とは別の求め方で考えました。

$$(6 + 3) \times 8 \div 2 = 36$$

$$3 \times 8 \div 2 = 12$$

$$36 - 12 = 24$$

そうたさんと同じで、面積は、24cm²になりました。

ゆりさんの求め方の「 $36 - 12$ 」は、どのようなことを表していますか。「36」と「12」がどの図形の面積を表しているか、わかるように説明しましょう。下の□の中にあてはまる言葉を書きましょう。

36は、三角形アイエの面積を表しています。

12は、□の面積を表しています。

だから、 $36 - 12$ は、□の面積を表しています。

本問題における平均通過率は47.8%となっています。原因として、いろいろな特徴がある図形で底辺と高さとの位置関係を考える授業や、式が何を意味しているかを読み取る活動を取り入れた授業が十分になされていない可能性が考えられます。そこで授業改善として、次のような工夫が考えられます。

イ 授業改善のポイント

図形の面積の求め方

それぞれの図形の面積はいくらだろうか。

図形の面積の求め方

それぞれの図形の面積はいくらだろうか。

公式を用いる上で不要な辺や線分の長さを示した図を提示し、求積のために必要な情報を選び出す活動が考えられます。その際、上の図のように、方眼上の図形に示された長さを全て用いるのではなく、図形と求積公式とを関連付け、必要な情報を選び出し、面積を求めることができるようにすることが大切です。

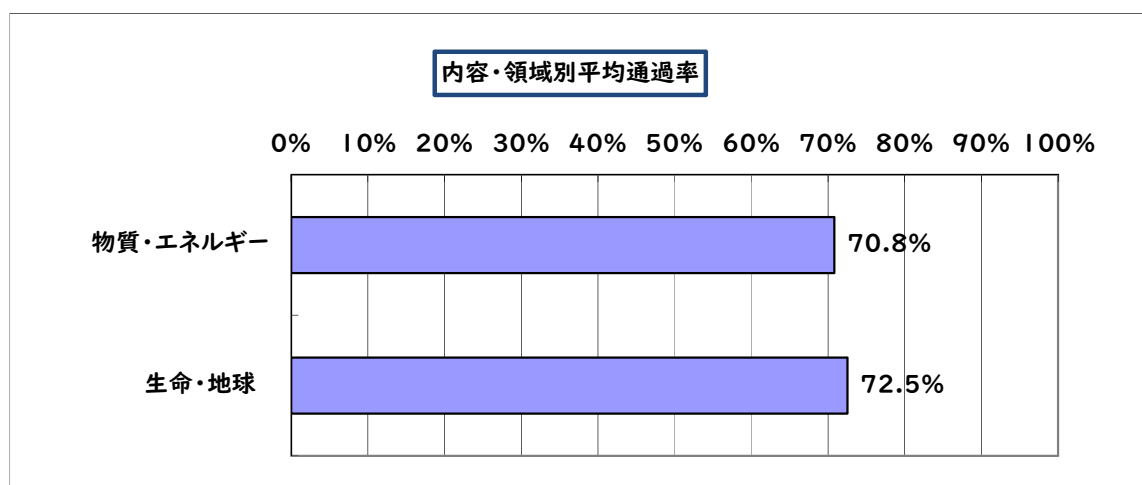
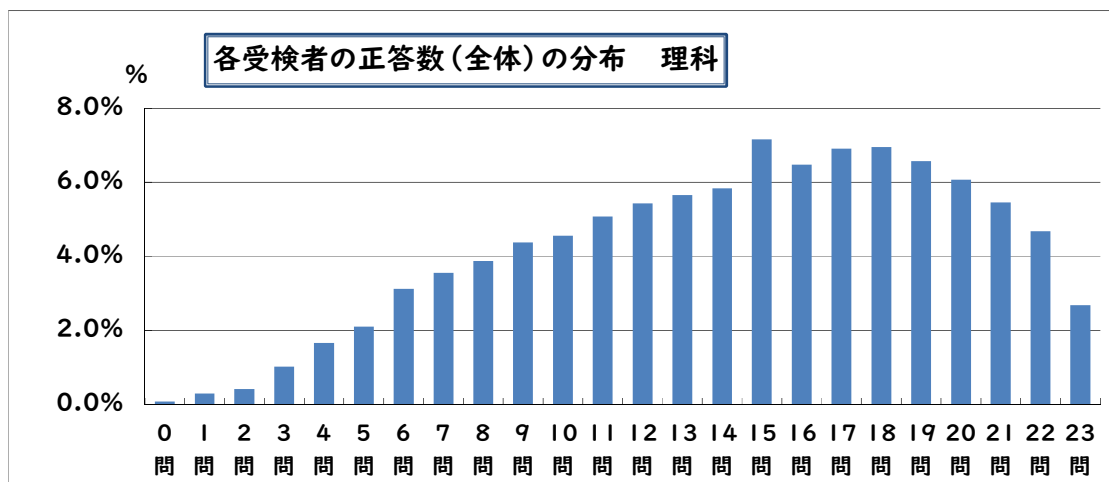
扱っている図形は、常に水平な辺が底辺である図形ばかり扱うのではなく、上の図の方眼上の三角形や平行四辺形のように、水平になっていない辺を底辺としている場合についても意図的に取り扱うことが大切です。その上で、式が何を表しているのかを児童相互に読み取り、互いの考えを発表し合う活動を取り入れる工夫が考えられます。

二次元コードを読み取り、「県総合教育センター『学びの地図』に掲載中の鹿児島学習定着度調査解説動画」を見よう!

小学校第5学年【理科】

(1) 理科の平均通過率と受検者の正答数分布

学年別平均通過率		小5	中1	中2
	知識・技能	72.4%	68.2%	67.9%
	思考・判断・表現	70.7%	55.0%	52.3%
	全体	71.7%	63.2%	62.5%



- 「知識・技能」の平均通過率は72.4%で概ね良好であるが、小3の学習内容である大問7(2)の方位磁針の使い方に関する問いの通過率が48.7%と低くなっています。小3での学習後も、方位磁針を使う場面で技能の習得を意識し、繰り返し使用させる必要があります。
- 「思考・判断・表現」の平均通過率は70.7%で概ね良好であるが、大問3(2)の乾電池のつなぎ方による電流の大きさと向きに関する問いの通過率が52.1%となっています。児童が苦手な分野ですが、昨年度の類題より+3.2ポイント上回っており、少しずつ改善が見られつつあります。
- 内容・領域別の通過率については、両領域とも70%を上回り概ね良好です。今後も日常的に理科の見方・考え方を働かせながら、身の回りの現象を考えていくことが必要です。

(2) 各設問の分類と平均通過率

理科(小学校第5学年)

	設問			出題学年	内容領域別		評価の観点		県平均		校内平均		出題の意図
	大問	中間	小問		A 物質・エネルギー	B 生命・地球	知識・技能	思考・判断・表現	通過率	無解答率	通過率	無解答率	
1	1	1		小3	○		○		93.0%	0.2%			はね返した日光を重ねるほど、日光が当たったところは暖かくなることを理解しているか。
2		2		小3	○		○		62.9%	1.2%			糸電話の音が伝わらなくなった要因について、物のふるえ方に着目して考えることができていますか。
3	2	1		小4	○		○		66.5%	0.3%			金属や空気の温まり方について理解しているか。
4		2		小4	○		○		83.1%	0.5%			目に見えない気体の状態になった水が水蒸気であることを理解しているか。
5	3	1		小4	○		○		55.5%	0.3%			並列つなぎの回路に流れる電流の向きと大きさを理解しているか。
6		2		小4	○		○		52.1%	0.1%			乾電池2個のつなぎ方と電流の大きさや向きを関係付けて考えることができていますか。
7	4	1		小5		○	○		82.0%	0.2%			条件を制御して実験方法を発想することができていますか。
8		2		小5		○	○		86.4%	1.5%			発芽するときに使われる養分がでんぷんであることを理解しているか。
9	5	1		小5		○	○		60.2%	0.3%			花粉はおしべの先にあることを理解しているか。また、アサガオの花のつくりについて理解しているか。
10		2		小5		○	○		73.1%	0.1%			顕微鏡を用いて観察する際、スライドガラスにのせた観察物の見える位置を調整する方法について理解しているか。
11		3		小5		○	○		76.2%	0.1%			受粉と結実の関係について、実験結果を基に実験方法を見直し、改善することができていますか。
12	6	1		小5	○		○		88.5%	1.4%			メスシリンダーの名前を理解しているか。
13		2		小5	○		○		70.5%	0.1%			メスシリンダーの正しい使い方を理解しているか。
14		3		小5	○		○		80.4%	1.4%			実験結果を基に、水温と食塩が水に溶ける量の関係について説明することができていますか。
15		4		小5	○		○		55.0%	1.1%			時間がたつと水に溶けていたミョウバンが再結晶して見えるようになった要因について、実験結果を基に、水温と水に溶ける量とを関係付けて考えることができていますか。
16	7	1		小3		○	○		71.2%	0.4%			太陽は、正午におよそ南の方位に見えることを理解しているか。
17		2		小3		○	○		48.7%	0.4%			方位磁針の正しい使い方を理解しているか。
18		3		小5		○	○		64.6%	0.9%			天気の変化と雲の動きを関係付けて考えることができていますか。
19		4		小4		○	○		87.6%	1.1%			水が高いところから低いところへ流れて集まる性質を日常の場面に関係付けて考えることができていますか。
20		5		小5		○	○		75.1%	0.2%			流れる水の浸食する働きについて、予想が正しいればどのような実験結果が得られるか考えることができていますか。
計				問題数	10	10	11	9					
				出題割合	47.6%	47.6%	52.4%	42.9%					
									71.6%	0.6%			

(3) 理科 <小学校第5学年>

ア 特徴ある問題から 大問 2 (1)

(小学校学習指導要領解説〔第4学年〕P49 (2)金属、水、空気と温度 と関連)

特徴ある問題として、全国学力・学習状況調査の問題作成の枠組みを踏まえた問題を出题しています。本問題は、その枠組みの視点「構想」を元に作成しています。「構想」は、問題解決の道筋を構想し、根拠のある予想や仮説を発想したり、解決の方法を発想したりするなど、自分の考えをもつことができるかどうかを求めています。

そこで本問題では、単に「金属の温まり方について理解しているかどうか」を問うだけの問題ではなく、授業での実験の予想場面を想定して出题しています。予想を絵や文字で表すことで可視化し、実験の見通しをもつことができるかを問う問題にしています。

また、学習指導要領解説には、「熱の伝わり方に着目して調べること」、「根拠のある予想や仮説を発想し、表現すること」が示されており、これが本単元において児童が働かせる「理科の見方・考え方」になります。

2 太郎さんたちは、物のあたたまり方について調べています。次の各問いに答えましょう。

太郎： この前は金属や空気のあたたまり方について調べたね。水はどのようにあたたまるのかな。ぼくは、①空気と同じようにあたたまっていくと思うな。

正子： わたしは、②金属と同じようにあたたまっていくと思うよ。

(1) 太郎さんたちは、水を入れたビーカーの底のはしを熱すると、水はどのようにあたたまっていくのか、予想しました。太郎さんと正子さんの下線部の考えが正しければ水はどのようにあたたまっていくと考えられますか。最も適切なものを、次のア～エからそれぞれ1つずつ選び、記号を□に書きましょう。

ア 熱せられたところから順に熱が伝わっていく。		イ あたためられた水が上に動き、動きながら全体があたたまっていく。	
ウ あたためられた水が、横に動いて、下から順にあたたまっていく。		エ あたためられた水が横に動いてから、上に動き、動きながら全体があたたまっていく。	

①太郎 イ ②正子 ア

本問題における平均通過率は66.5%となっています。原因として、授業で実験や観察を行う際に児童が見通しをもてていなかったり、児童が理科の見方・考え方を十分に働かせられていなかったりすることが考えられます。そこで授業改善として、次のような工夫が考えられます。

イ 授業改善のポイント

鹿児島学習定着度調査 小5理科大問2 (1)

水はどのようにあたたまるのだろうか。

予想

T：自分の考えを、絵や文で表してみよう。

C1：金属と同じように熱せられたところから、順番にあたたまっていくと思う。	C2：空気と同じようにあたたまった水が動いて、上の方から、あたたまっていくと思う。

鹿児島学習定着度調査 小5理科大問2 (1)

T：どうして、そう考えたのですか。

C1：水は、空気よりも重いから動かず、そのまま熱が伝わるんじゃないかな。

C2：金属は固まっているから動けないけど、水は動くことができるから、空気みたいに動いて熱が伝わるんじゃない。

C1：この前の実験で、閉じ込めた水は固かったよ。だから、そのまま熱が伝わるんじゃないかな。

T：他のみんなはどう思いますか。

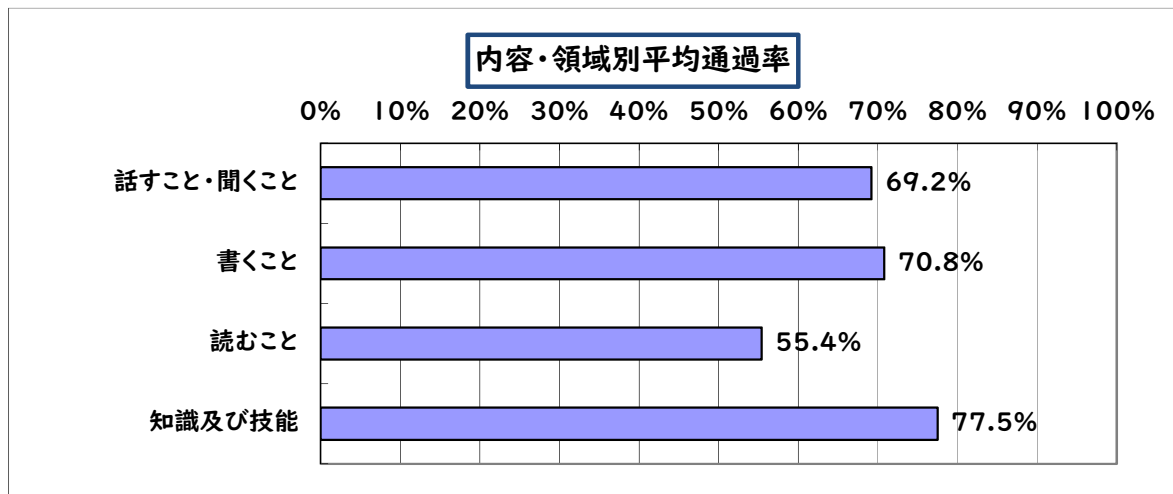
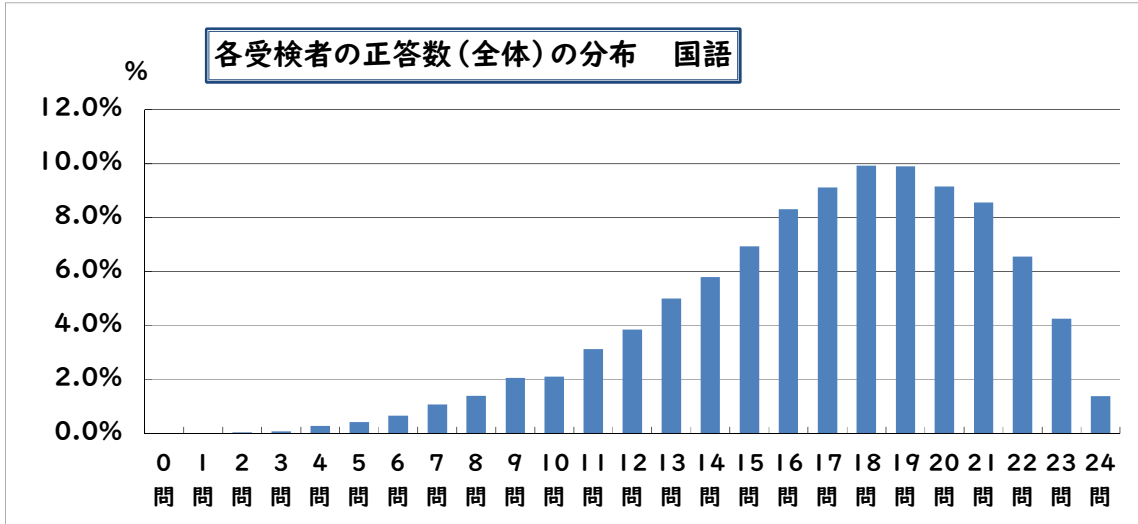
予想の際に、温まり方を絵や文字で表す、すなわち視覚化することが大切です。このような活動によって、熱の伝わり方をどのように捉えているかが明確になります。

予想の際に、根拠を問うことで、互いの考えの違いが明確になり、どこに着目して観察、実験を行えばよいか明確になります。つまり、見通しをもって主体的に観察、実験を行うことにつながります。

二次元コードを読み取り、「県総合教育センター『学びの地図』に掲載中の鹿児島学習定着度調査解説動画」を見よう!

(1) 中1平均通過率と受検者の正答数分布

学年別平均通過率		小5	中1	中2
	知識・技能	76.1%	77.5%	63.7%
	思考・判断・表現	65.1%	64.4%	75.9%
	全体	70.9%	70.4%	71.0%



- 「知識・技能」においては通過率77.5%と8割には届かなかったものの、「思考・判断・表現」については、64.4%と6割を超えており、授業改善が進みつつあることが分かります。
- 領域別に見ると、「読むこと」に課題が見られます。「読むこと」では、「文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるか。」を問う設問の通過率が58.3%となっていました。設問の内容としては問題提起文の場所を問う問題であり、文章全体の構成を意識させる指導が必要です。
- 「読むこと」以外では、「話すこと・聞くこと」にやや課題があり、大問4の三の「互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができるか。」を問う設問では通過率37.7%でした。設問の内容としては、司会がそれぞれの立場を明確にするために、意見を短く整理し、確認する発言を記述させる問題でした。話し合いの途中で意見を整理する発言の重要性を指導する必要があります。

(2) 各設問の分類と平均通過率
国語(中学校第1学年)

	設問			出題学年	学習指導要領の領域				評価の観点		県平均		校内平均		出題の意図			
	大問	中間	小問		知識・技能	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	知識・技能	思考・判断・表現	通過率	無解答率	通過率	無解答率				
1	1	一	1	小6 小4	○				○		96.6%	0.8%			学年別漢字配当表に示されている漢字を文や文章の中で正しく読んだり、書いたりすることができるか。(中1知識及び技能(1イ))			
2			2	小6	○				○		99.4%	0.0%						
3			3	小5	○				○		68.2%	15.6%						
4		二	中1	○					○		83.2%	0.2%			文意や熟語の意味から正しい漢字を判断することができるか。(中1知識及び技能(1イ))			
5		三	小3 小4	○					○		43.5%	14.2%			漢字の部首名を正しく答えることができるか。			
6		四	中1	○					○		61.8%	0.1%			単語を理解し、適切に区切ることができるか。			
7		五	小3 小4	○					○		80.3%	0.1%			例文から故事成語の意味を考え、正しい意味を判断することができるか。			
8		六	中1	○					○		53.2%	0.2%			語句の辞書的な意味と文脈上の意味の関係を考へて、正しい意味を判断することができるか。			
9		七	1	中1	○					○		81.9%	2.6%			歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すことができるか。		
10			2	中1	○					○		98.0%	0.1%			古語の正しい意味を理解できるか。		
11			3	中1	○					○		86.7%	1.3%			古文の内容と古語の意味を正しく理解できるか。		
12	2	一	中1				○		○		58.3%	0.4%			文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるか。			
13		二	中1				○		○		60.8%	3.4%			事実と意見との関係などについて、叙述を基に捉えることができるか。			
14		三	中1				○		○		51.4%	0.5%			文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるか。			
15		四	中1				○		○		44.5%	0.5%			事実と意見との関係などについて、叙述を基に捉えることができるか。			
16		五	小3 小4				○		○		61.8%	0.5%			文章と図表を結び付けて内容を理解することができるか。			
17	3	一	中1			○			○		57.6%	7.4%			集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるか。			
18		二	中1			○			○		87.3%	6.0%			読み手の立場に立って表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるか。			
19		①	中1			○			○		80.5%	9.7%			根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるか。			
20		②	中1			○			○		57.9%	11.0%						
21	4	一	中1		○				○		84.4%	1.8%			話題の展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結びつけて考えをまとめることができるか。			
22		二	小5 小6		○				○		88.6%	2.2%			資料を活用して、自分の考えが伝わるように表現を工夫できるか。			
23		三	小5 小6		○				○		37.7%	9.4%			互いの立場や意図を明確にしなが、計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができるか。			
24		四	中1		○				○		66.1%	17.6%			話し合いの話題や展開を捉え、互いの発言を結びつけて考えをまとめることができるか。			
計				問題数	11	4	4	5	11	13	70.4%		4.4%		0.0%		0.0%	
				出題割合	45.8%	16.7%	16.7%	20.8%	45.8%	54.2%								

(3) 国語 <中学校第1学年>

ア 特徴ある問題から 大問4三

(小学校学習指導要領解説(国語編)[高学年]A「話すこと・聞くこと」オ P136と関連)

学習指導要領解説には「互いの立場を明確にするとは、話題に対してどのような考えを持っているのかを互いに明らかにすることである。」とあります。そこで本問題では、単にそれぞれがどのような考えをもっているかをまとめさせる問題ではなく、話し合いの様子から、司会の役割として話し合いの参加者がそれぞれどのような考えをもっていたかを整理する発言としてまとめさせる問題を出題しました。

話し合いの様子を切り取って、その会話の中の発言を作る問題は、全国学力・学習状況調査でもよく出題される内容です。私たちはこの問題の予想通過率を50%と設定して出題しました。

鹿児島学習定着度調査 中1国語 大問4の3

【話し合いの一部】における「ア」では、どのようなことを話せばよいか。田中さんの立場の発言として実際に話す言葉を書きなさい。

田中さんは司会の立場であることが、話し合いの最初の部分で分かります。

【質問の部分の田中さんの会話】

それぞれの意見が出ました。整理すると、

 では、それぞれ質問や意見があったらどうぞ。

問題の内容は左のようになります。司会である田中さんが、話し合いの途中で、みんなの意見を整理する発言として、どのように発言したらよいかを記述式で答える問題です。

本問題における平均通過率は37.7%、無答率9.4%でした。原因としては、司会の役割として、どのような発言をすることが「互いの立場を明確にする」発言なのかを取り立てて指導していないところにあると考えます。

そこで、ICT機器の利点を最大限生かして、次のような授業改善が考えられます。

イ 授業改善のポイント

互いの立場や意図を明確にするために

「グループディスカッション」『三省堂』P30

① 話し合いの話題を決め、目的を明確にする
 (共通の話題で、小グループで話し合いを行う。)
 (話し合いの様子をタブレットに録画する。)

T (あるグループの話し合いの様子を全体で見て)
 目的などを確認する発言があるかどうかを確認してみましょう。

T 自分たちのグループの発言で、互いの立場や意図を明確にさせる発言があるか、確認してみましょう。

司会の役割として、それぞれの立場を明確にする発言があるかを確認する。

互いの立場や意図を明確にするために

「グループディスカッション」『三省堂』P30

② 目的の異なる話し合いを複数提示し、グループで選択・判断して取り組ませる。※ タブレットで話し合いの様子を撮り、目的を確認する発言を探す。

③ 目的の異なる話し合いを複数提示して、個人で選択・判断して取り組む。※ タブレットで話し合いの様子を撮り、目的を確認する発言を探す。

C 司会が会の始まりに目的などを確認することが大事だ。また、話し合いの途中で、意見を整理する発言が大切だ。

いろいろな場面で、司会が発言を確認しながら話し合うことが必要だという意識をもたせる。

① 試みの話し合いなどを行わせ、立場を明確にさせる発言があったかどうかを、タブレットの録画を振り返り検証します。その際、司会者がそれぞれの意見を整理し、立場を明確にさせる発言があることに気付かせます。

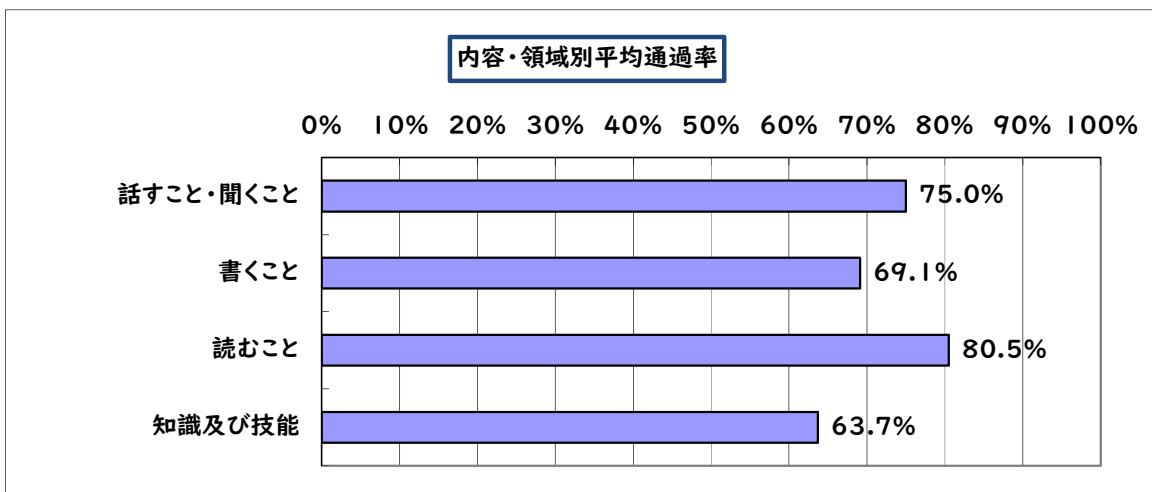
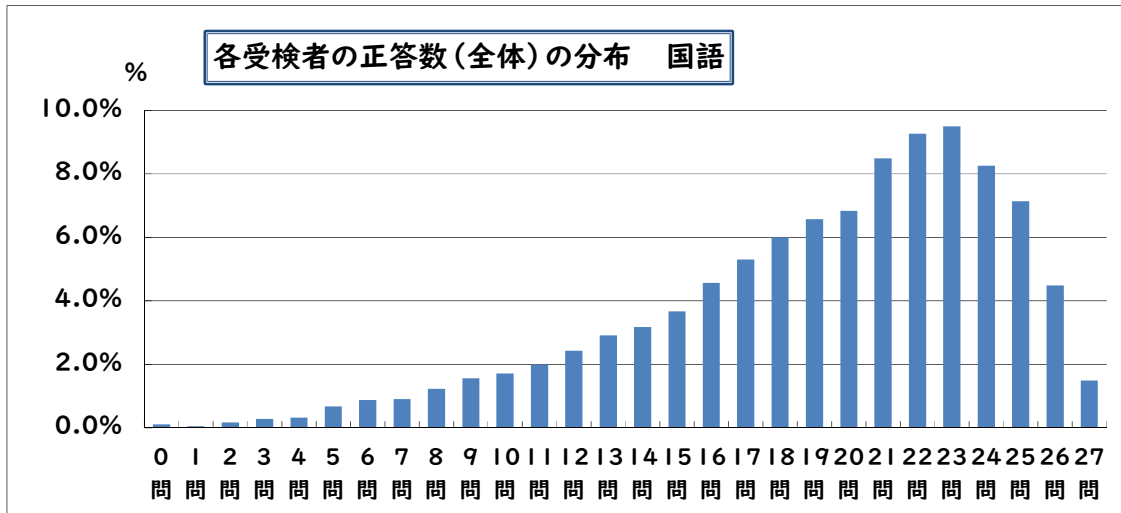
②③ 話し合いの場を複数回設定し、その中で、司会の立場を明確にさせるような発言があったかどうかを振り返ります。

二次元コードを読み取り、「県総合教育センター『学びの地図』に掲載中の鹿児島学習定着度調査解説動画」を見てみよう!



(1) 中2平均通過率と受検者の正答数分布

学年別平均通過率		小5	中1	中2
	知識・技能	76.1%	77.5%	63.7%
	思考・判断・表現	65.1%	64.4%	75.9%
	全体	70.9%	70.4%	71.0%



- 他の学年と異なり、「知識・技能」に係る設問の通過率が63.7%と低く、課題があります。その一方「思考・判断・表現」は75.9%と7割を超えており、授業改善が進みつつあるといえます。
- 「知識及び技能」では、形容詞の活用形を問う設問の正答率が低い状況です。例年通過率が低い内容ですが、今年度は、出題の形式を、なぜその活用形になるのか、考え方のプロセスを文章化した問いに変更しました。これらの考え方のプロセスをしっかりと指導していく必要があります。
- 領域別に見ると「書くこと」にやや課題があります。特に大問3の一は、「読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えることができるか」を問う設問で、文末を書き換えた意図を選択肢で問う設問ですが、書かれている表現が、自分の考えを明確に伝える文になっているかを、読み手の立場から検討することが大事であることを指導する必要があります。

(2) 各設問の分類と平均通過率

国語(中学校第2学年)

	設問			出題学年	学習指導要領の領域				評価の観点		県平均		校内平均		出題の意図
	大問	中間	小問		知識・技能	話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと	知識・技能	思考・判断・表現	通過率	無解答率	通過率	無解答率	
1	1	一	1	小4	○				○		62.3%	4.8%			学年別漢字配当表に示されている漢字を文や文章の中で正しく読んだり、書いたりすることができるか。
2			2	中1 小4	○				○		13.3%	5.8%			
3			3	小6	○				○		62.3%	14.3%			
4			4	小6 小5	○				○		60.3%	8.1%			
5		二		中2	○				○		63.6%	0.2%			動詞の活用形を理解しているか。
6		三		中2	○				○		79.9%	0.1%			尊敬語を正しく理解しているか。
7		四		中1	○				○		46.6%	0.2%			行書の特徴を理解しているか。
8		五	1	中1	○				○		92.9%	1.1%			歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すことができるか。
9			2	中2	○				○		77.4%	0.2%			古文の動作の主を理解しているか。
10			3	中2	○				○		85.6%	0.2%			古文を読んで、文章を捉えることができるか。
11	2	一	小5 小6	○				○		56.2%	0.3%			係り受けを正しく理解しているか。	
12			二	中1				○		○	89.3%	0.2%			事実と意見との関係などについて、叙述を基に捉えることができるか。
13		三	あ	中2				○		○	91.2%	0.4%			文章と図を結び付けて、内容を解釈することができるか。
14			い	中2				○		○	91.2%	0.4%			
15		四		中1				○		○	81.9%	0.5%			事実と意見との関係などについて、叙述を基に捉えることができるか。
16		五	ア	中2				○		○	59.5%	5.1%			目的に応じて複数の情報を整理しながら、適切な情報を得ることができるか。
17			イ	中2				○		○	70.3%	7.4%			
18		六		中2				○		○	80.1%	5.3%			目的に応じて複数の情報を整理しながら、適切な情報を得ることができるか。
19	3	一	中2				○		○	72.9%	0.5%			読み手の立場に立って、文章の内容を整えることができるか。	
20		二	中2				○		○	60.4%	0.6%			具体例を加えたりして、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるか。	
21		三	①	中1				○		○	75.4%	9.5%			根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。
22			②	中1				○		○	67.7%	11.6%			
23	4	一	中1				○		○	79.9%	1.0%			話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結びつけて考えをまとめることができるか。	
24		二	中2				○		○	58.9%	1.2%			目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができるか。	
25		三	小5 小6				○		○	73.0%	1.4%			話の内容が明確になるように、事実と感想、意見を区別するなど、話の構成を工夫することができるか。	
26		四	①	中2				○		○	90.7%	7.5%			論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるか。
27			②	中2				○		○	72.6%	8.3%			
計				問題数	11	5	4	6	11	16					
				出題割合	42.3%	19.2%	15.4%	23.1%	42.3%	61.5%					
											70.9%	3.6%	0.0%	0.0%	

(3) 国語 <中学校第2学年>

ア 特徴ある問題から 大問4ニ

(中学校学習指導要領解説(国語編)[第2学年]A「話すこと・聞くこと」ア P87と関連)

学習指導要領解説には「異なる立場や考えの聞き手に自分の考えを伝えるためには、根拠となる情報を幅広く収集することが重要である。」とあります。そこで本問題では、単にグラフだけを示して考えさせるのではなく、写真等も提示して選択する問題を出題しました。複数の情報を関係付けて答える問題は、例年通過率が低く、特に図やグラフ、写真等、非連続型テキストの情報を関係付けて答える問題は苦手としています。

【プレゼンテーション進行表】		
部	スライド	伝えること
第一部	学校のごみに関する現状	「学校のごみに関する現状」 ※ アンケート結果とともに、自分たちの学校のごみに関する現状についての課題を伝える。 ※ アンケート結果とともに、紙ごみが多いにもかかわらず、紙類がリサイクルされていない現状について示す。

ウ ごみの種類と割合のグラフ 学校全体で一週間に出るごみの種類と割合のグラフ	ア 学校で一週間に出るごみと物の写真 学校で一週間に出るごみと物の写真
エ 1日に中学校から出るごみの量 1日に中学校から出るごみの量	イ 分別されていないごみの写真 分別されていないごみの写真

具体的には、プレゼンテーション進行表にある②の部分にどのような資料を示したら良いかを考えて選択する問題でした。本問題の平均通過率は58.9%、無答率1.2%でした。原因としては、写真やグラフ等、非連続型テキストを情報源として検討する授業が十分になされていない可能性が考えられます。そこで授業改善として、次のような工夫が考えられます。

イ 授業改善のポイント

学習者主体で、情報をそれぞれ集めさせる活動と、その集めた情報を持ち寄り、その情報からどんなことが意見として言えそうかを検討させる場面を設定することが大切です。

鹿児島学習定着度調査 中2国語 大問4のニ「話すこと・聞くこと」

「グループディスカッション」『三省堂』P34

- ① 討論のテーマを決め、情報を集める。
※ グループで情報を複数集めることが大事
- ② 立場を決めて、考えをまとめる。
※ 複数の情報から、根拠を明確にして話し合いを行う。
- ③ グループで討論する。
※ 討論の様子をタブレットで録画し、振り返りで活用する。
- ④ 討論を振り返る。
※ 立場は異なるのに、根拠が同じ人はいませんか。
※ 根拠が異なるのに、立場が同じ人はいませんか。

① 学習者主体の授業改善を進めるためには、討論のテーマを決める際には、いくつかのテーマを提示し、生徒が討論したい内容を決めて、そのテーマに応じた情報を集めます。

② 討論のテーマを決めて、情報を収集させる際に、学校図書館やICTを積極的に活用し、文章でまとめた図書資料以外にも、図や表、写真等、非連続型テキストも資料として使わせ、考えさせたり、発表させたりします。



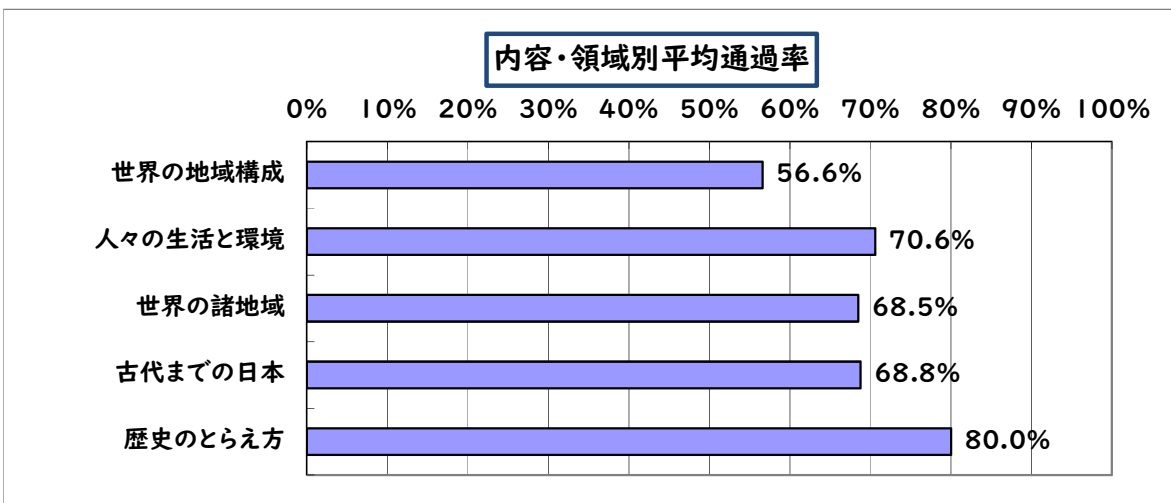
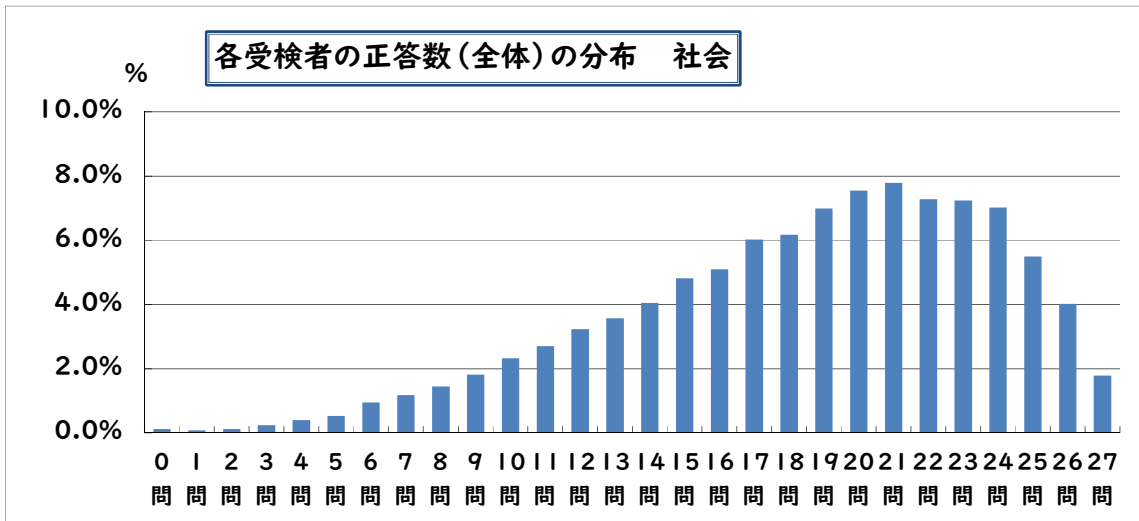
二次元コードを読み取り、「県総合教育センター『学びの地図』」に掲載中の鹿児島学習定着度調査解説動画」を見てみよう!



中学校第1学年【社会】

(1) 中1平均通過率と受検者の正答数分布

学年別平均通過率				
		小5	中1	中2
	知識・技能	82.4%	70.6%	55.3%
	思考・判断・表現	67.7%	64.1%	54.2%
全体	77.5%	68.4%	55.2%	



- 「知識・技能」に関する問題の平均通過率は70.6%と概ね高い状況です。ただ、時差を求める問題(57.8%), 孔子(34.9%)や中国の王朝名「漢」(51.2%)を問う問題の通過率が低くなっています。時差に関しては、概念や地図上の位置をイメージできるように、動画を見せるなどの工夫を行い、生徒の苦手意識を払拭する必要があります。社会科は教科の特性上、用語の理解等が多いことから、定期的に復習し、定着しているかを確認することが重要です。
- 「思考・判断・表現」に関する問題の平均通過率は64.1%であり、インドの経済が急速に成長している理由を説明する問題(52.6%)や貴族の暮らしが農民の税によって成り立っていることを説明する問題(64.9%)の通過率が低くなっています。例えば、歴史においては、歴史的事象の背景や原因等を考えさせる授業を行うとともに、意図的に資料の読み取りや資料の比較を行わせる必要があります。

(2) 各設問の分類と平均通過率

社会(中学校第1学年)

設問	内容領域別			評価の観点		県平均		校内平均		出題の意図							
	大問	中間	小問	出題学年	世界の地域構成	世界各地の人の生活と環境	世界の諸地域	古代までの日本	歴史のとらえ方		知識・技能	思考・判断・表現	通過率	無解答率	通過率	無解答率	
1	1	(1)	小5中1	○						○		77.0%	1.1%			三大洋の名称と位置を理解しているか。	
2		(2)	中1	○							○	58.6%	0.2%			正距方位図の特徴を理解した上で、別の地図に置き換えて正しい最短コースを読み取ることができるか。	
3		(3)	中1	○							○	57.8%	0.2%			時差の求め方を理解しているか。	
4		(4)	中1	○							○	33.1%	0.5%			沖ノ島が存在することによる、排他的経済水域の広さを求めることができるか。	
5	2	(1)	中1		○					○		73.2%	0.2%			気候帯の特徴を理解しているか。	
6		(2)	中1		○					○		76.4%	6.0%			冷帯の特徴と、近年の気候変動による温暖化の影響を関連付けて説明することができるか。	
7		(3)	中1		○						○	48.1%	0.4%			古くから先住民の住むアンデス山脈の高山都市の暮らしの変化を理解しているか。	
8		(4)	中1		○						○	84.6%	0.5%			三大宗教の特徴について理解しているか。	
9	3	(1)	中1				○			○		34.4%	0.6%			東南アジアの地域協力組織や工業の特色を理解しているか。	
10		(2)	小5中1				○			○		89.6%	0.5%			西アジアに石油が多く分布していることを理解しているか。	
11		(3)	中1				○				○	52.6%	9.3%			アメリカ合衆国とインドの位置関係から、時差を読み取り、企業間で連携していることを説明することができるか。	
12		(4)	中1				○				○	90.0%	2.6%			アフリカ大陸にある世界最大の砂漠の名称を理解しているか。	
13		(5)	中1				○				○	80.4%	0.5%			プランテーション(農業)について理解しているか。	
14		(6)	中1				○				○	64.1%	8.3%			農業や鉱産資源などの第一次産品の輸出にたよっていることから、価格変動によって輸入が不安定になることを読み取ることができるか。	
15	4	(1)	中1					○		○		78.0%	0.4%			資料を読み取り、縄文人の生活の様子を理解しているか。	
16		(2)	中1					○		○		34.9%	19.4%			春秋戦国時代に、孔子によって儒教が開かれたことを理解しているか。	
17		(3)	中1					○			○	53.9%	9.5%			秦の時代に万里の長城が建設された理由を理解しているか。	
18		(4)	小6中1					○			○	85.8%	3.5%			弥生時代における農耕文化の広まりと社会の変化について説明することができるか。	
19		(5)	小6中1					○			○	51.2%	1.5%			争いが続いている国内の対立勢力に対して、漢の力を利用して、自分の立場を有利にしようとしたことを理解しているか。	
20	5	(1)	中1					○		○		82.9%	0.5%			十七条の憲法の制定目的を理解しているか。	
21		(2)	中1					○		○		85.5%	0.8%			7世紀半ばの東アジアの様子と律令のしくみについて理解しているか。	
22		(3)	中1					○			○	64.9%	6.9%			奈良時代の皇族・貴族の暮らしは、農民の重い税によって成り立っていることを説明できるか。	
23		(4)	小6中1					○			○	72.3%	8.8%			平安時代の摂関政治と同様、権力を広げるための方法について説明できるか。	
24		(5)	中1					○			○	78.3%	4.2%			国風文化について理解しているか。	
25	6	(1)	中1					○	○	○		80.4%	1.6%			世紀の表し方を理解しているか。	
26		(2)	中1					○	○	○		72.9%	5.0%			時代を区分する表し方を理解しているか。	
27		(3)	小6					○	○	○		86.8%	0.8%			鹿児島出身の人物を正しく理解しているか。	
計				問題数	4	4	6	10	3	18	9						
				出題割合	14.8%	14.8%	22.2%	11.1%	37.1%	66.7%	33.3%						
												68.4%	3.5%	0.0%	0.0%		

(3) 社会 <中学校第1学年>

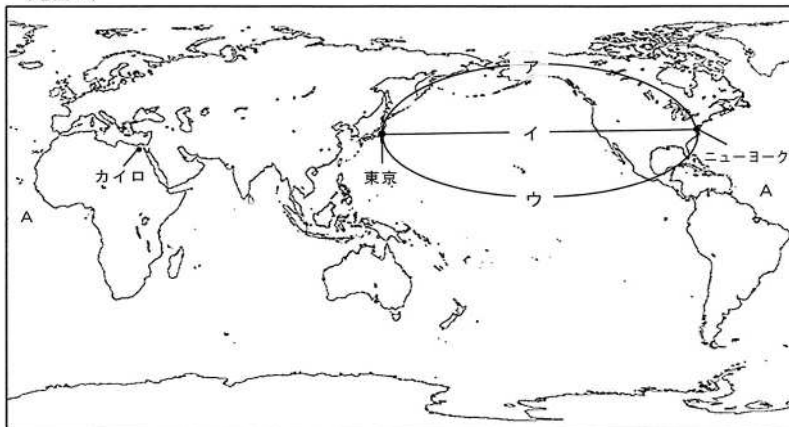
ア 特徴ある問題から 大問1 (3)

学習指導要領解説には、「世界各地との時差については、日本と世界各地との時差から地球上における我が国と世界各地との位置関係を理解できるようにすることを意味している。」とあります。そこで本問題では、単に時差が生じる原因を答えるだけの問題ではなく、東京とカイロ間の2地点の時差を求める問題を出題しています。

その際、毎年、通過率が低い(R3においては、平均通過率53.2%、東経と西経にまたがる2地点の時差を求める問題を出題) という結果であったことから、まずは、東経と東経の2地点間の時差を求める問題を取り扱うことで定着を図ってほしいと考え、出題しています。

1 次の地図や資料を見て、あとの問いに答えなさい。

(地図1)



二次元コードを読み取り、「県総合教育センター『学びの地図』に掲載中の鹿児島学習定着度調査解説動画」を見てみよう!

(3) 地図1中の東京とカイロの時差は何時間になるか。次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。ただし、経度15度で1時間の時差が生じ、日本の標準時子午線は兵庫県明石市を通る東経135度、エジプトのカイロは東経30度とする。

- ア 7時間 イ 9時間 ウ 11時間 エ 13時間

本問題における平均通過率は 57.8%となっています。原因としては、生徒が時差の概念を理解しないまま、時差を求める問題に取り組ませている可能性が考えられます。そこで、授業改善としては、次のような工夫が考えられます。

イ 授業改善のポイント

7 提案

時差に関する問題

生徒が時差の概念をイメージできるようにしたい。地球儀や掛け地図を使ったり、映像を見せたり、ICT(ソフト等)を活用するなど、授業の工夫を図りたい。定着を図るために、理解させた後は、演習問題に取り組むことは必須である。

手立て

- 1 時差が生じる原因を考えさせる。
- 2 生徒がイメージできるようにする。
- 3 時差を求める。

例えば、新年を迎える順番 1 日本 2 イギリス 3 アメリカが理解できれば、時差をイメージしやすくなる。

左記の手立てを意識して授業を行いましょう。

手立て1及び2においては、

- ① 用語(東経、西経など)を理解させ、
- ② 映像等を活用して、生徒がイメージしやすいようにして、時差が生じる原因を考えさせます。

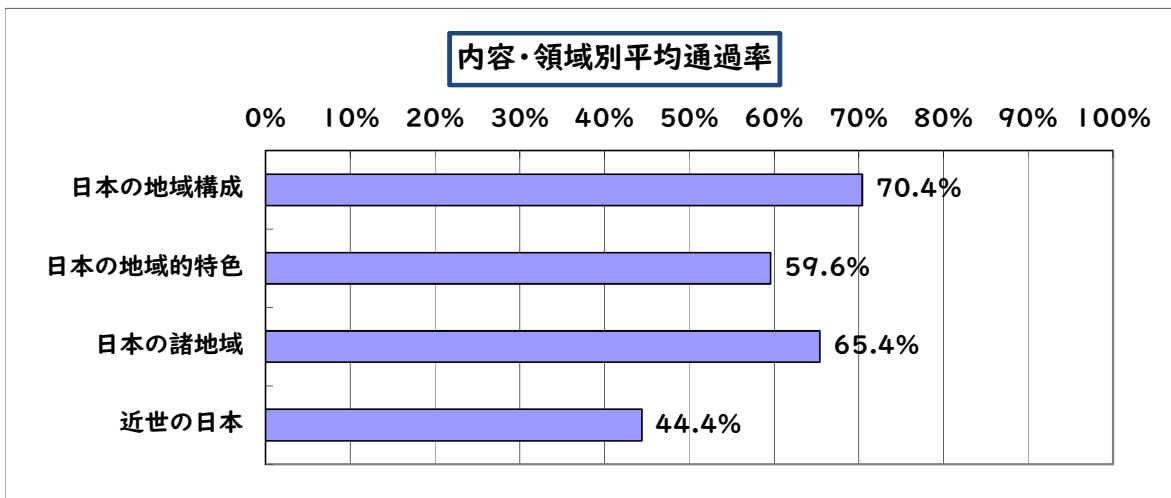
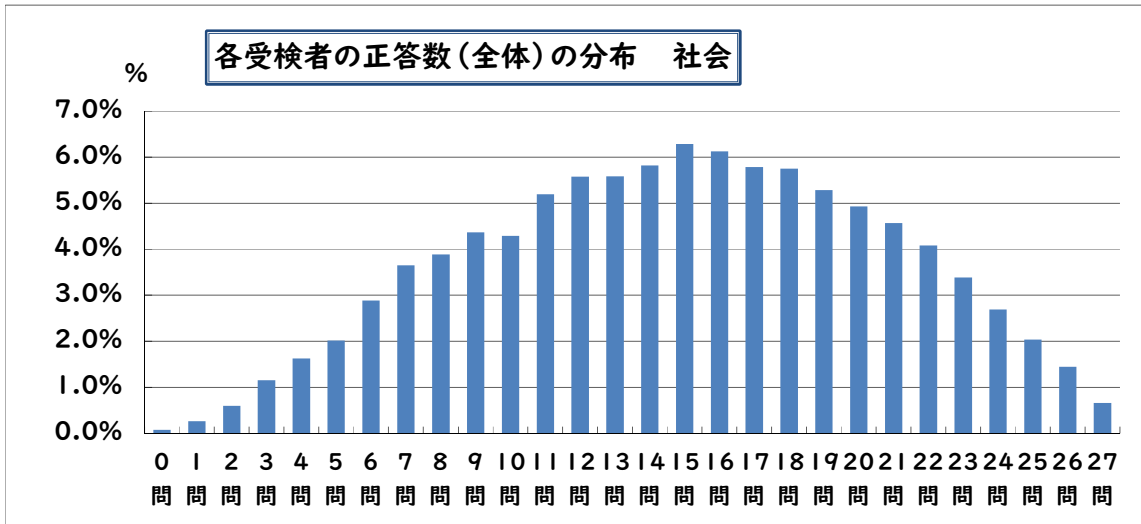
手立て3においては、

- ① 東経と東経の2地点の時差を求め、次に、
- ② 東経と西経の2地点の時差を求め、
- ③ 日付変更線を含む場合はどうなるかなど、様々な問題に取り組ませます。

中学校第2学年【社会】

(1) 中2平均通過率と受検者の正答数分布

学年別平均通過率				
		小5	中1	中2
	知識・技能	82.4%	70.6%	55.3%
	思考・判断・表現	67.7%	64.1%	54.2%
全体	77.5%	68.4%	55.2%	



○ 「知識・技能」に関する問題の平均通過率は55.3%と低い状況です。地理では、滋賀県の県庁所在地と位置を問う問題(39.8%)、歴史では、江戸時代の政治改革を選択する問題(23.6%)の通過率が低くなっています。地図帳を活用し、地名と場所を関連付けしたり、政治改革の特色を比較させて、その違いを説明させたりするなど、工夫が必要です。社会科は教科の特性上、用語の理解等が多いことから、定期的に復習し、定着しているかを確認することが重要です。

○ 「思考・判断・表現」に関する問題の平均通過率は54.2%と低い状況です。歴史において、イエズス会が布教活動を行った理由を説明する問題(31.9%)や豊臣秀吉のキリスト教への対応を説明する問題(34.2%)が特に低くなっています。これらの問題は、設問そのものを学習課題として設定して、1単位時間の授業の中で取り扱うなど工夫を行い、思考力・判断力・表現力を図ることが大切です。

(2) 各設問の分類と平均通過率

社会(中学校第2学年)

	設問			出題 学年	内容領域別				評価の観点		県平均		校内平均		出題の意図
	大問	中間	小問		日本の 地域構 成	日本の 地域的 特色	日本の 諸地域	近世の 日本	知識 ・ 技能	思考 ・ 判断 ・ 表現	通過率	無解答率	通過率	無解答率	
1	1	(1)		小4 中2	○				○		57.9%	0.2%			縮尺について理解しているか。
2		(2)		小4 中2	○				○		61.6%	0.1%			地図の記号等を基に、地形図を読み取ることができるか。
3		(3)		小4 中2	○					○	67.4%	1.7%			等高線を読み取り、ルートを判断した理由を表現することができるか。
4		(4)		小4 中2	○				○		94.8%	1.9%			防災への取組の一つである防災マップについて理解しているか。
5	2	(1)		中2	○				○		60.8%	5.7%			地形の特色の一つである扇状地について理解しているか。
6		(2)		中2		○			○		69.5%	4.8%			瀬戸内の気候について、雨温図や模式図を用い、季節風との関係から説明することができるか。
7		(3)		中1 中2		○			○		39.9%	1.4%			資料を活用して、県の位置を特定でき、かつ県庁所在地名を理解しているか。
8		(4)		中2		○			○		62.7%	5.4%			日本の発電所のうち、火力発電所の分布について、資料と関連付け、立地条件を説明することができるか。
9		(5)		中2		○			○		65.0%	0.8%			日本の食料自給率について理解しているか。
10	3	(1)		中2		○			○		43.7%	0.5%			府県の位置、地域の人口の動態、都市の立地や機能に関する知識を組み合わせ、資料の情報を基に選択することができるか。
11		(2)		中2			○		○		72.4%	3.9%			二毛作について理解しているか。
12		(3)		中2			○		○		76.5%	5.4%			資料を基に、歴史的景観都市である京都の景観や町並みを守るための工夫を理解し、表現することができるか。
13		(4)		中2			○		○		70.7%	0.6%			日本の交通について、最も適当なものを地図から読み取ることができるか。
14		(5)		中2			○		○		63.9%	0.5%			グラフの読み取り方と、割合の計算方法を理解しているか。
15	4	(1)		中2				○	○		46.7%	0.3%			新航路の開拓について理解しているか。
16		(2)		中2				○	○		58.5%	0.4%			南蛮貿易の輸出品について理解しているか。
17		(3)		中2				○	○		31.9%	13.7%			宗教改革とその後のヨーロッパの海外進出を結び付けた説明することができるか。
18		(4)		中2				○	○		34.2%	10.6%			豊田秀吉のキリスト教への対応について、資料を基に説明することができるか。
19		(5)		中2				○	○		49.5%	0.6%			桃山(安土桃山)文化を代表する建造物について理解しているか。
20	5	(1)		中2				○	○		35.8%	0.6%			江戸時代の初期の日本とアジアの交流について理解しているか。
21		(2)		小6 中2				○	○		65.1%	8.8%			江戸幕府による百姓支配について理解しているか。
22		(3)		中2				○	○		56.7%	12.8%			江戸幕府による大名統制の目的について、資料を基に説明することができるか。
23		(4)		中2				○	○		40.1%	7.8%			琉球王国と薩摩藩の関係や琉球使節が幕府の権威の強化にも利用されたことを理解しているか。
24	6	(1)		中2				○	○		48.7%	8.7%			江戸時代に大阪が商業の中心地として栄えた理由を、資料を基に説明することができるか。
25		(2)		中2				○	○		23.6%	1.1%			江戸幕府による政治改革の特徴について理解しているか。
26		(3)		中2				○	○		41.0%	1.0%			江戸時代の産業の発達について理解しているか。
27		(4)		中2				○	○		44.9%	1.1%			江戸時代の文化の特色や新たに発達した蘭学について理解しているか。
計				問題数	5	5	4	13	18	9					
				出題割合	18.5%	18.5%	14.8%	48.1%	66.7%	33.3%					
											54.9%	3.7%	0.0%	0.0%	

(3) 社会 <中学校第2学年>

ア 特徴ある問題から 大問 5 (3)

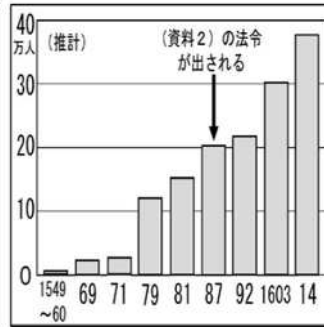
学習指導要領解説には、「当時の対外関係として、東南アジアなどとの積極的な貿易、キリスト教への対応、朝鮮への出兵などを取り上げる。」とあります。そこで本問題では、単に豊臣秀吉のキリスト教への対応を選択肢の中から選ばせる問題ではなく、豊臣秀吉のキリスト教への対応について、資料を基に説明する問題を出題しています。

その際、ザビエルがキリスト教を伝えてから、江戸時代に鎖国を行うまでの間、その時々でキリスト教への対応が変化しており、豊臣秀吉がキリスト教に対して、どんな対応を行ったか、また、そのように対応した理由を、資料やグラフから読み取って説明できる力を身に付けるよう、出題しています。

(4) 略年表中Dについて、次の資料2は豊臣秀吉が出した宣教師の国外追放を命じた法令、資料3は日本のキリシタンの人数の移り変わりを表している。資料2の法令が出た後も、キリシタンの人数が増えているのはなぜか、資料2・3を基に、「キリスト教」という語句を使って説明せよ。

(資料2) 宣教師の国外追放を命じた法令(一部要約) (資料3) 日本のキリシタンの人数の移り変わり

- 一 日本は神国であるから、キリスト教国がキリスト教を伝え広めるのは、けしからぬことである。
- 一 宣教師を日本に置いておくことはできない。今日から20日以内に準備して帰国するように。
- 一 ポルトガル船は、商売のために来ているので、宣教師追放とは別である。今後も商売をしに来るように。



二次元コードを読み取り、「県総合教育センター『学びの地図』に掲載中の鹿児島学習定着度調査解説動画」を見てみよう!

本問題における平均通過率は 平均通過率 34.2% 無答率 10.6%となっています。原因としては、キリスト教への対応がどのように変化したかの事実面だけを捉え、変化した原因や理由、背景等を考えさせる場面が不足していることが考えられます。そこで、授業改善としては、次のような工夫が考えられます。

イ 授業改善のポイント

7 提案		
グラフの見方 (読み取り方)		
⇒ 「表題の3点・単位の2点・変化の5点」を意識させ、変化の5点に焦点を当てた授業の実践を行いたい。		
キーワード	読み取るポイント	
表題の3点	<ul style="list-style-type: none"> ・表題(タイトル)は? ・年度は? ・出典は? 	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフが何を示しているのかが端的に分かる。… 最初に確認! ・年度の新しいほうが資料としての価値が高い。
単位の2点	<ul style="list-style-type: none"> ・縦軸の単位は? ・横軸の単位は? 	<ul style="list-style-type: none"> ・その数量の単位 → 円? トン? など … 読み上げて確認する。 ・通例、年度になる → 毎年の数値か? 2年おきか? など … 数字を横に見ながら、確認する。
変化の5点	<ul style="list-style-type: none"> A 段々上がる B 段々下がる C 突然上がる D 突然下がる E 変化なし 	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフの傾向をつかむ。 ・CとDには要注意。 → そのようになった原因、理由、背景等を考える。

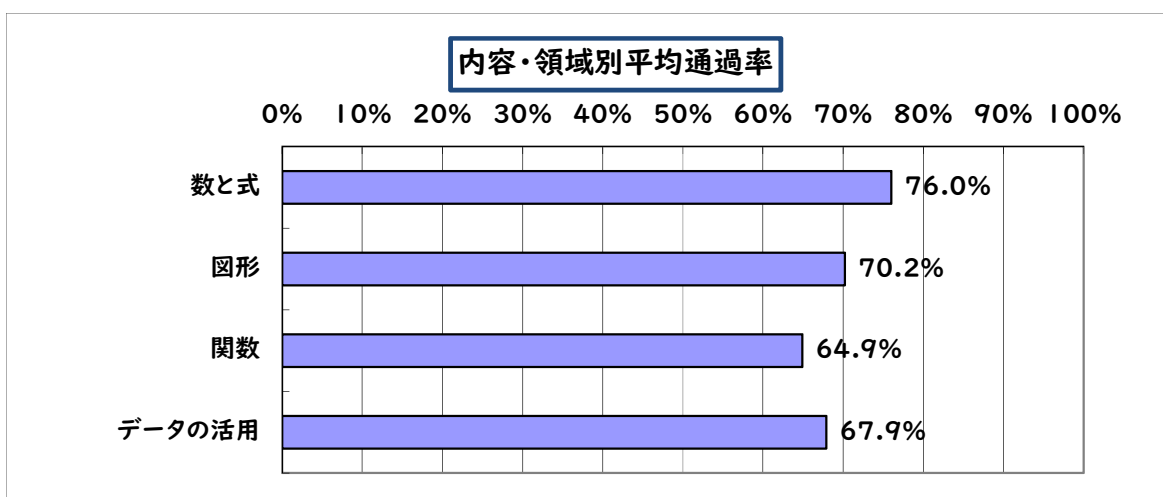
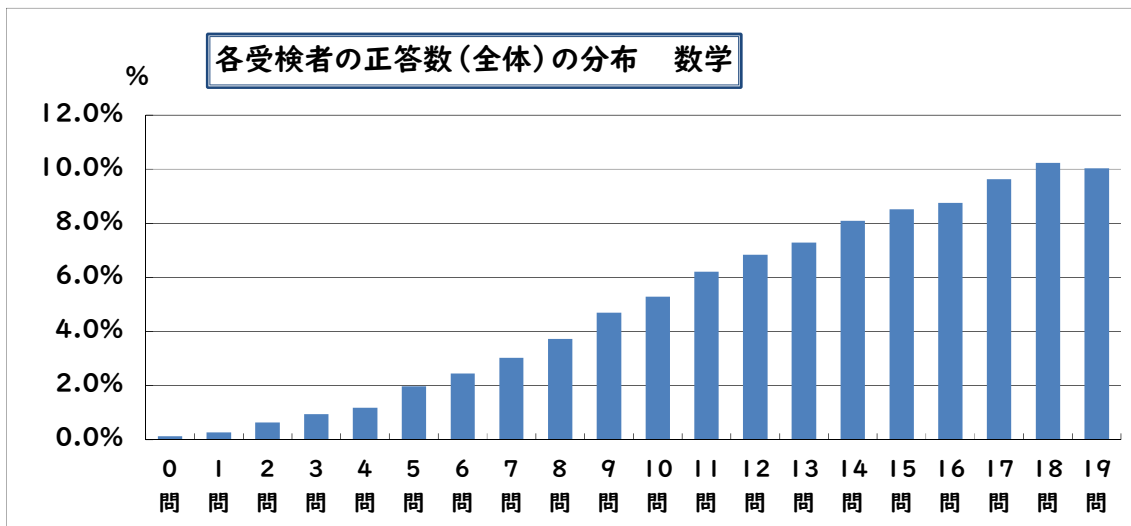
◎ キリスト教への対応がどのように変化したか、原因、理由、背景等を考えさせます。

○ 流れを理解させるとともに、授業の中で資料やグラフを活用し、読み取りについても慣れさせます。

○ 左記の「表題の3点・単位の2点・変化の5点」を意識させ、変化の5点に焦点を当てた学習課題を設定して、授業を行う必要があります。

(1) 中1平均通過率と受検者の正答数分布

学年別平均通過率		小5	中1	中2
	知識・技能	74.5%	80.5%	80.3%
	思考・判断・表現	55.6%	54.3%	61.0%
	全体	67.4%	70.9%	72.5%



- 「知識・技能」の平均通過率は80.5%です。円柱の見取図や展開図について、辺や面の位置関係を理解しているかを問う問題が59.1%、グラフから、数量関係が比例の関係であることをみいだす問題が68.5%、比例の意味を理解しているかを問う問題が68.7%であり、課題となっています。
- 「思考・判断・表現」の平均通過率は54.3%である。円柱の展開図をかく方法を考察する問題は52.4%、文字式を用いて数学的に表現する問題が49.8%、比例の関係を数学的な表現を用いて説明する問題が55.7%(無解答率15.7%)、適切なグラフを選択してデータの特徴を捉え、問題に対する結論を考察する問題が35.8%(無解答率12.4%)であり、課題となっています。
- 「数と式」領域では、数量を文字式で表したり、その意味を読み取ったりする活動を、取り入れる必要があります。また、「データの活用」領域では、自分たちが出した結論や問題解決の過程が妥当なものであるかどうかを別の観点や立場から検討したり、出された結論が信頼できるだけの根拠を伴ったものであるかどうかを検討したりする活動を取り入れる必要があります。

(2) 各設問の分類と平均通過率

数学(中学校第1学年)

	設問			出題 学年	学習指導要領の領域				評価の観点		県平均		校内平均		出題の意図			
	大問	中間	小問		数と式	図形	関数	データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	通過率	無解答率	通過率	無解答率				
1	1	1		中1	○				○		93.2%	0.2%			正・負の数の加法の計算ができるか。			
2		2		中1	○				○		83.9%	2.3%			文字に数を代入し、式の値を求めることができるか。			
3	2	1		中1	○				○		89.0%	0.2%			数量の関係を文字を用いた式に表すことができることを理解しているか。			
4		2		中1	○				○		79.6%	2.8%			具体的な場面で、一元一次方程式をつくることができるか。			
5	3	1		小6		○			○		83.0%	0.3%			円柱の体積は(底面積)×(高さ)で求めることができることを理解しているか。			
6		2		小5		○			○		59.1%	2.4%			円柱の見取図や展開図について、辺や面の位置関係を理解しているか。			
7		3		小5		○			○		52.4%	0.8%			辺や面のつながりや位置関係に着目して、円柱の展開図をかく方法を考察できるか。			
8	4	1		中1		○			○		82.6%	3.6%			角の二等分線の作図ができるか。			
9		2		中1		○			○		73.9%	0.7%			図形の性質に着目して、垂線の作図の方法を考察し表現することができるか。			
10	5	1	(1)	中1	○				○		90.8%	3.0%			問題の指示された条件に従って、計算結果を求めることができるか。			
11			(2)	中1	○				○		45.9%	4.3%			規則性に気づき、文字式を用いて表現することができるか。			
12		2		中1	○				○		49.8%	6.3%			具体的な数値による計算の結果から、その特徴を文字式を用いて数学的に表現することができるか。			
13	6			小6			○		○		68.5%	0.6%			グラフから、数量関係が比例の関係であることを見出すことができるか。			
14	7	1		小6			○		○		68.7%	3.4%			比例の意味を理解しているか。			
15		2		小6			○		○		55.7%	15.7%			比例の関係をを用い、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるか。			
16		3		小6			○		○		66.8%	4.0%			比例としてとらえられる数量関係について、変化や対応の特徴を見いだしているか。			
17	8	1		小5				○	○		87.4%	2.4%			帯グラフの特徴を理解しているか。			
18		2		小6				○	○		80.4%	1.7%			柱状グラフの特徴を捉え、中央値の意味を理解しているか。			
19		3		小6				○	○		35.8%	12.4%			問題を解決するために適切なグラフを選択してデータの特徴を捉え、問題に対する結論を考察できるか。			
計				問題数	7	5	4	3	12	7	70.9%		3.5%		0.0%		0.0%	
				出題割合	36.8%	26.3%	21.1%	15.8%	63.2%	36.8%								

(3) 数学 <中学校第1学年>

ア 特徴ある問題から 大問5 (2)

(中学校学習指導要領解説(数学編)[第1学年]P70 A「数と式」イ(ア)と関連)

学習指導要領解説には「式を用いて数量の関係や法則などを表したり、その意味を読み取ったりするとともに、そのよさを感じ取り、式を積極的に活用できるようにすることが大切である。」とあります。そこで本問題では、単に文字式による計算を解くだけの問題ではなく、きまりにそって計算することであらわれる結果について子供たちが考えたり、結果が正しいかを式を用いて説明したりする場面を取り上げ、出題しています。

その際、実際に授業でも取り扱うことができるように、子供自らが具体的な数を用いて試行錯誤しながら成り立つと予想される事柄を見いだす場面を取り扱っています。

5 次の図1のように、はじめの数として○に整数を入れ、①～③のきまりにそって計算し、計算結果を求めます。このとき、次の1、2の各問いに答えなさい。

図1

はじめの数 ① ② ③ 計算結果

1をたす 2をかける 2をひく

1 しんじさんは、はじめの数として○にいろいろな整数を入れ、計算結果を求めたことにした。このとき、次の①、②の各問いに答えよ。
① はじめの数が10のときの計算結果を求めよ。

2 しんじさんは、はじめの数として○に n を入れて計算したときの結果を次のように考えた。ア、イに当てはまる式を書け。

しんじさんの考え

はじめの数が2のときは、

① ② ③ 計算結果

2をたす 2をかける 2をひく 4

はじめの数が3のときは、

① ② ③ 計算結果

3をたす 2をかける 2をひく 6

はじめの数が-1のときは、

① ② ③ 計算結果

-1をたす 2をかける 2をひく -2

はじめの数が2のときは、 $(2+1) \times 2 - 2 = 4$
 はじめの数が3のときは、 $(3+1) \times 2 - 2 = 6$
 はじめの数が-1のときは、 $(-1+1) \times 2 - 2 = -2$ なので、
 はじめの数が n のときは、 $\text{ア} = \text{イ}$ と表すことができる。

2 しんじさんの考えを見ながら、りり子さんは、しんじさんの計算のきまりを変えたと新たな結果が表れることに気付いた。次の2人の会話文を読み、ウ、エに当てはまる数や式を書け。

りり子さん

しんじさんが、③で行っていた「2をひく」計算を「はじめの数の2倍をひく」計算にかえてみたら結果はどうなるのかな。

図2

はじめの数 ① ② ③ 計算結果

1をたす 2をかける 2倍をひく

しんじさん

計算のきまりを③に表すと図2のようになるよね。この図にしたがって式をつくって確かめてみよう。あれ、少し条件が変わっただけなのに、はじめの数にどんな数を当てはまっても計算の結果が必ずウになるな。なぜだろう。

りり子さん

不思議だね。本当にどんな数でもそういえるのか。文字を使って確認してみよう。きまりにしたがって、 n を用いた式をつくると、しんじさんが言っていることと同じ結果になったよ。

式 $\text{エ} = \text{ウ}$

本問題における平均通過率は 45.6%、無答率は 8.2%となっています。原因として、与えられた事象からきまりを見いだすために十分な試行錯誤を行う授業や、数量の関係や法則について自らその規則を見いだしたり、その理由について式を用いて説明したりする授業が十分になされていない可能性があります。そこで授業改善として、次のような工夫が考えられます。

イ 授業改善のポイント

鹿児島学習定着度調査 中1 数学大問5 2 (授業改善案)

1辺に n 個ずつ基石を並べて正三角形の形をつくる。基石の全部の個数を求める式をつくる。

1. 基石の並び方を工夫して、基石全部の個数を求める式をつくる。

2. 基石全部の個数を求めるに役立つ形をみつけて、証明する。

1辺に n 個ずつ基石を並べて正三角形の形をつくる。基石の全部の個数はどのように表されるかを考える学習課題です。(H25「授業アイデア例」から)

C 「 $3(n-2)+3$ です」
C 「 $3n-3$ です」
T 「 $3(n-1)$ という式で求めた友だちがいました。どのような困み方が考えられるでしょうか。
 $n+(n-1)+(n-2)$ では？」

式を読み取る活動 条件を変えて問題をつくる活動

1辺に n 個ずつ基石を並べて正三角形をつくる時基石の全部の個数はどのように表されるかを考える学習課題です。教師はできるだけ多くの反応例を予想しておき、生徒の発表で取り扱われていない考えを提示し、生徒が式を読み取る活動を行うことが考えられます。



※ 国立教育政策研究所 平成25年度「授業アイデア例」から

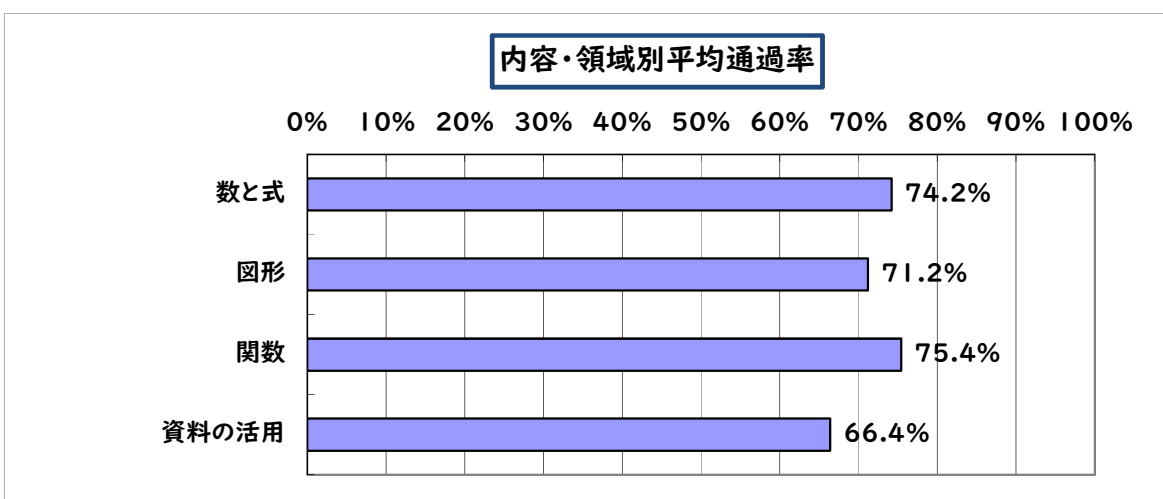
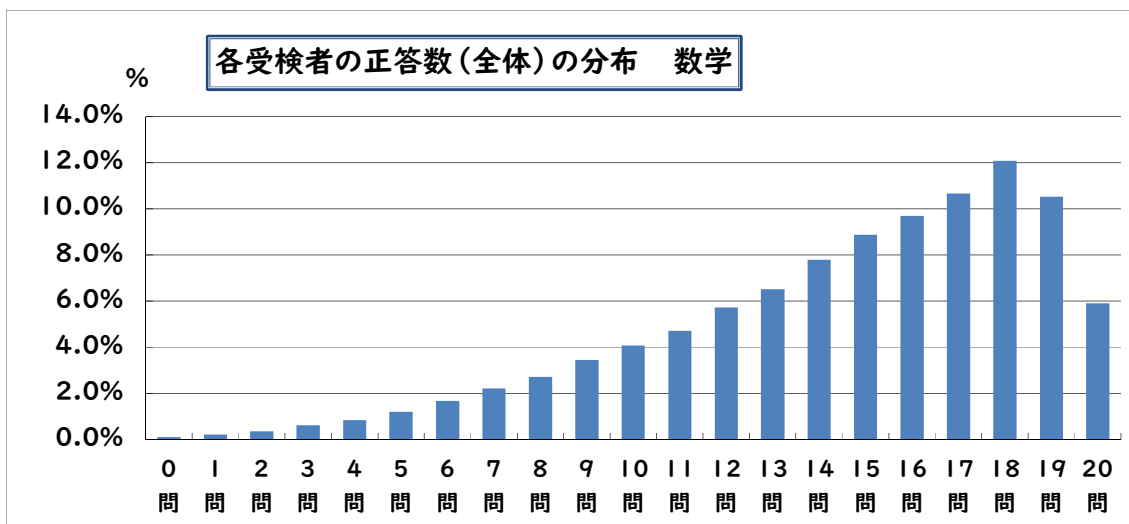
「条件を変えて、自分たちで問題がつかれないだろうか」と発問し、生徒自ら正三角形を正方形に変えたり、あるいは立方体に変えたりして、発展的に考察するなどの活動が考えられます。このような活動を他領域や他学年においても計画的に教育課程に位置付け、見方・考え方を働かせながら、資質・能力を育成することが重要です。

二次元コードを読み取り、「県総合教育センター『学びの地図』に掲載中の鹿児島学習定着度調査解説動画」を見よう!

中学校第2学年【数学】

(1) 中2平均通過率と受検者の正答数分布

学年別平均通過率		小5	中1	中2
	知識・技能	74.5%	80.5%	80.3%
	思考・判断・表現	55.6%	54.3%	61.0%
	全体	67.4%	70.9%	72.5%



- 「知識・技能」の平均通過率は80.3%です。三角形の2つの内角の和から、となり合わない外角の大きさを求める問題が60.2%であり、課題となっています。
- 「思考・判断・表現」の平均通過率は、61.0%である。目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する問題が44.4%(無答率13.0%)、事柄の特徴を数学的に説明する問題が55.1%、証明した事柄を用いて新たな性質を見出す問題が55.1%、与えられた事象を関数の考えを用いて解決する問題が37.1%、データの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題が39.3%(無解答率12.1%)であり、課題となっています。
- 授業においては、証明に用いた前提や証明の根拠、結論を整理するなどして証明を振り返り、新たな性質を見出す活動や、日常の事象の中にある関数の関係を捉え、その特徴を表、式、グラフを用いて説明するといった活動を取り入れていくことが求められます。

(2) 各設問の分類と平均通過率

数学(中学校第2学年)

	設問			出題学年	学習指導要領の領域				評価の観点		県平均		校内平均		出題の意図
	大問	中問	小問		数と式	図形	関数	資料の活用	知識・技能	思考・判断・表現	通過率	無解答率	通過率	無解答率	
1	1	1		中2	○				○		89.2%	1.2%			単項式どうしの除法の計算ができるか。
2		2		中2	○				○		79.3%	1.7%			文字に数を代入し、式の値を求めることができるか。
3		3		中2	○				○		72.1%	7.4%			加減法や代入法を利用して、連立方程式を解くことができるか。
4		4		中2	○				○		94.1%	2.4%			数量の関係を捉え、2元1次方程式を立式できるか。
5	2	1		中1					○		91.5%	0.3%			表から比例の特徴を捉え、 x の値に対応する y の値を求めることができるか。
6		2		中1					○		76.7%	0.3%			反比例のグラフの特徴を理解しているか。
7	3	1		中2		○			○		89.7%	1.2%			平行線の性質を用いて角度を求めることができるか。
8		2		中1		○			○		76.6%	0.3%			折り目の線と垂直二等分線について理解しているか。
9	4	1		中2	○					○	85.2%	2.9%			問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるか。
10		2		中2	○					○	44.4%	13.0%			目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるか。
11		3		中2	○					○	55.1%	2.2%			数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができるか。
12	5	1		中2		○				○	74.2%	3.6%			証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解しているか。
13		2		中2		○				○	60.2%	6.5%			三角形の2つの内角の和から、となり合わない外角の大きさを求めることができるか。
14		3		中2		○				○	55.1%	1.3%			証明した事柄を用いて、新たな性質を見いだすことができるか。
15	6	1		中1						○	82.2%	2.9%			事象における数量の関係を見だし、それを的確に捉えることができるか。
16		2		中1						○	89.6%	0.7%			比例の考え方が利用されていることを見いだすことができるか。
17		3		中1			○			○	37.1%	1.2%			与えられた事象を求めるための方法を判断することができるか。
18	7	1		小6					○	○	70.3%	4.0%			資料から最頻値を正しく求めることができるか。
19		2		中1					○	○	89.7%	1.3%			相対度数の必要性と意味を理解しているか。
20		3		中1					○	○	39.3%	12.1%			データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるか。
計				問題数	7	5	5	3	12	8					
				出題割合	35.0%	25.0%	25.0%	15.0%	60.0%	40.0%					
											72.6%	3.3%	0.0%	0.0%	

(3) 数学 <中学校第2学年>

ア 特徴ある問題から 大問5 (4)

(中学校学習指導要領解説(数学編)[第2学年]P115 B「図形」イ(ア)と関連)

学習指導要領解説には「三角形や平行四辺形の性質の証明の学習においては、証明を書くこととともに、証明を読むことも大切である。」とあります。そこで本問題では、単に図形の性質を証明するだけの問題ではなく、証明の過程を子供が説明している場面で、証明を読み、図形の条件の変更することで新たに見いだされる性質について考える問題を出題しています。

その際、実際に授業でも問題づくりを取り扱うことができるよう、問題の条件を正三角形から正方形に変えた場合に成り立つと予想される事柄を子供たちが見いだす場面を取り扱っています。

3 図3は、図1の線分ADと線分BEの交点をPとしたものである。板子さんは、図4のように、図3の点Dは辺BC上を点Cの方向に、点Eは辺CA上を点Aの方向に、 $BD=CE$ の関係を保ったまま動かしたときの図をかいた。

板子さんは、図3から図4のように交点Pの位置が動いても、 $\angle BPD$ の大きさは、変わらず、 60° で一定になることに気付き、太一さんに説明している。

板子さん: 1の証明から、図3でも $\angle BAD = \angle CBE$ は成り立つね。 $\angle BAD$ と $\angle CBE$ に●をつけてみて。

太一さん: うん。●をつけておくれ。

板子さん: 次に、 $\triangle ABC$ が正三角形だから $\angle B$ は 60° になるね。だから、 $\angle ABP$ は $(60^\circ - \bullet)$ と表されるよ。

太一さん: なるほどそうだね。ところで、 $\angle BPD$ の大きさとどんな関係があるのかな。

板子さん: $\angle BPD$ は、 $\triangle ABP$ の頂点Pにおける外角になっているでしょう。三角形の外角はそれととなり合わない2つの内角の和に等しいよね。

太一さん: ということは、 $\angle ABP$ は $(60^\circ - \bullet)$ 、 $\angle BAP$ は \bullet だったから・・・。

板子さん: $\angle BPD$
 $= \angle ABP + \angle BAP$
 $= (60^\circ - \bullet) + \bullet = 60^\circ$
 これで、いつでも 60° になることが説明できるね。

次に、太一さんは、正三角形を正方形に変えて、考えてみることにした。図5のように、 $AB=BC=CD=DA$ 、 $\angle A = \angle B = \angle C = \angle D = 90^\circ$ の正方形ABCDの辺BC、CD上に $BE=CF$ となる点E、Fをそれぞれとる。ただし、点Eは点B、Cと、点Fは点C、Dと重ならないものとする。また、線分AEと線分BFの交点をQとする。図6のように、図5の点Eは辺BC上を点Cの方向に、点Fは辺CD上を点Dの方向に、 $BE=CF$ の関係を保ったまま動く。このとき、 $\angle BQE$ の大きさについて正しく述べているものを、下のア～エの中から1つ選び、記号で答えよ。

本問題における平均通過率は 55.1%となっています。原因として、証明を読み、他の証明との違いや共通点を見いだしたり、図形の条件の一部を変えた際に成り立つと予想される事柄を見いだしたりする授業が十分にされていない可能性が考えられます。そこで授業改善として、次のような工夫が考えられます。

イ 授業改善のポイント

変化の割合の理解を深めるためには

($\triangle ACE \cong \triangle BCD$ を証明し、 $AE=BD$ を証明した後…)

この問題の条件を変えて問題をつくることはできないだろうか

C「問題をつくるって、どうすればいいのかな。」
 T「問題に設定されている条件を変えてみて問題をつくれないうるか。どのような条件がありますか」
 C「条件って…例えば正三角形とか？」
 T「なるほど。それも条件の一つですね。変更することはできそうでしょうか。」
 C「図形以外にも、辺の長さを変えてもいいのかな？」

(結論) $AE=BD$

変化の割合の理解を深めるためには

この問題の条件を変えて問題をつくることはできないだろうか

C「図形ごとを変えてみようかな？」
 C「辺の長さを変えてみようかな？」
 T「その場合、先ほどの証明とどこがかわってくるでしょうか」



「この問題の条件を変えて新たな問題をつくることはできないだろうか」というように発問し、問題の条件を変えて新たな問題をつくる場面を設定します。「この問題にはどのような条件がありますか」「今まで学習してきたことを使って問題をつくることはできませんか」と子供の考えを引き出すように工夫します。

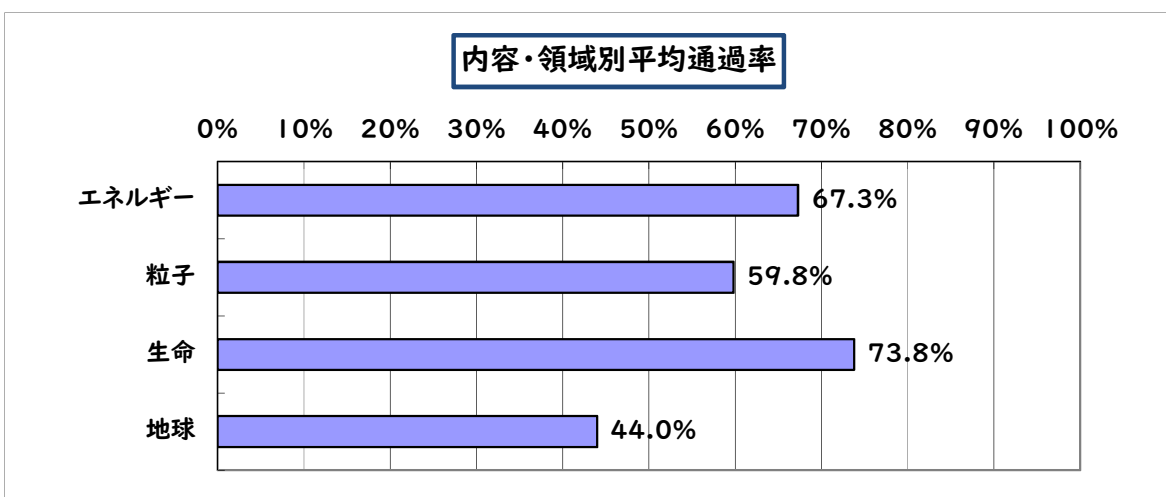
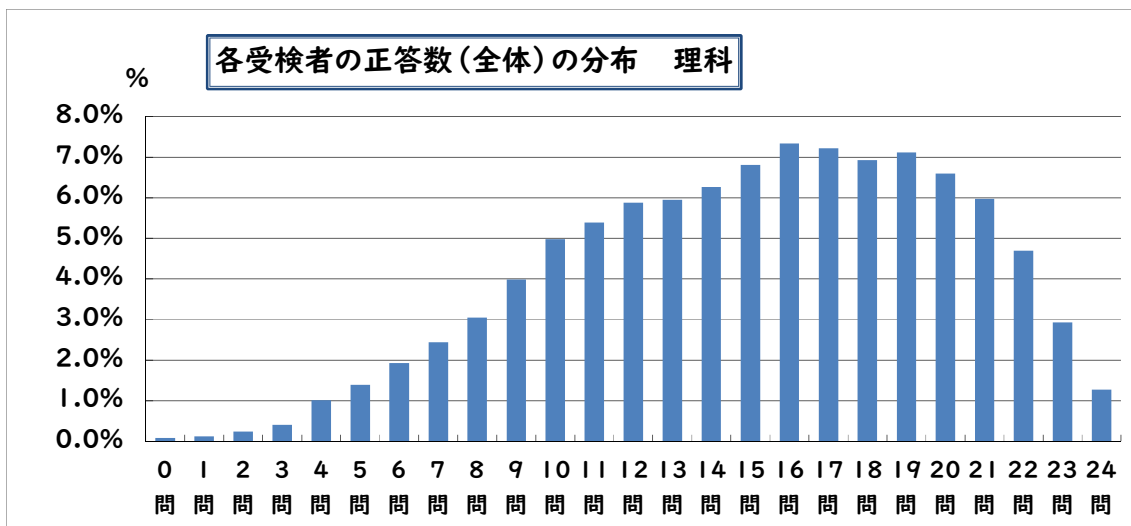
条件を変えてできた図形における証明と先ほどの証明との違いや共通点を見つける活動を行い、証明を評価・改善する活動を通して、論理的に考察し、表現する力を養うことが重要です。このような活動を他領域や他学年においても計画的に教育課程に位置付け、見方・考え方を働かせながら、資質・能力を育成することが重要です。

二次元コードを読み取り、「県総合教育センター『学びの地図』に掲載中の鹿児島学習定着度調査解説動画」を見てみよう!

中学校第1学年【理科】

(1) 中1平均通過率と受検者の正答数分布

学年別平均通過率		小5	中1	中2
	知識・技能	72.4%	68.2%	67.9%
	思考・判断・表現	70.7%	55.0%	52.3%
	全体	71.7%	63.2%	62.5%



- 「知識・技能」の平均通過率は68.2%であり、やや課題が見られる。大問8(2)のれき、砂、泥が粒の大きさの違いによって層に分かれることを理解しているかを問う設問は43.3%と低くなっており、中学1年生で学習する際に、土砂の堆積は質量によらないことを再度、確認する必要があります。
- 「思考・判断・表現」の平均通過率は55.0%である。大問7(2)の飽和水溶液の質量パーセント濃度を求める問いは31.1%と通過率が低くなっています。モデル等を用いて考えたり、既習事項と関係付けるなど、理科の見方・考え方を働かせることが大切です。
- 内容・領域別の通過率は地球領域が44.0%と低くなっています。小学校からの出題であり、中学校1年生でも学習する内容であることから、生徒の小学校での定着の状況を確認しつつ、授業を行っていくことが大切です。

(2) 各設問の分類と平均通過率

理科(中学校第1学年)

設問	出題学年			内容領域別				評価の観点		県平均		校内平均		出題の意図	
	大問	中間	小問	エネルギー	粒子	生命	地球	知識・技能	思考・判断・表現	通過率	無回答率	通過率	無回答率		
1	1					○		○		76.0%	0.1%			ルーペの正しい使い方を理解しているか。	
2	1	2				○		○		64.1%	0.3%			被子植物と裸子植物のつくりで共通する点を理解しているか。	
3		3				○		○		63.2%	1.7%			被子植物と区別し、裸子植物の花のつくりと特徴を理解しているか。	
4		1				○		○		85.8%	1.8%			セキツイ動物の特徴を理解しているか。	
5	2	2				○		○		85.4%	0.3%			魚類と両生類の特徴について理解し、それらを分類する観点を考えることができるか。	
6		3				○		○		68.1%	0.2%			軟体動物の体の特徴を理解し、その特徴から分類することができるか。	
7		1			○			○		66.2%	1.2%			メスシリンダーの値を読み取り、物体の体積を求めることができるか。	
8	3	2			○			○		69.5%	1.3%			質量と体積の値から密度を求め、金属を同定できるか。	
9		3			○			○		53.5%	0.5%			密度の定義を理解し、応用して考えることができるか。	
10		1			○			○		71.3%	0.4%			混合物を蒸留する実験方法を理解しているか。	
11	4	2			○			○		70.4%	0.3%			蒸留について理解しているか。	
12		3			○			○		64.9%	9.0%			沸点の違いを利用して、混合物から物質を分離できることを説明することができるか。	
13		1			○			○		63.3%	4.7%			スクリーンにうつすことができる像が実像であることを理解しているか。	
14	5	2			○			○		75.5%	1.6%			実像の基本的な作図の仕方を理解しているか。	
15		3			○			○		42.7%	0.6%			物体を凸レンズに近づけたとき、できる実像の向きと大きさがどのように変わるか理解しているか。	
16		1			○			○		95.5%	0.3%			音源の振動により、音が鳴ることを理解しているか。	
17	6	2			○			○		59.3%	0.4%			高さは変わらず、音が大きくなったときにオシロスコープの波形がどうなるかを理解しているか。	
18		3			○			○		67.6%	0.4%			モノコードを使って低い音を出す方法を理解しているか。	
19		1			○			○		66.0%	0.6%			質量パーセント濃度の求め方を理解しているか。	
20	7	2			○			○		31.1%	8.0%			飽和水溶液の質量パーセント濃度を求めることができるか。	
21		3			○			○		45.6%	1.1%			再結晶の様子を、粒子のモデルを使って表現することができるか。	
22		1					○	○		45.8%	0.8%			流れる水の働きによってできる粒子の特徴を理解しているか。	
23	8	2					○	○		43.3%	4.1%			れき、砂、泥は粒の大きさの違いによって層に分かれることを理解しているか。	
24		3					○	○		43.0%	0.9%			地層観察から分かる情報を正しく分析・解釈できるか。	
計				問題数	6	9	6	3	15	9	63.2%				
				出題割合	25.0%	37.5%	25.0%	12.5%	62.5%	37.5%					

(3) 理科 <中学校第1学年>

ア 特徴ある問題から 大問 8 (3)

(小学校学習指導要領解説(理科編)[第6学年]P90 (4)土地のつくりと変化と関連)

特徴ある問題として、全国学力・学習状況調査の問題作成の枠組みを踏まえた問題を出題しています。本問題は、その枠組みの視点「検討・改善」を元に作成しています。「検討・改善」は、科学的な探究の方法が適切か検討して改善したり、自他の考えを多面的、総合的に捉えて妥当な考えに高めたり、探究の過程や方法を評価したりすることを求めています。

そこで本問題では、単に「地層観察から分かる情報を正しく答える。」問題ではなく、観察の結果から考察し、その考察が妥当であったのか、問題解決(探究)の過程を振り返る場面を想定して作成しています。

また、学習指導要領解説には、「土地やその中に含まれている物に着目して、土地のつくりやでき方を多面的に調べる。」ことや、「より妥当な考えをつくりだす力や主体的に問題解決しようとする態度を育成する。」ことが示されており、これが本単元において生徒が働かせる「理科の見方・考え方」になります。

【実験】
図2のような装置で、流れる水のほたらかさによって図解された、れき、砂、どろを露出した土砂に水をかけて流した後、しばらくその流すにすると、土砂が堆積した。

① 実験に使用したれき、砂、どろに表題する特徴として最も適切なものを、次のア～エから1つ選び、記号で答えよ。
ア 角がとれて丸みを帯びた粒である。
イ 一つ一つの粒が角ばっている。
ウ 小さな穴がたくさんあいているものが詰まっている。
エ 2mm未満の粒である。

② 図2のようにできた地層は、土砂を流した方から順にれき、砂、どろが層になって積み重なっていた。れき、砂、どろは、何のものがいによって層に分かれるか。

③ 花子さんは、観察を通して下のように考えた。花子さんの下部の考えに対する、判断として最も適切なものを、次のア～エから1つ選び、記号で答えよ。
花子さん
「地層の様子から、図1の地層が積み重なった期間に起きた「火山の噴火は、2回である」と言えます。」

ア 地層は奥まで広がってつながっているので、「火山の噴火は2回である」と言える。
イ およびには、火山灰の層が2層あるので、「火山の噴火は2回である」と言える。
ウ れき、砂、どろの層が見られるので、「火山の噴火は2回である」とは言えない。
エ 草でおおわれて見えない部分の地層を調べていないので、火山の噴火は2回である」とは断言できない。

本問題における平均通過率は43.0%となっています。原因として、授業で生徒が探究の過程を振り返る場面が十分に設定できていない可能性が考えられます。そこで、授業改善として、次のような工夫が考えられます。

イ 授業改善のポイント

鹿児島学習者度調査 中1理科大問8 3

身近な地層からどのようなことがわかるだろうか。

考察

- 火山の活動が少なくても、2回はあったと考えられる。
- この場所が海底で、土砂が堆積し、隆起したと考えられる。

まとめ

身近な地層から、火山活動が過去にあったことや、以前海底であったことがわかるが、さらに詳しく調べるためには、草でおおわれている部分を調べたり、他の露頭を調べる必要がある。

鹿児島学習者度調査 中1理科大問8 3

～考察を深める場面(班や学級で)～

S1 「火山灰の層が2つあるから、火山の活動が2回あったのでは。」

S2 「火山の活動は2回と断言していいの?」

S1 「2つ火山灰の層があるから、いいのでは。」

S3 「草で隠れているところにも火山灰の層があるかもしれないんじゃない。」

S4 「確かに、この結果からでは、草で隠れているところの層がわからないので、2回とは言い切れないよ。」

考察場面では、本当にその結果から言えることは何かという視点で、話し合い深めていきます。班ごとに、話し合いの内容に差がある場合は、ICTを用いたり、班同士の交流を行ったりするなどして、話し合いが深まるようにします。

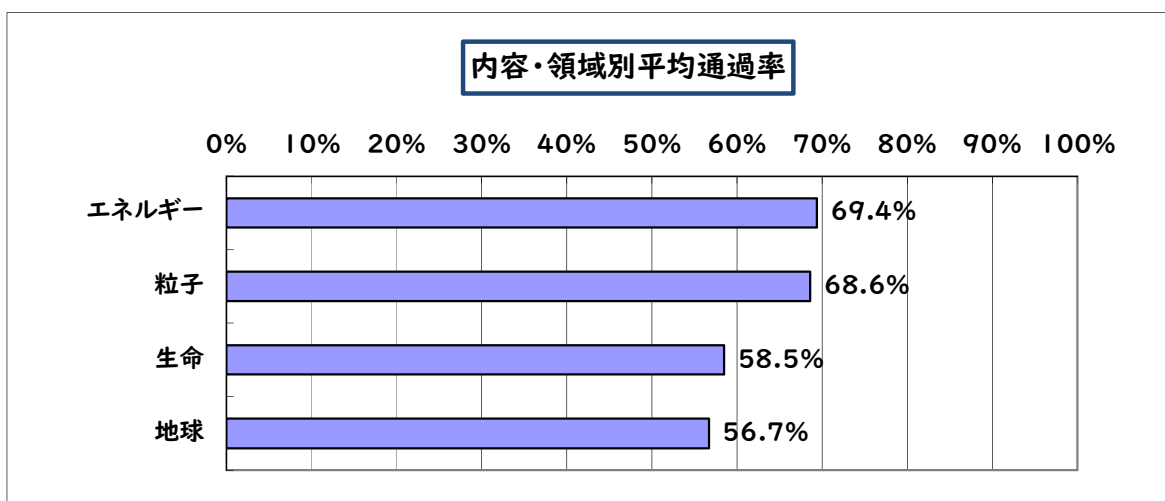
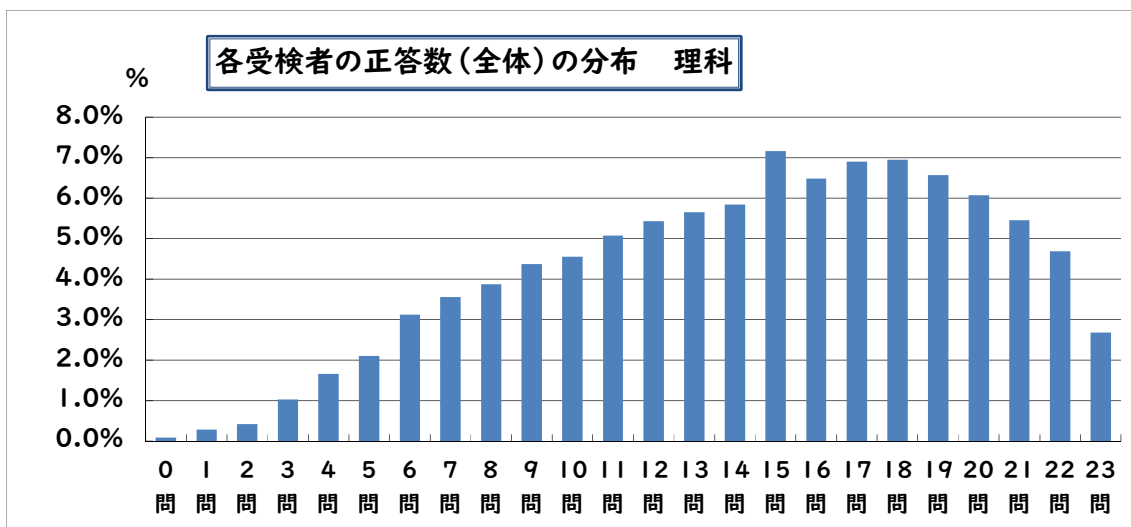
どうすれば改善できるのかを個人で考え、班やクラスで検討することによって科学的な探究の方法が適切か検討して改善したり、自他の考えを多面的、総合的に捉えて妥当な考えに高めたりすることができます。このように、単元の中で探究の過程を振り返ることができる時間を設定していくことが求められます。

二次元コードを読み取り、「県総合教育センター『学びの地図』に掲載中の鹿児島学習者度調査解説動画」を見よう!

中学校第2学年【理科】

(1) 中2平均通過率と受検者の正答数分布

学年別平均通過率		小5	中1	中2
	知識・技能	72.4%	68.2%	67.9%
	思考・判断・表現	70.7%	55.0%	52.3%
	全体	71.7%	63.2%	62.5%



- 「知識・技能」の平均通過率は67.9%であり、やや課題が見られる。大問2(3)の細胞による呼吸を問う設問の通過率は24.2%、大問6(2)の海溝型地震の発生の仕組みを問う設問の通過率は44.1%と低くなっています。細胞による呼吸や内陸型地震も含めた地震発生の仕組みについて、再度、確認する必要があります。
- 「思考・判断・表現」の平均通過率は52.3%である。大問3(3)のグラフ、表の数値から規則性を見だし酸化銅の質量を求める問いが通過率46.9%です。実験から見出した規則性を元に、比の計算を行うことができるようにしていくことが大切です。
- 内容・領域別の通過率は、地球領域が56.7%、生命領域が58.5%と低くなっており、課題が見られます。

(2) 各設問の分類と平均通過率

理科(中学校第2学年)

設問	出題学年			内容領域別				評価の観点		県平均		校内平均		出題の意図	
	大問	中間	小問	エネルギー	粒子	生命	地球	知識・技能	思考・判断・表現	通過率	無回答率	通過率	無回答率		
1	1		2			○		○		83.3%	0.6%			観察、実験の条件制御について、正しく理解しているか。	
2	1	2	2			○		○		61.4%	2.4%			4つの実験結果を比較し、正しい結果を出すことができるか。	
3		3	2			○		○		52.6%	3.0%			蒸散と吸水の関係を正しく理解しているか。	
4		1	2			○		○		89.6%	0.2%			赤血球のはたらきを理解しているか。	
5	2	2	2			○		○		39.8%	2.7%			養分の多くが小腸から吸収されることを理解しているか。	
6		3	2			○		○		24.2%	1.8%			細胞による呼吸を理解しているか。	
7		1	2			○		○		46.3%	7.4%			酸化銅の化学式を理解しているか。	
8		2	2			○		○		89.1%	2.1%			実験で得られた結果を正しくグラフに表現することができるか。	
9		3	2			○		○		46.9%	7.6%			銅と酸素の化合比を利用して、酸化銅の質量を求めることができるか。	
10		4	2			○		○		70.1%	5.1%			酸化と還元を理解しているか。	
11		1	2			○		○		86.0%	0.3%			純粋な水に電流を流すための方法を理解しているか。	
12		2	2			○		○		79.8%	0.4%			陰極、陽極から発生する気体とその性質を理解しているか。	
13		3	2			○		○		62.0%	3.6%			水の電気分解をモデルを使って表現することができるか。	
14		1	1	○				○		82.4%	0.5%			物体が静止したときのばねばかりと物体の位置関係を理解しているか。	
15	5	2	1	○				○		67.7%	0.5%			力のつり合いの条件を理解しているか。	
16		3	1	○				○		58.2%	1.9%			垂直抗力について理解し、正しく表現することができるか。	
17		1	1				○	○		58.7%	2.7%			マグニチュードについて理解しているか。	
18	6	2	1				○	○		44.1%	1.2%			海溝型地震の発生の仕組みを理解しているか。	
19		3	1				○	○		78.2%	0.8%			緊急地震速報の仕組みを図やグラフから考えることができるか。	
20		1	2				○	○		86.2%	0.6%			露点について理解しているか。	
21		2	2				○	○		47.1%	4.6%			飽和水蒸気量のグラフと露点から、湿度を求めることができるか。	
22	7	3	2				○	○		22.2%	3.0%			水蒸気量と湿度の関係を実験結果から求め、それぞれの結果を比較して考えることができるか。	
23		4	2				○	○		60.6%	1.5%			考察の妥当性について考えることができるか。	
計				問題数	3	7	6	7	15	8					
				出題割合	12.5%	29.2%	25.0%	29.2%	65.2%	34.8%					
										62.4%					

(3) 理科 <中学校第2学年>

ア 特徴ある問題から 大問 7 (3)

(中学校学習指導要領解説(理科編)P95 (4)気象とその変化 と関連)

花子さんと、太郎さんはある種れた日に、図1のように金属製のコップを出して、表面に水滴がつき始める温度を測る実験を行いました。また、図2は気温と飽和水蒸気量の関係を示したものです。次の各問いに答えなさい。

【実験】

- ① 表面をよく濡らした金属製のコップに、空気に近くした水を入れ、コップの中の水の温度を測る。
- ② コップの中の水をかき混ぜながら、氷水を少しずつ入れる。
- ③ コップの表面に水滴がつき始めたら、氷水を入れるのをやめて、コップの中の水の温度を測る。
- ④ ①～③をA、B、Cの3つの部屋で行い、その結果を表にまとめた。ただし、3つの部屋の湿度は全ての部屋で同じと考える。

表	A	B	C
はじめのコップの中の水の温度(°C)	25	21	21
水滴がつき始めたときのコップの中の水の温度(°C)	11	11	14

図1: 実験の様子。図2: 気温と飽和水蒸気量のグラフ。

(1) 空気に含まれる水蒸気が水滴に変わり始める温度を何というか。次のア～エから1つ選び、記号で答えよ。
ア 露点 イ 霜点 ウ 融点 エ 沸点

花子さんは、実験の結果をもとに、Aの部屋の湿度を求めました。

花子さんのノート

Aの部屋では、コップ内の温度が11°Cのときに水滴がつき始めたので、1m³の空気に含まれる水蒸気量は図2のグラフから(①)gである。
はじめのコップの中の水の温度が25°Cなので飽和水蒸気量は図2のグラフから23g/m³である。
よって、湿度を求める式は $\frac{(①)}{23} \times 100$ となる。

(答) (②) %

(2) ①、②に入る数字を答えよ。ただし、②は小数第1位を四捨五入して求めよ。

特徴ある問題として、全国学力・学習状況調査の問題作成の枠組みを踏まえた問題を出題しています。本問題は、その枠組みの視点「分析・解釈」を元に作成しています。「分析・解釈」は、事象の観察から抽出した要因や実験の結果などの情報を分析して解釈し、判断したり推論したりすることを求めています。

そこで本問題では、「水蒸気量や湿度を実験結果から求める。」だけの問題ではなく、実験の結果から得られたデータを用いて、その情報を分析して解釈し、判断する場面を想定して作成しています。また、学習指導要領解説には、「大気中の水蒸気が凝結する現象を気圧、気温及び湿度の変化と関連付

けて理解させる。」ことや、「気温が下がると飽和水蒸気量が小さくなるため湿度が上がるという規則性を理解させる。」ことが示されています。

太郎さんと花子さんは、実験の結果について次のように考えました。

結果の表と図2のグラフを見ると、2つの部屋で1m³の空気に含まれる水蒸気量の量が同じになるね。

そうね、(①)と(②)の部屋で1m³の空気に含まれる水蒸気量が同じになるね。ということは、この2つの部屋を比べると、(③)の部屋の方が湿度が小さいんだね。

(3) 花子さんの会話の①～③にあてはまる部屋の番号をA～Cから1つずつ選び、それぞれ記号で答えよ。
① A ② B ③ A

本問題における平均通過率は22.2%となっています。原因として、生徒が理科の見方・考え方を十分に働かせられなかったり、飽和水蒸気量や湿度の概念を十分に理解できていなかったりする可能性が考えられます。そこで、授業改善として、次のような工夫が考えられます。

イ 授業改善のポイント

鹿児島学習定着度調査 中2理科大問7 (3)

結果	1班	2班	3班	4班	5班	6班	7班	8班	9班
金属製のコップに氷水を入れて、まわりの空気を冷やしていくと、ある一定の温度で水滴が生じた。	21.2	21.0	21.0	20.8	21.2	20.8	20.8	21.0	21.0
露点… 水蒸気が凝結し始めるときの温度	11.0	11.0	11.1	10.8	11.1	11.0	11.0	11.0	11.0

金属製のコップに氷水を入れて、まわりの空気を冷やしていくと、ある一定の温度で水滴が生じた。

露点… 水蒸気が凝結し始めるときの温度

飽和水蒸気量… 1m³の空気が含むことのできる水蒸気の最大質量

理科の考え方： 既習事項と「関係付ける。」

まとめ
空気が冷やされて露点に達すると、飽和水蒸気量をこえた水蒸気が凝結して水滴になる。

中1で学習した溶解度曲線と同じように考えられるんじゃない。

鹿児島学習定着度調査 中2理科大問7 (3)

図2: 気温と飽和水蒸気量のグラフ

①の部屋に含まれる水蒸気量は10g、湿度は約47%

②の部屋に含まれる水蒸気量は10g、湿度は約54%

③の部屋に含まれる水蒸気量は12g、湿度は約65%

中学1年の時に学習した、溶解度や溶解度曲線の考え方を想起させる、つまり理科の考え方「関係付ける。」(既習の内容と結びつける)を働かせることが大切です。

分析・解釈する場面では、露点と飽和水蒸気量、湿度の関係を確認し、それぞれの部屋の水蒸気量の変化をグラフで考えるなどして、気温が下がると飽和水蒸気量が小さくなるため湿度が上がるという規則性を見だし、整理して考えることができます。

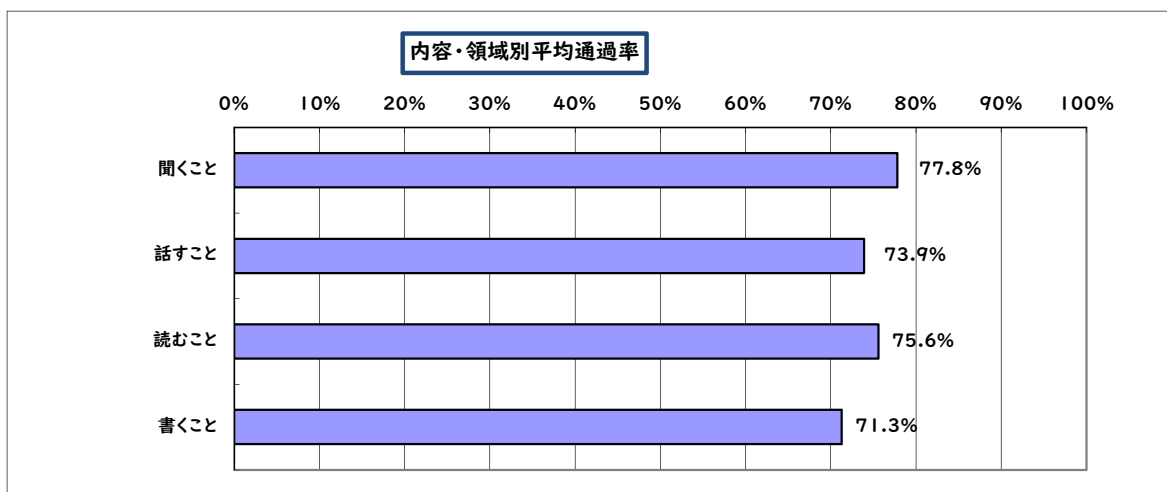
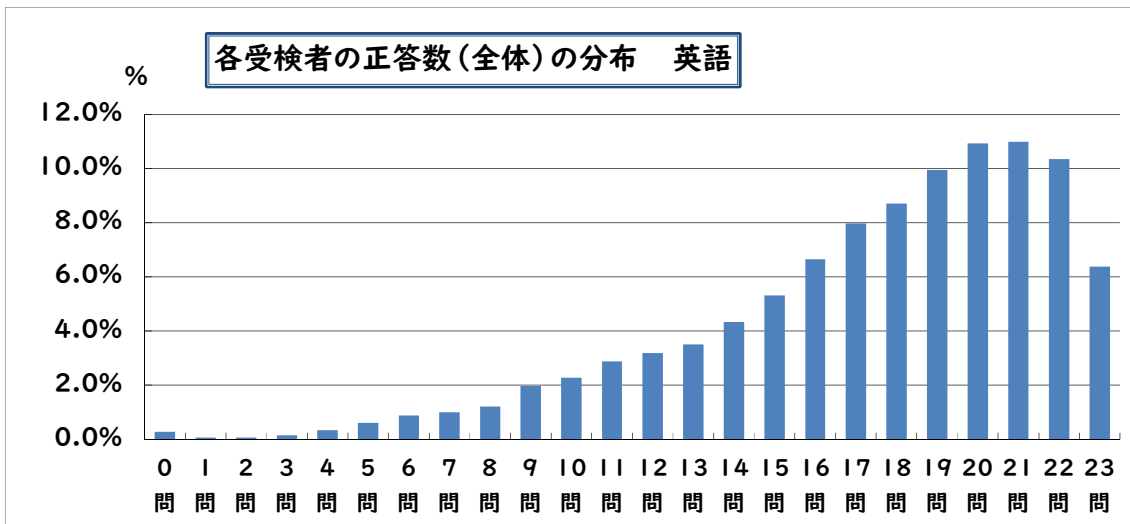
二次元コードを読み取り、「県総合教育センター『学びの地図』に掲載中の鹿児島学習定着度調査解説動画」を見よう!



中学校第1学年【英語】

(1) 中1平均通過率と受検者の正答数分布

学年別平均通過率		中1	中2
	知識・技能	74.9%	73.7%
	思考・判断・表現	76.8%	58.4%
	全体	75.7%	67.8%



- 「知識・技能」については、平均通過率が80%を越えたのは14問中5問で、平均通過率が74.9%と全体として成果が見られつつあります。一方で、日付を正確に聞き取る問題は50.3%、勧誘を断る表現を選択する問題は40.9%、対話の流れから適切な語を補って文を完成させる問題は54.7%と通過率が特に低く、例年課題としている内容について改善が見られない部分もあり、課題が固定化しているものも見られます。
- 「思考・判断・表現」については、平均通過率が50%を越えたのは9問中9問で、平均通過率が76.8%と全体として改善傾向にあります。一方で、英文の要点を把握し、適切な英文を選択する問題は63.8%、書くことの問題におけるコミュニケーションに支障をきたさないように英文を書く視点は58.7%と通過率が特に低く、課題が浮き彫りになっています。特に書くことについては、例年課題としているポイントであり、具体的な指導改善が必要です。

(2) 各設問の分類と平均通過率

英語（中学校第1学年）

	設問			出題 学年	学習指導要領の領域				評価の観点		県平均		校内平均		出題の意図
	大問	中間	小問		聞く こと	話す こと	読む こと	書く こと	知識・ 技能	思考・ 判断・ 表現	通過率	無解答率	通過率	無解答率	
1		(1)		中1	○				○		94.2%	0.0%			英語を聞いて、ノートを開ける指示を聞き取ることができるか。
2	1	(2)		中1	○				○		91.0%	0.0%			英語を聞いて、複数のものの数とその場所を聞き取ることができるか。
3		(3)		中1	○				○		50.3%	0.1%			英語を聞いて、正しい日付を聞き取ることができるか。
4		(1)		中1	○	○			○		80.6%	0.1%			好みを尋ねる質問に正しく答えることができるか。
5	2	(2)		中1	○	○			○		86.8%	0.1%			数を尋ねる質問に正しく答えることができるか。
6		(3)		中1	○	○			○		40.9%	0.1%			勧誘に対して適切に答えることができるか。
7	3			中1	○				○		77.5%	0.1%			メッセージを聞いて必要な情報を聞き取ることができるか。
8	4			中1	○	○			○		78.4%	0.1%			対話の流れに沿って適切な質問を選択することができるか。
9		(1)		中1	○				○		95.3%	0.3%			自己紹介を聞いて、その内容を整理して捉えることができるか。
10	5	(2)		中1	○	○			○		83.3%	4.2%			捉えた内容について適切に応じることができるか。
11	6			中1			○		○		79.0%	0.2%			メッセージの内容を把握し、適切なポスターを選択することができるか。
12		(1)		中1			○		○		79.0%	0.2%			対話文の内容を把握し、代名詞が指す適切な語を選択することができるか。
13	7	(2)		中1			○		○		72.2%	0.2%			ポスターの内容を読み取り、タイトルとしてふさわしい英文を選択することができるか。
14		(1)	①	中1		○	○		○		75.8%	0.3%			対話文の内容を正確に把握し、対話の流れに合う疑問文を選択することができるか。
15	8		②	中1		○	○		○		84.2%	0.3%			対話文の内容を正確に把握し、対話の流れに合う疑問文を選択することができるか。
16		(2)		中1			○		○		79.5%	0.4%			英文の概要を把握し、適切な語を選ぶことができるか。
17	9			中1			○		○		63.8%	0.6%			英文の要点を把握し、適切な英文を選択することができるか。
18	10			中1			○	○	○		71.2%	6.3%			書かれた内容に対して、話の内容を捉え、自分の考えを示すことができるか。
19		(1)		中1		○		○	○		75.3%	0.7%			be動詞の否定文を正しい語順で答えることができるか。
20	11	(2)		中1		○		○	○		78.6%	0.8%			疑問詞を含む疑問文を正しい語順で答えることができるか。
21	12			中1		○		○	○		54.7%	4.9%			対話の流れから判断し、適切な語を補って表現できるか。
22			A	中1					○		89.6%	3.3%			文と文とのつながりなどに注意してまとまりのある英文を書くことができるか。
23	13		B						○		58.7%	3.3%			
計				問題数	10	10	8	6	14	9					
				出題割合	40.0%	40.0%	32.0%	24.0%	60.9%	39.1%					
											75.7%	1.2%	#DIV/0!	#DIV/0!	

(3) 英語 <中学校第1学年>

ア 特徴ある問題から 大問9

(中学校学習指導要領〔外国語編〕P21 第2, 1, (2), ウと関連)

学習指導要領解説の該当箇所に、「社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができるようにする。」とあります。本問題では、ラオスで生活する子供たちの学校事情を話題とし、要点を踏まえて現地の子供たちの心情を捉えられるかについて出題したところ、平均通過率が 63.8%でした。下の解答のポイントや誤答傾向を踏まえ、内容理解や音読をさせる際に課題があると考えられます。それらを改善するためのポイントを下の「イ」にまとめました。

問題は、画像の枠内に「My hero」のイラストが描かれています。このイラストを参考に、下の文章を読んでください。

Hello, everyone.
Please look at this picture. This is my grandfather. He is my mother's father. His name is Ando Masato. He is seventy. He lives in Laos now. I heard about Laos from my grandfather. Do you know about Laos?
Some children in Laos can't go to school. They don't have schools near their houses and they help their families every day. They want to study, but they can't.
My grandfather likes children very much. He plays the guitar and sings songs well. He is a music teacher for them. Many children come to his house. Everyone sings and dances with a smile. He enjoys his life in Laos very much. I want to see him and the children in Laos someday.
My grandfather is my hero, and he is also a hero for the children in Laos. Thank you.

【語彙】 here ヒア here grandfather 祖父 Laos ラオス人 民族主義者 now 今 heard 聞いた knew 知っていた children 子どもたち near 近く help 助ける family(ies) 家族 song(s) 歌 with a smile 笑顔で He 他 名詞 somebody いつか

ア He goes to school with me.
イ He doesn't like music.
ウ They are very happy.
エ They don't want to go to school.

【解答のポイント】

- 1 文章の要点を読み取れたか。
- 2 選択肢の英文について、意味を捉えたか。
- 3 文脈から空欄に当てはまりそうな表現を発想できたか。

【誤答傾向（予測）】

- ・ まとまりのある文を読むこと自体に苦手意識がある。
- ・ それぞれの代名詞が誰を指しているのか混乱した。
- ・ 空所がある段落だけ読み、文脈を読み違えた。

二次元コードを読み取り、「県総合教育センター『学びの地図』に掲載中の鹿児島学習定着度調査解説動画」を見てみよう!

イ 授業改善のポイント

課題が見られた主な問題 大問9 リーディング問題

- 1 文頭から英語の語順で読ませる

英文を単語が出てくる順番で読ませる。(日本語の語順に合わせた「返り読み」をさせない。)その指導を通して、「誰が」「どうした」「何を」「いつ」などの順番で英文を理解させ、意図的に**文構造への理解**を促す。
- 2 「すべての英文の意味が分からないといけない」という意識をもたせない

教科書本文の内容理解をする際は、すべての英文の意味を捉えないと「分かった」ことにならないという意識を、教師も生徒ももたないことを前提とする。Top-down processingの手法などを踏まえながら、普段から「概要」や「要点」を捉える指導を徹底する。また、英文の「読み方」を意識した指導をする。未習部分や分からない箇所は前後や文脈から**推測**することも指導する。

課題が見られた主な問題 大問9 リーディング問題

- 3 語や文章構成等の知識を活用させる

語や句、連語など(so, because, on the other hand)について、意味だけではなく**文章中での働き**等を理解させ、内容理解を促す。
- 4 推論発問等を取り入れる

教科書本文の内容理解の際に、事実発問だけではなく**推論発問**(直接書かれていないことに関する発問)や**評価発問**(内容に対して自分はどう思うかを問う発問)に取り組み多様な読ませ方を通して深い読みをさせる。
- 5 音読を大切にする

教科書本文の内容理解を終えた後の**reading aloud**を充実させる。(時間が無いからと短縮しない。)複数の手法を組み合わせ、内容をよりの確に表出するような音読をさせる。

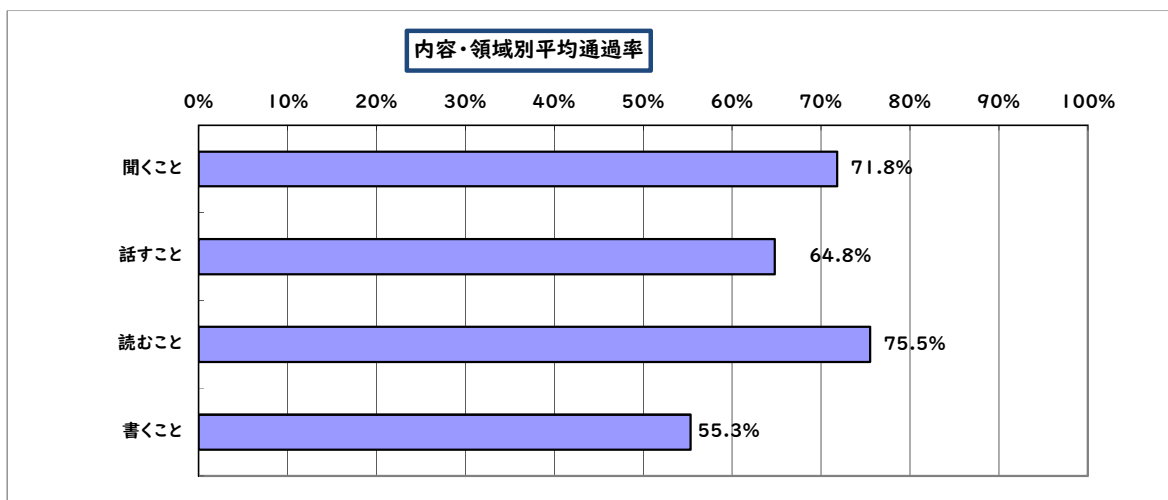
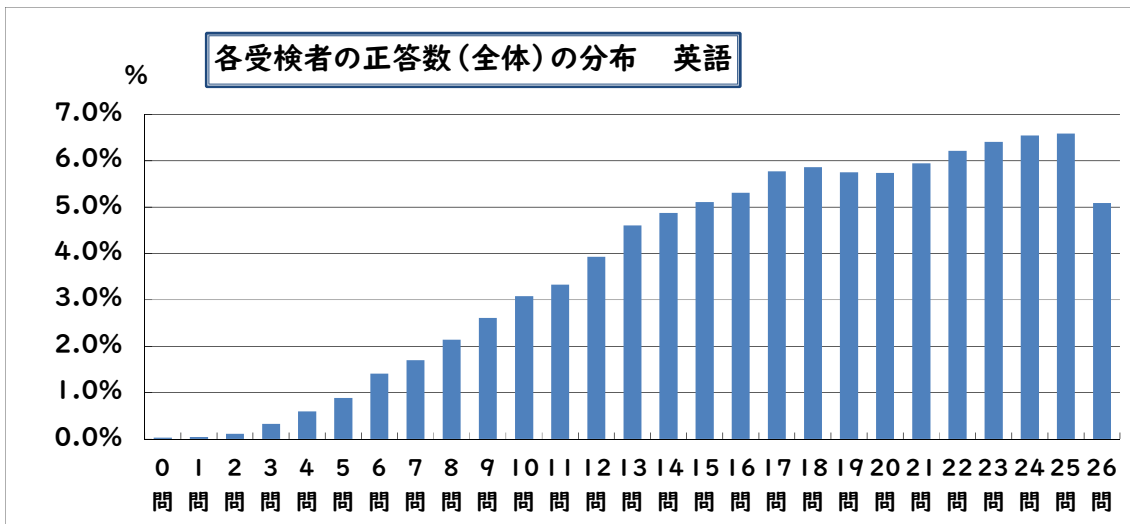
内容理解の際は、いきなり文単位で最初から意味をとろうとせず、文章全体を通した大きなもの(概要)から捉えて、次第に小さなもの(内容)を捉えていく読み方をさせましょう。その際、全ての英文を日本語に置き換える必要はありません。また、分からない箇所があったら前後から推測して読ませることに普段から取り組んでおくと効果的です。

接続詞の働きなどに注目し、全体の文章構成を把握させながらその先を推測させる活動も効果的です。また、推論発問を活用して、教科書には書いていない文章の続きや登場人物の心情について書いてあることを根拠に推測させると、行間を読ませる深い読みにつながります。音読は、内容理解の後にその内容を表出する工夫をさせると、内容理解が更に深まります。しっかり時間を確保し複数の手法(chorus, buzz, read and look up, shadowing など)を使いながら上手に読める生徒を増やしましょう。

中学校第2学年【英語】

(1) 中2平均通過率と受検者の正答数分布

学年別平均通過率		中1	中2
	知識・技能	74.9%	73.7%
	思考・判断・表現	76.8%	58.4%
	全体	75.7%	67.8%



- 「知識・技能」については、平均通過率が80%を超えたのは16問中6問で、平均通過率が73.7%と全体として成果が見られつつあります。一方で、二つの目的語をとる動詞の語順を正確に答える問題は63.7%、対話の流れから適切な語を補って文を完成させる問題は48.3%、与えられた情報に基づいて正確に英文を書く問題は42.9%と通過率が特に低く、例年課題としている内容について改善が進んでいない状況です。
- 「思考・判断・表現」については、平均通過率が50%を超えたのは10問中7問で、平均通過率が58.4%となり改善傾向にあります。一方で、聞いて把握した内容について適切な英文を書く問題は42.5%、読んで把握した内容について自分の考えを書く問題は47.4%、書くことの問題におけるコミュニケーションに支障をきたさないように英文を書く視点は25.0%と通過率が特に低く、課題が浮き彫りになっています。特に書くことについては、例年課題としているポイントであり、具体的な指導改善が必要です。

(2) 各設問の分類と平均通過率

英語（中学校第2学年）

設問	出題学年			学習指導要領の領域				評価の観点		県平均		校内平均		出題の意図
	大問	中間	小問	聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと	知識・技能	思考表	通過率	無解答率	通過率	無解答率	
1		(1)		中1	○				○		66.9%	0.1%		日常的な場面における英語を聞いて、適切な絵を選択することができるか。
2	1	(2)		中2	○				○		86.1%	0.1%		日常的な場面における英語を聞いて、適切な絵を選択することができるか。
3		(3)		中2	○				○		93.9%	0.0%		日常的な話題に関する対話を聞いて、適切な絵を選択することができるか。
4	2			中1・2	○				○		75.1%	0.1%		まとまりのある英文の概要を捉えることができるか。
5		(1)		中1・2	○				○		68.0%	0.2%		まとまりのある英文を聞いて、必要な情報を捉えることができるか。
6	3	(2)		中1・2	○				○		70.1%	0.4%		まとまりのある英文を聞いて、必要な情報を捉えることができるか。
7	4			中2	○			○	○		42.5%	18.0%		聞いて把握した内容について、適切に応じることができるか。
8		(1)		中2			○		○		71.7%	0.2%		英文を読んで、文脈から空所に入る接続詞を適切に選択することができるか。
9	5	①		中2		○	○		○		69.7%	0.2%		文と文のつながりに注意して、適切な英文を選択することができるか。
10		②		中2		○	○		○		91.8%	0.2%		文と文のつながりに注意して、適切な英文を選択することができるか。
11		(1)		中2			○		○		81.7%	0.2%		説明文の概要を捉え、説明されているものを選択することができるか。
12	6	(2)		中2			○		○		90.2%	0.3%		説明文の内容を正確に捉え、適切な絵を選択することができるか。
13		(3)		中2			○		○		93.6%	0.3%		グラフの内容を正しく表す英文を選択することができるか。
14				中2			○		○		93.9%	0.4%		
15	7	(1)		中2			○		○		56.4%	0.4%		まとまりのある英文を読んで、文章の構成を理解することができるか。
16		(2)		中2			○		○		58.9%	0.6%		まとまりのある英文を読んで内容を把握し、適切な文を選択することができるか。
17	8			中2			○	○	○		47.4%	18.3%		書かれた内容に対して、話の内容を捉え、自分の考えを示すことができるか。
18		(1)		中2		○		○	○		79.6%	0.5%		助動詞mustの用法を理解し、正しい語順を答えることができるか。
19	9	(2)		中2		○		○	○		63.7%	0.5%		二つの目的語をとる動詞の用法を理解し、正しい語順を答えることができるか。
20		(3)		中2		○		○	○		66.6%	0.7%		不定詞の副詞的用法を理解し、正しい語順を答えることができるか。
21	10			中1		○		○	○		48.3%	3.8%		対話文中の空所に当てはまる表現を文脈から判断し、適切な英語を用いて表現することができるか。
22		(1)		中1		○		○	○		66.8%	4.7%		与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文や不定詞の名詞的用法などを活用しながら書くことができるか。
23	11	(2)		中1		○		○	○		53.8%	6.6%		
24		(3)		中2		○		○	○		42.9%	8.5%		
25	12	内容		中1・2				○	○		59.1%	11.9%		与えられたテーマについて、情報を整理して書いたり、構成を考えて書いたり、文と文のつながりを示す語句を用いて書いたりしようとしているか。
26		正確						○	○		25.0%	11.9%		
計				問題数	7	9	10	11	16	10				
				出題割合	33.3%	42.9%	47.6%	52.4%	61.5%	38.5%				
											67.8%	3.4%	#DIV/0!	#DIV/0!

(3) 英語 <中学校第2学年>

ア 特徴ある問題から 大問 12

(中学校学習指導要領〔外国語編〕P53 2, (2), ウと関連)

学習指導要領解説の該当箇所に身に付けさせるべき事項として、「日常的な話題や社会的な話題について、伝える内容を整理し、英語で話したり書いたりして互いに事実や自分の考え、気持ちなどを伝え合うこと。」とあります。本問題では、相手の意向に沿って自分の考えを的確に書くことができるかについて出題したところ、視点 B において平均通過率 25.0%、無答率 11.9%でした。下の解答のポイントや誤答傾向を踏まえ、言語材料の導入や言語活動の在り方、フィードバックの在り方に課題があると考えられます。それらを改善するためのポイントを下の「イ」にまとめました。

あなたの友人でイギリス人のトム (Tom) が、来年度児童会へ立候補しようとして計画しています。あなたは、メールでトムが児童会執行をできるだけ楽しむよう、アドバイスすることになりました。下の情報をもとに、条件に従ってメールの本文を書きなさい。

トムに関する情報

○ トムの季節は鹿児島に行くのがいいが悩んでおり、教えてほしいと思っている。
 ○ なぜその季節がいいのか、鹿児島で食べられるものやできることなど、その季節がいい理由をこつと以上、具体的に教えてほしいと思っている。

(条件)
 ※ 10 語以上の英語で書くこと。英文は 2 文以上になってもかまいません。
 ※ 疑問形 (I'm や don't など) は 1 語と数え、符号 (、 や ? など) は語数に含めません。
 (例) No, I'm not. [3 語]
 ※ 下の枠は、下書きに使ってもかまいません。

Hi, Tom. I'm going to tell you my idea.

_____ 10

_____ 20

_____ 30

〔解答のポイント〕

- 1 書く内容について、自分なりの発想があったか。
- 2 発想した内容は適切であったか。
- 3 発想したことについて、適切な英語で表現できたか。

〔誤答傾向 (予測) 〕

- ・ 自分が書ける英語の範囲内の文が思いつかない。
- ・ 書いている内容が不自然になっている。
- ・ つづりや文法的なルールに関する事項が定着していない。



二次元コードを読み取り、「県総合教育センター『学びの地図』に掲載中の鹿児島学習定着度調査解説動画」を見てみよう!

イ 授業改善のポイント

課題が見られた主な問題 大問 12 ライティング問題

1 言語材料は場面や文脈の中で導入し「使い方」も理解させる

部分を取り出して形式的にルールやつづりを覚えさせるのではなく、**文脈や場面の中で「使い方」を感じられるように導入**する。その言葉のニュアンスを感じるような目的・場面・状況がある言語活動を行わせ、使う感覚を伴った習得をめざす。

2 例文を示さずに使わせる

例文を見たままいくら繰り返しても、効果的な定着は望めない。**思い出させながら繰り返し使用させる**ことが大切である。キーワード等を示す場合は、「**示しすぎ**」に注意することが必要である。始めは示していても、徐々に取り除いて最終的には自分の力で表現させることを積み上げるようにする。その際、個に応じて途中の取り組み方や最終的な表現に差があることに考慮し、個別最適な学びを意識した取組を行う。

課題が見られた主な問題 大問 12 ライティング問題

3 指導した単元以降の単元で使わせる際の指導を工夫する

繰り返し既習表現を使わせる視点として、次単元以降で**機を逸さないよう使わせる**ことを意識する。Task 活動を行っている場合は、その中に使える場を設定する。関連する表現を扱ったり言い換えができたりする場合は少しでも触れておく。その際、形式的なことだけでなく、**ニュアンスを含む「使い方」を思い出せるような工夫**をする。

4 フィードバックを工夫し正確性を上げる

書く活動を重ねる中においては、まずは大きなエラーから自分で修正できるよう指導し次第に小さなエラーまでなくなることを目指し、徐々に正確性を上げるよう指導する。その際、**生徒の気付きを促しながら指導**し、最終的に生徒が自らエラーに気付き、修正ができるようになることを目指したフィードバック (明示的・暗示的) の工夫をする。併せて、表現の「正確さ」と「流暢さ」のバランスについては、生徒の意欲等を踏まえて上手にコントロールする。

単語や基本文はそれだけを切り離して唐突に単独で扱わずに、本文の流れの中で出会わせて、まず文脈の中で扱い、そこから必要に応じて取り出して掘り下げましょう。活動をさせる際は、始めはワークシートや○○カード等の補助があってもいいですが、徐々に取り除きながら最終的には生徒が自分で活動できるようにしましょう。示しすぎや補助の常態化は、生徒の自走の妨げになっている可能性があるため要注意です。

定着に向けては繰り返しが鍵になりますが、既習の内容は教師が工夫しないと出てこないの得意図的に繰り返しを生み出しましょう。正確性を上げ、生徒が自分で修正できることを目指して、明示的にはっきりと修正する場面や暗示的に気付かせる場面等を組み合わせるフィードバックを工夫しましょう。その際、正確さを気にする余り表現が滞ることは避けるようバランスをとることに留意しましょう。

<引用・参考文献>

- 文部科学省 「小学校学習指導要領(平成29年告示)」 2017年
- 文部科学省 「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説」 2017年
- 文部科学省 「中学校学習指導要領(平成29年告示)」 2017年
- 文部科学省 「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説」 2017年
- 三宮真智子 「メタ認知」 2022年 中央公論新社
- 中室 牧子 「『学力』の経済学」 2015年 ディスカヴァー・トゥエンティワン

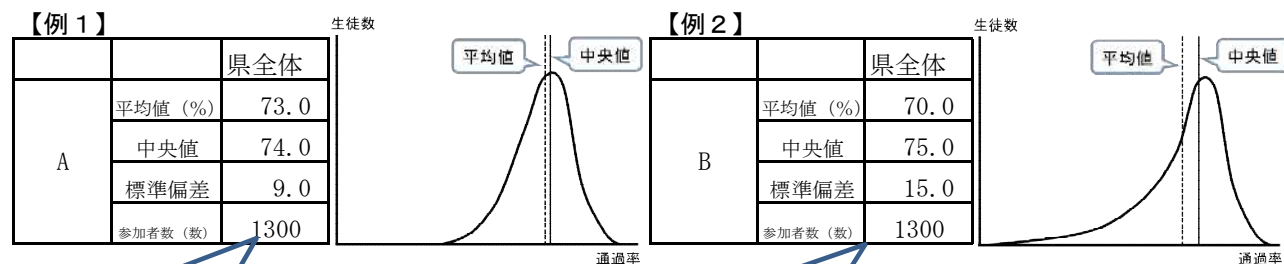
【参考資料】 地区別の平均通過率

各地区の平均値のみではなく、標準偏差と中央値を示しました。各地区においては、平均値のみでは把握しきれない児童生徒の実態を考察し、今後の指導に生かしていただきたいと考えます。

【語句の説明】

「標準偏差」は平均値を基準とした、データのちらばり具合を表した数。

「中央値」はデータを大きい順に並び替えたときに、ちょうど真ん中に位置する値。



平均値と中央値がほぼ同じで、標準偏差も小さいため、度数分布で表したとき、ちらばりの幅の少ない山になり、平均値付近に児童生徒が多いことが分かる。

中央値が平均値より上にあり、標準偏差も大きいため、平均値以上の児童生徒が多いことを表している。度数分布で表した時、ちらばりの幅が大きい裾野の広い山になる。

(1) 小学校第5学年

		県全体	鹿児島市	鹿児島	南薩	北薩	始良・伊佐	大隅	熊毛	大島
国語	平均値 (%)	70.9%	70.6%	70.6%	69.9%	70.3%	71.6%	70.6%	74.3%	72.3%
	中央値	73.7	73.7	73.7	73.7	73.7	73.7	73.7	78.9	73.7
	標準偏差	18.2	18.4	18.1	17.8	18.0	17.7	18.8	17.6	17.9
	参加者数 (人)	13167	5048	616	838	1562	2032	1850	321	900
社会	平均値 (%)	77.5%	76.7%	77.2%	75.3%	77.3%	78.6%	77.8%	80.5%	80.3%
	中央値	81.5	81.5	81.5	81.5	81.5	85.2	81.5	85.2	85.2
	標準偏差	19.8	20.1	19.5	20.5	19.8	19.3	19.5	17.2	19.0
	参加者数 (人)	13198	5031	613	843	1573	2032	1860	327	919
算数	平均値 (%)	67.4%	67.1%	68.7%	66.4%	66.8%	67.8%	66.6%	71.2%	69.6%
	中央値	68.8	68.8	75.0	68.8	68.8	68.8	68.8	75.0	75.0
	標準偏差	21.1	21.1	20.5	21.4	21.2	20.9	21.2	18.6	20.8
	参加者数 (人)	13195	5041	613	834	1574	2033	1858	324	918
理科	平均値 (%)	71.7%	70.8%	71.9%	70.1%	70.9%	73.6%	71.5%	78.4%	72.6%
	中央値	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	80.0	75.0	80.0	75.0
	標準偏差	20.8	21.2	19.6	21.3	20.4	20.5	20.9	18.2	20.6
	参加者数 (人)	13180	5048	616	840	1562	2036	1851	323	904

(2) 中学校第1学年

		県全体	鹿児島市	鹿児島	南薩	北薩	始良・伊佐	大隅	熊毛	大島
国語	平均値 (%)	70.4%	71.1%	71.0%	71.2%	68.9%	70.4%	69.0%	74.2%	70.3%
	中央値	70.8	75.0	70.8	75.0	70.8	75.0	70.8	79.2	70.8
	標準偏差	17.2	17.2	17.0	16.8	16.7	17.2	17.7	16.5	17.0
	参加者数 (人)	12198	4631	550	802	1479	1841	1833	269	793
社会	平均値 (%)	68.4%	69.4%	68.9%	66.5%	71.2%	67.5%	64.4%	71.2%	68.3%
	中央値	70.4	74.1	70.4	70.4	74.1	70.4	66.7	74.1	70.4
	標準偏差	19.5	19.8	18.4	19.2	18.6	19.1	20.5	18.7	18.7
	参加者数 (人)	12295	4649	554	809	1502	1844	1856	266	815
数学	平均値 (%)	70.9%	72.3%	71.1%	68.9%	68.7%	69.8%	69.9%	74.1%	71.1%
	中央値	73.7	73.7	73.7	73.7	73.7	73.7	73.7	78.9	73.7
	標準偏差	22.4	22.4	22.2	22.2	22.6	22.3	22.6	20.2	22.0
	参加者数 (人)	12229	4628	549	803	1489	1844	1843	265	808
理科	平均値 (%)	63.2%	64.0%	63.8%	65.1%	63.6%	61.0%	60.9%	66.0%	63.3%
	中央値	62.5	66.7	66.7	66.7	66.7	58.3	62.5	68.8	66.7
	標準偏差	20.4	20.9	20.2	19.4	19.6	20.4	20.7	19.7	19.8
	参加者数 (人)	12257	4661	552	805	1489	1845	1832	268	805
英語	平均値 (%)	75.7%	77.2%	74.7%	74.3%	74.4%	75.8%	73.2%	77.0%	76.0%
	中央値	78.3	82.6	78.3	78.3	78.3	78.3	78.3	82.6	78.3
	標準偏差	19.1	19.7	19.1	18.1	18.4	18.5	19.5	17.1	18.2
	参加者数 (人)	12228	4619	552	807	1486	1842	1851	265	806

(3) 中学校第2学年

		県全体	鹿児島市	鹿児島	南薩	北薩	始良・伊佐	大隅	熊毛	大島
国語	平均値 (%)	71.0%	71.8%	73.0%	68.1%	70.6%	71.0%	69.5%	77.4%	68.2%
	中央値	74.1	77.8	77.8	70.4	74.1	74.1	74.1	81.5	74.1
	標準偏差	19.3	19.4	17.8	20.8	18.4	19.4	18.8	16.4	20.6
	参加者数 (人)	12184	4587	625	842	1409	1888	1704	279	850
社会	平均値 (%)	54.9%	56.0%	56.3%	50.3%	54.9%	54.1%	54.1%	58.6%	54.6%
	中央値	55.6	59.3	55.6	51.9	55.6	55.6	55.6	59.3	55.6
	標準偏差	21.7	22.3	21.5	21.5	21.5	21.1	20.4	20.7	21.6
	参加者数 (人)	12180	4614	620	844	1407	1880	1693	276	846
数学	平均値 (%)	72.6%	73.7%	72.8%	69.4%	71.4%	71.8%	72.4%	78.3%	71.0%
	中央値	75.0	80.0	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	85.0	75.0
	標準偏差	20.6	20.4	19.5	21.2	20.2	21.1	20.9	18.2	20.4
	参加者数 (人)	12156	4587	616	840	1408	1883	1697	277	848
理科	平均値 (%)	62.5%	63.1%	63.5%	63.1%	61.3%	60.9%	62.4%	67.3%	60.6%
	中央値	65.2	65.2	65.2	65.2	65.2	60.9	65.2	69.6	60.9
	標準偏差	22.4	22.9	22.4	22.6	21.8	22.8	22.4	22.3	22.8
	参加者数 (人)	12228	4604	625	836	1425	1898	1699	281	860
英語	平均値 (%)	67.8%	69.4%	72.2%	66.6%	66.4%	66.4%	66.0%	69.4%	65.4%
	中央値	69.2	73.1	76.9	69.2	69.2	69.2	65.4	73.1	69.2
	標準偏差	21.8	22.0	20.8	21.3	21.1	21.8	21.5	21.3	21.8
	参加者数 (人)	12153	4595	618	835	1407	1882	1692	276	848

※令和3年度は各学校の平均通過率を基に、令和4年度は児童生徒一人一人の平均通過率を基に標準偏差を算出している。

【参考資料】 令和4年度鹿児島学習定着度調査 児童生徒質問紙集計（県全体）

※ 割合のため必ずしも合計が100%にはなりません。全体の傾向として御活用ください。

1 あなた自身のことについて、当てはまるものを選んでください。

(1) 学校の授業はよくわかりますか。

教科ごとに一つ選んでください。

- ① よくわかる
- ② まあまあわかる
- ③ あまりわからない
- ④ わからない

国語	小5	中1	中2
①	42.4%	32.9%	27.3%
②	52.4%	59.2%	60.8%
③	4.5%	6.7%	10.0%
④	0.8%	1.2%	1.9%

社会	小5	中1	中2
①	47.7%	38.6%	38.1%
②	43.5%	44.8%	47.3%
③	7.7%	14.0%	12.0%
④	1.1%	2.6%	2.6%

算・数	小5	中1	中2
①	50.7%	33.7%	31.9%
②	37.3%	44.3%	44.2%
③	9.8%	17.4%	18.7%
④	2.2%	4.7%	5.2%

理科	小5	中1	中2
①	54.2%	35.5%	33.2%
②	38.0%	48.7%	50.3%
③	6.2%	12.9%	13.8%
④	1.6%	2.9%	2.8%

外国語	小5	中1	中2
①		33.8%	28.6%
②		40.7%	41.5%
③		18.7%	21.7%
④		6.8%	8.2%

(2) 学校の勉強は、大切だと思いますか。

教科ごとに一つ選んでください。

- ① 当てはまる
- ② どちらかといえば当てはまる
- ③ どちらかといえば当てはまらない
- ④ 当てはまらない

国語	小5	中1	中2
①	69.2%	65.0%	58.8%
②	28.0%	31.4%	36.1%
③	2.2%	2.9%	3.9%
④	0.7%	0.8%	1.2%

社会	小5	中1	中2
①	73.4%	51.4%	43.7%
②	23.2%	38.7%	44.6%
③	2.8%	8.2%	9.7%
④	0.6%	1.7%	2.0%

算・数	小5	中1	中2
①	77.1%	64.7%	56.6%
②	19.6%	29.2%	34.8%
③	2.4%	4.7%	6.8%
④	0.8%	1.3%	1.8%

理科	小5	中1	中2
①	52.8%	41.5%	38.3%
②	36.3%	43.8%	46.8%
③	8.5%	12.0%	12.2%
④	2.4%	2.7%	2.6%

外国語	小5	中1	中2
①		67.4%	63.7%
②		25.2%	28.0%
③		5.0%	5.7%
④		2.4%	2.5%

(3) 学校の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。

教科ごとに一つ選んでください。

- ① 当てはまる
- ② どちらかといえば当てはまる
- ③ どちらかといえば当てはまらない
- ④ 当てはまらない

国語	小5	中1	中2
①	65.9%	59.3%	53.0%
②	29.5%	35.1%	39.1%
③	3.8%	4.4%	6.5%
④	0.8%	1.1%	1.4%

社会	小5	中1	中2
①	72.5%	45.7%	37.0%
②	22.9%	39.2%	43.8%
③	3.8%	12.4%	16.1%
④	0.8%	2.7%	3.1%

算・数	小5	中1	中2
①	74.8%	59.5%	49.6%
②	20.8%	30.7%	35.6%
③	3.4%	7.7%	11.4%
④	1.0%	2.1%	3.4%

理科	小5	中1	中2
①	43.5%	32.1%	29.2%
②	38.2%	43.1%	44.1%
③	14.1%	19.9%	21.6%
④	4.1%	4.9%	5.2%

外国語	小5	中1	中2
①		68.1%	65.8%
②		23.0%	24.6%
③		6.0%	6.7%
④		2.9%	3.0%

(4) 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）。

- ① している
- ② どちらかといえばしている
- ③ あまりしていない
- ④ 全くしていない

	小5	中1	中2
①	30.1%	19.5%	15.1%
②	38.6%	41.0%	38.5%
③	25.9%	32.2%	36.8%
④	5.5%	7.3%	9.6%

(5) 新しいことを勉強するとき、今までに勉強したことと関係があるかどうかを考えながら勉強していますか。

- ① している
- ② どちらかといえばしている
- ③ あまりしていない
- ④ 全くしていない

	小5	中1	中2
①	31.6%	21.3%	18.9%
②	42.1%	40.3%	38.5%
③	22.2%	31.3%	34.1%
④	4.1%	7.1%	8.6%

(6) 勉強のやり方が、自分に合っているかどうかを考えながら勉強していますか。

- ① している
- ② どちらかといえばしている
- ③ あまりしていない
- ④ 全くしていない

	小5	中1	中2
①	35.4%	27.2%	26.6%
②	38.3%	36.8%	36.0%
③	21.1%	28.2%	28.5%
④	5.2%	7.8%	8.9%

(7) 勉強していて大切だと思ったところは、言われなくてもノートにまとめていますか。

- ① している
- ② どちらかといえばしている
- ③ あまりしていない
- ④ 全くしていない

	小5	中1	中2
①	35.7%	31.6%	29.1%
②	35.3%	37.0%	36.2%
③	23.9%	25.6%	27.9%
④	5.1%	5.9%	6.8%

(8) これまでに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

- ① している
- ② どちらかといえばしている
- ③ あまりしていない
- ④ 全くしていない

	小5	中1	中2
①	29.1%	22.7%	20.5%
②	50.5%	51.8%	52.2%
③	17.5%	21.7%	23.0%
④	2.8%	3.8%	4.3%

(9) これまでに受けた授業は、自分にあった教え方、学習内容、学習時間などになっていましたか。

- ① している
- ② どちらかといえばしている
- ③ あまりしていない
- ④ 全くしていない

	小5	中1	中2
①	40.4%	24.6%	19.1%
②	48.2%	56.9%	58.8%
③	9.8%	15.6%	18.5%
④	1.7%	2.9%	3.6%

(10) 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。

- ① している
- ② どちらかといえばしている
- ③ あまりしていない
- ④ 全くしていない

	小5	中1	中2
①	47.6%	45.7%	44.2%
②	40.0%	42.5%	43.6%
③	10.4%	9.8%	9.9%
④	1.9%	2.0%	2.3%

(11) 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。

- ① している
- ② どちらかといえばしている
- ③ あまりしていない
- ④ 全くしていない

	小5	中1	中2
①	36.3%	28.5%	25.4%
②	46.0%	48.3%	49.5%
③	14.9%	19.8%	21.0%
④	2.8%	3.3%	4.1%

(12) 自分には、よいところがあると思いますか。

- ① している
- ② どちらかといえばしている
- ③ あまりしていない
- ④ 全くしていない

	小5	中1	中2
①	36.0%	29.4%	28.2%
②	41.2%	44.0%	45.6%
③	15.0%	17.9%	18.2%
④	7.8%	8.7%	8.0%

(13) 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。

- ① している
- ② どちらかといえばしている
- ③ あまりしていない
- ④ 全くしていない

	小5	中1	中2
①	44.6%	35.3%	34.1%
②	41.7%	48.5%	50.2%
③	9.7%	11.9%	11.8%
④	3.9%	4.3%	3.9%

(14) 自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか。

- ① している
- ② どちらかといえばしている
- ③ あまりしていない
- ④ 全くしていない

	小5	中1	中2
①	46.0%	41.7%	42.2%
②	43.5%	46.4%	46.4%
③	9.0%	10.0%	9.7%
④	1.5%	1.9%	1.7%

(15) 難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか。

- ① している
- ② どちらかといえばしている
- ③ あまりしていない
- ④ 全くしていない

	小5	中1	中2
①	35.2%	26.1%	24.5%
②	43.2%	45.6%	46.5%
③	17.8%	22.9%	24.1%
④	3.7%	5.4%	4.9%

2 次のような授業で学んでいてどのように感じるか、当てはまるものを選んでください。

(1) 先生の説明の時間が多い授業

- ① とてもやりがいを感じる
- ② やりがいを感じる
- ③ あまりやりがいを感じない
- ④ やりがいを感じる感じない

	小5	中1	中2
①	22.2%	9.9%	7.8%
②	53.6%	45.3%	38.0%
③	19.7%	36.3%	43.0%
④	4.5%	8.4%	11.2%

(2) 自分たちで考えたり、話し合ったりする授業

- ① とてもやりがいを感じる
- ② やりがいを感じる
- ③ あまりやりがいを感じない
- ④ やりがいを感じる感じない

	小5	中1	中2
①	42.2%	39.8%	39.0%
②	47.8%	49.6%	50.6%
③	8.6%	8.9%	8.6%
④	1.4%	1.7%	1.8%

(3) 自分たちが発表したり、友達の発表を聞いたりすることが多い授業

- ① とてもやりがいを感じる
- ② やりがいを感じる
- ③ あまりやりがいを感じない
- ④ やりがいを感じる感じない

	小5	中1	中2
①	39.2%	28.7%	24.6%
②	48.9%	54.8%	55.9%
③	10.2%	14.1%	16.4%
④	1.7%	2.4%	3.1%

(4) 難しい課題に挑戦する授業

- ① とてもやりがいを感じる
- ② やりがいを感じる
- ③ あまりやりがいを感じない
- ④ やりがいを感じる感じない

	小5	中1	中2
①	44.1%	35.7%	32.2%
②	41.8%	46.0%	47.7%
③	11.6%	15.1%	16.7%
④	2.5%	3.2%	3.4%

(5) 自分たちで調べて、課題を解決する授業

- ① とてもやりがいを感じる
- ② やりがいを感じる
- ③ あまりやりがいを感じない
- ④ やりがいを感じる感じない

	小5	中1	中2
①	45.3%	41.2%	39.4%
②	44.6%	47.6%	49.3%
③	8.5%	9.6%	9.5%
④	1.5%	1.6%	1.8%

(6) タブレットやパソコン、電子黒板等を活用した授業

- ① とてもやりがいを感じる
- ② やりがいを感じる
- ③ あまりやりがいを感じない
- ④ やりがいを感じる感じない

	小5	中1	中2
①	49.8%	39.2%	38.3%
②	39.6%	46.1%	47.2%
③	8.9%	12.3%	12.1%
④	1.7%	2.4%	2.4%

3 授業で、タブレットやパソコン、電子黒板等をどれくらい活用していますか。教科ごとに一つ選んでください。

- ① ほぼ毎日使用している
- ② 週2, 3回程度使用している
- ③ 週1回程度使用している
- ④ ほとんど使用していない
- ⑤ 全く使用していない

国語	小5	中1	中2
①	32.3%	18.5%	16.3%
②	31.4%	15.2%	14.4%
③	15.7%	12.8%	12.6%
④	17.0%	29.2%	34.0%
⑤	3.5%	24.3%	22.7%

社会	小5	中1	中2
①	34.4%	41.0%	36.2%
②	27.4%	10.6%	11.4%
③	16.4%	7.1%	10.1%
④	17.8%	20.1%	25.9%
⑤	4.0%	21.3%	16.4%

算・数	小5	中1	中2
①	29.9%	27.8%	21.9%
②	21.1%	11.5%	9.5%
③	14.0%	9.0%	6.7%
④	24.9%	27.7%	28.5%
⑤	10.1%	23.9%	33.4%

理科	小5	中1	中2
①	26.0%	27.6%	27.5%
②	23.5%	14.1%	13.9%
③	17.2%	11.5%	11.6%
④	23.8%	28.1%	27.8%
⑤	9.5%	18.7%	19.1%

外国語	小5	中1	中2
①		42.1%	43.5%
②		11.9%	14.3%
③		9.5%	12.1%
④		20.3%	20.4%
⑤		16.2%	9.6%

4 昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか。

- ① だいたい週に4回以上行く。
- ② 週に1～3回程度行く。
- ③ 月に1～3回程度行く。
- ④ 年に数回程度行く。
- ⑤ ほとんど、または、全く行かない。

	小5	中1	中2
①	7.2%	5.2%	4.5%
②	28.2%	19.0%	15.4%
③	21.6%	24.9%	21.2%
④	19.4%	20.5%	23.1%
⑤	23.6%	30.5%	35.7%

5 家庭で、インターネットを利用した遊び（スマートフォンのアプリ、ゲーム、SNS、音楽、動画、画像等を見るなど）を、1日当たりどれくらいの時間していますか。平日及び休みの日ごとに一つ選んでください。

- ① していない。
- ② 30分より少ない。
- ③ 30分以上1時間より少ない。
- ④ 1時間以上2時間より少ない。
- ⑤ 2時間以上3時間より少ない。
- ⑥ 3時間以上4時間より少ない。
- ⑦ 4時間以上5時間より少ない。
- ⑧ 5時間以上。

平日	小5	中1	中2
①	9.7%	6.2%	4.2%
②	13.1%	8.6%	6.2%
③	21.5%	17.3%	14.3%
④	23.6%	28.8%	29.9%
⑤	14.5%	19.3%	23.2%
⑥	7.7%	9.6%	11.1%
⑦	4.3%	4.5%	4.8%
⑧	5.6%	5.7%	6.2%

休みの日	小5	中1	中2
①	4.6%	3.0%	2.0%
②	7.0%	3.3%	2.4%
③	12.2%	6.9%	5.0%
④	20.0%	15.3%	13.2%
⑤	17.9%	22.3%	22.4%
⑥	12.6%	17.2%	20.3%
⑦	8.8%	10.4%	11.4%
⑧	16.9%	21.7%	23.3%

6 家庭で、インターネットを利用した学習（タブレットやパソコンのできるドリル練習、検索サイトを使った調べ学習など）を、1日当たりどれくらいの時間していますか。平日及び休みの日ごとに一つ選んでください。

- ① していない。
- ② 30分より少ない。
- ③ 30分以上1時間より少ない。
- ④ 1時間以上2時間より少ない。
- ⑤ 2時間以上3時間より少ない。
- ⑥ 3時間以上4時間より少ない。
- ⑦ 4時間以上5時間より少ない。
- ⑧ 5時間以上。

平日	小5	中1	中2
①	38.3%	45.3%	46.6%
②	28.3%	24.1%	24.6%
③	19.8%	17.4%	16.0%
④	8.5%	8.6%	8.2%
⑤	2.7%	2.7%	2.7%
⑥	1.0%	0.9%	0.9%
⑦	0.6%	0.4%	0.5%
⑧	0.8%	0.7%	0.5%

休みの日	小5	中1	中2
①	42.4%	46.1%	47.5%
②	26.0%	21.9%	23.0%
③	16.4%	16.1%	14.3%
④	8.4%	9.2%	8.8%
⑤	3.3%	3.9%	3.8%
⑥	1.5%	1.4%	1.3%
⑦	0.8%	0.5%	0.5%
⑧	1.4%	1.0%	0.8%

【参考資料】 令和4年度鹿児島学習定着度調査 学校質問紙集計（県全体）

小学校	470	中学校	209
-----	-----	-----	-----

※ 割合のため必ずしも合計が100%にはなりません。全体の傾向として御活用ください。

1 学力向上の取組

(1) 調査対象学年の生徒に対して、学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組を行いましたか。

- ① よく行った
- ② どちらかといえば行った
- ③ あまり行わなかった
- ④ 全く行わなかった

	小	中
①	72.2%	63.7%
②	27.8%	36.3%
③	0.0%	0.0%
④	0.0%	0.0%

(2) 調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか。

- ① よく行った
- ② どちらかといえば行った
- ③ あまり行わなかった
- ④ 全く行わなかった

	小	中
①	36.4%	21.6%
②	59.3%	75.3%
③	4.2%	3.2%
④	0.0%	0.0%

(3) 調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。

- ① よく行った
- ② どちらかといえば行った
- ③ あまり行わなかった
- ④ 全く行わなかった

	小	中
①	37.3%	30.0%
②	57.6%	64.7%
③	5.1%	5.3%
④	0.0%	0.0%

(4) 調査対象学年の児童に対して、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか。

- ① よく行った
- ② どちらかといえば行った
- ③ あまり行わなかった
- ④ 全く行わなかった

	小	中
①	47.6%	30.0%
②	51.3%	67.4%
③	1.1%	2.6%
④	0.0%	0.0%

(5) 調査対象学年の児童に対して、授業において、児童の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか。

- ① よく行った
- ② どちらかといえば行った
- ③ あまり行わなかった
- ④ 全く行わなかった

	小	中
①	54.9%	32.6%
②	44.2%	66.8%
③	0.9%	0.5%
④	0.0%	0.5%

(6) 調査対象学年の児童に対して、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか。

- ① よく行った
- ② どちらかといえば行った
- ③ あまり行わなかった
- ④ 全く行わなかった

	小	中
①	44.2%	25.8%
②	48.7%	68.9%
③	7.1%	5.3%
④	0.0%	0.0%

(7) 調査対象学年の児童に対して、児童のよい点や改善点等を積極的に評価し、学習したことの意味や価値を実感できるようにしましたか。

- ① よく行った
- ② どちらかといえば行った
- ③ あまり行わなかった
- ④ 全く行わなかった

	小	中
①	52.7%	32.6%
②	46.0%	66.3%
③	1.1%	1.1%
④	0.0%	0.0%

(8) 教員同士で互いの授業を自由に参観し、授業改善に向けた意見交換を行っていますか。

- ① よく行った
- ② どちらかといえば行った
- ③ あまり行わなかった
- ④ 全く行わなかった

	小	中
①	36.9%	25.8%
②	48.7%	58.9%
③	14.2%	15.3%
④	0.2%	0.0%

(9) 調査対象学年の児童に対して、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか。

- ① よく行った
- ② どちらかといえば行った
- ③ あまり行わなかった
- ④ 全く行わなかった

	小	中
①	71.3%	50.0%
②	27.6%	44.7%
③	1.1%	4.7%
④	0.0%	0.5%

(10) 調査対象学年の児童が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。

- ① よく行った
- ② どちらかといえば行った
- ③ あまり行わなかった
- ④ 全く行わなかった

	小	中
①	75.8%	48.4%
②	23.8%	47.9%
③	0.4%	3.7%
④	0.0%	0.0%

(11) 調査対象学年の児童が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。

- ① よく行った
- ② どちらかといえば行った
- ③ あまり行わなかった
- ④ 全く行わなかった

	小	中
①	55.1%	31.1%
②	40.0%	56.8%
③	4.9%	12.1%
④	0.0%	0.0%

(12) 教職員と調査対象学年の児童がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。

- ① よく行った
- ② どちらかといえば行った
- ③ あまり行わなかった
- ④ 全く行わなかった

	小	中
①	53.1%	26.8%
②	38.4%	56.8%
③	8.4%	16.3%
④	0.0%	0.0%

(13) 調査対象学年の児童同士がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。

- ① よく行った
- ② どちらかといえば行った
- ③ あまり行わなかった
- ④ 全く行わなかった

	小	中
①	37.8%	17.9%
②	44.9%	55.8%
③	16.2%	25.3%
④	1.1%	1.1%

(14) 児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか。

- ① よく行った
- ② どちらかといえば行った
- ③ あまり行わなかった
- ④ 全く行わなかった

	小	中
①	12.7%	8.9%
②	37.3%	22.1%
③	27.1%	43.7%
④	22.9%	25.3%

(15) 児童は、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、家庭におけるオンラインを活用した学習にどの程度活用していますか。

- ① よく行った
- ② どちらかといえば行った
- ③ あまり行わなかった
- ④ 全く行わなかった

	小	中
①	8.0%	4.7%
②	25.8%	20.0%
③	32.9%	42.1%
④	33.3%	33.2%

(16) 児童は、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、児童のスタディ・ログを活用した学習状況等の確認にどの程度活用していますか。

- ① よく行った
- ② どちらかといえば行った
- ③ あまり行わなかった
- ④ 全く行わなかった

	小	中
①	12.2%	4.7%
②	41.6%	35.3%
③	36.4%	47.9%
④	9.8%	12.1%

(17) 教員は、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、児童の特性・学習進度等に応じた指導にどの程度活用していますか。

- ① よく行った
- ② どちらかといえば行った
- ③ あまり行わなかった
- ④ 全く行わなかった

	小	中
①	30.0%	14.2%
②	58.2%	55.8%
③	10.7%	27.9%
④	1.1%	2.1%

(18) 児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、不登校児童に対する学習活動等の支援にどの程度活用していますか。

- ① よく行った
- ② どちらかといえば行った
- ③ あまり行わなかった
- ④ 全く行わなかった

	小	中
①	15.6%	10.5%
②	26.0%	35.3%
③	21.8%	36.3%
④	36.7%	17.9%

(19) 児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、特別な支援を要する児童に対する学習活動等の支援にどの程度活用していますか。

- ① よく行った
- ② どちらかといえば行った
- ③ あまり行わなかった
- ④ 全く行わなかった

	小	中
①	32.9%	19.5%
②	53.3%	54.2%
③	8.9%	23.2%
④	4.9%	3.2%

2 全国学力・学習状況調査結果分析の職員研修実施月（令和4年度結果公表以降に校内で最初の分析を行った研修月）

年度	実施月			
	8月	9月	10月	11月
小学校	80.0%	13.8%	4.1%	2.0%
中学校	82.3%	11.8%	3.8%	2.2%

3 全国学力・学習状況調査実施後の分析方法等

項目		行っている	どちらかといえば行っている	どちらかといえば行っていない	行っていない
小学校	文部科学省（一次資料）のデータを分析した。	73.8%	24.2%	1.6%	0.4%
	経年、学級間や他調査を生かした追跡調査などを作成（二次資料）して分析した。	59.1%	34.4%	6.0%	0.4%
	分析結果から2学期以降取り組むべき具体的な対応策や目標を設定した。	74.9%	24.4%	0.7%	0.0%
中学校	文部科学省（一次資料）のデータを分析した。	67.4%	31.6%	1.1%	0.0%
	経年、学級間や他調査を生かした追跡調査などを作成（二次資料）して分析した。	47.4%	43.2%	8.9%	0.5%
	分析結果から2学期以降取り組むべき具体的な対応策や目標を設定した。	66.8%	32.1%	1.1%	0.0%

4 かごしま学力向上支援Webシステム単元・領域別評価問題の活用状況

(1) 活用頻度

- ① よく活用している
- ② どちらかといえば活用している
- ③ あまり活用していない
- ④ 全く活用していない

国語	小	中
①	50.7%	34.2%
②	44.2%	58.4%
③	4.9%	7.4%
④	0.2%	0.0%

社会	小	中
①	46.0%	35.3%
②	47.1%	60.0%
③	6.7%	4.7%
④	0.2%	0.0%

算・数	小	中
①	55.1%	33.7%
②	40.2%	61.1%
③	4.4%	5.3%
④	0.2%	0.0%

理科	小	中
①	48.0%	35.3%
②	45.8%	59.5%
③	5.8%	5.3%
④	0.4%	0.0%

英語	小	中
①		35.8%
②		57.4%
③		6.8%
④		0.0%

(2) 活用状況

項目		行っている	どちらかといえば行っている	どちらかといえば行っていない	行っていない
小学校	授業において、身に付けさせたい資質・能力を育成するための学習課題として活用した	36.4%	51.3%	10.7%	1.6%
	授業において、資質・能力が身に付いているかを確認するための評価問題として活用した	33.1%	50.0%	12.9%	4.0%
	定着が十分でない学習内容について定着を図るための補充問題として活用した	55.6%	37.8%	6.4%	0.2%
	自主的な学習の教材として宿題等に活用した	52.7%	36.0%	10.2%	1.1%
中学校	授業において、身に付けさせたい資質・能力を育成するための学習課題として活用した	33.2%	54.7%	12.1%	0.0%
	授業において、資質・能力が身に付いているかを確認するための評価問題として活用した	36.8%	54.2%	8.9%	0.0%
	定着が十分でない学習内容について定着を図るための補充問題として活用した	37.9%	57.4%	4.7%	0.0%
	自主的な学習の教材として宿題等に活用した	33.7%	50.5%	15.3%	0.5%
	実力試験や定期試験において評価問題として活用した	32.6%	50.5%	16.3%	0.5%

5 全国学力・学習状況調査問題や鹿児島学習定着度調査の調査問題の活用状況

	項目	行っている	どちらかといえば 行っている	どちらかといえば 行っていない	行っていない
小学校	授業において、身に付けさせたい資質・能力を育成するための学習課題として活用した	39.6%	46.9%	11.8%	1.8%
	授業において、資質・能力が身に付いているかを確認するための評価問題として活用した	34.0%	49.6%	13.3%	3.1%
	定着が十分でない学習内容について定着を図るための補充問題として活用した	55.1%	39.3%	5.3%	0.2%
	自主的な学習の教材として宿題等に活用した	48.9%	38.9%	9.1%	3.1%
中学校	授業において、身に付けさせたい資質・能力を育成するための学習課題として活用した	28.4%	60.5%	11.1%	0.0%
	授業において、資質・能力が身に付いているかを確認するための評価問題として活用した	31.1%	62.1%	6.8%	0.0%
	定着が十分でない学習内容について定着を図るための補充問題として活用した	33.2%	58.9%	7.9%	0.0%
	自主的な学習の教材として宿題等に活用した	30.0%	54.7%	13.7%	1.6%
	実力試験や定期試験において評価問題として活用した	24.2%	59.5%	14.2%	2.1%

6 管理職の学力向上に対する取組

	項目	行っている	どちらかといえば 行っている	どちらかといえば 行っていない	行っていない
小学校	校長が示した学校経営方針（学力向上に関する内容）を全職員が理解し、実践しているかを面談等を通じて確認している	86.9%	12.9%	0.0%	0.2%
	自校の学力の現状（全国学力・学習状況調査の本県の状況や経年変化による学力調査結果の推移等）を全職員に具体的に周知し、理解させている	88.2%	11.6%	0.0%	0.2%
	校長、教頭ともに計画的・意図的に授業参観を行い、指導している	75.8%	24.2%	0.0%	0.0%
中学校	校長が示した学校経営方針（学力向上に関する内容）を全職員が理解し、実践しているかを面談等を通じて確認している	82.6%	17.4%	0.0%	0.0%
	自校の学力の現状（全国学力・学習状況調査の本県の状況や経年変化による学力調査結果の推移等）を全職員に具体的に周知し、理解させている	81.1%	18.9%	0.0%	0.0%
	校長、教頭ともに計画的・意図的に授業参観を行い、指導している	63.2%	35.8%	0.5%	0.0%